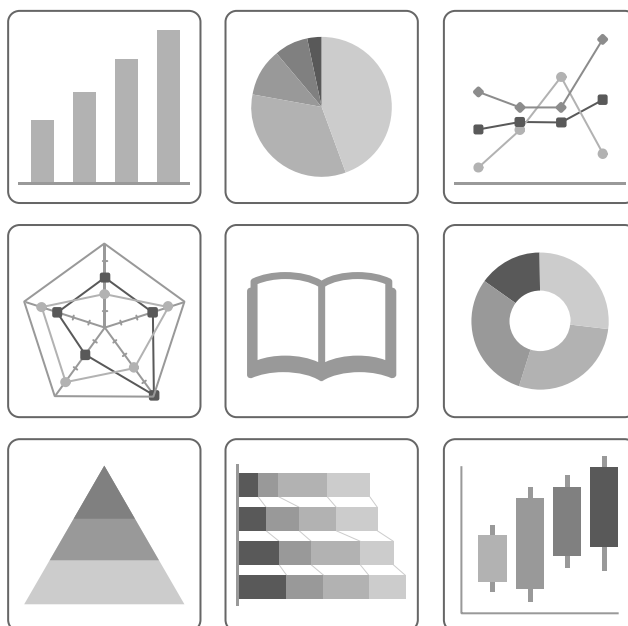


# 岩倉市 男女共同参画に関する市民意識調査 調査結果報告書



令和2年10月

岩 倉 市



# 目次

<b>I</b>	<b>調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1	調査の目的 .....	1
2	調査対象 .....	1
3	調査期間 .....	1
4	調査方法 .....	1
5	回収状況 .....	1
6	調査結果の表示方法 .....	1
<b>II</b>	<b>調査結果</b> .....	<b>2</b>
1	回答者属性 .....	2
2	用語の認知度について .....	4
3	男女の平等感について .....	15
4	DV（ドメスティック・バイオレンス）について .....	32
5	性的少数者について .....	43
6	子育てにおける男女共同参画について .....	49
7	家庭、仕事、地域・個人の生活のバランスについて .....	53
8	男女の働き方について .....	57
9	地域社会について .....	82
10	男女共同参画社会について .....	90



# I 調査の概要

## 1 調査の目的

「岩倉市男女共同参画基本計画」の次期計画策定の基礎資料として、調査を実施するものです。

## 2 調査対象

岩倉市在住の18歳以上の方、2,000人を無作為抽出

## 3 調査期間

令和2年8月13日から令和2年9月4日

## 4 調査方法

郵送による配布・回収

## 5 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
2,000通	496通	24.8%

## 6 調査結果の表示方法

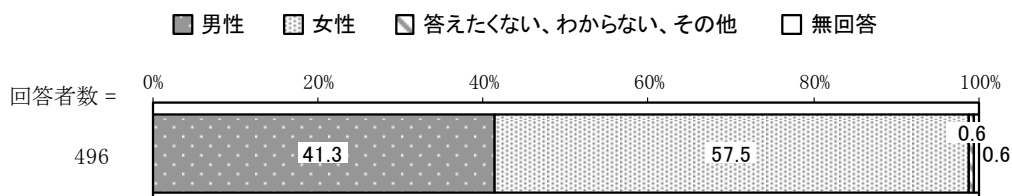
- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。
- ・本文中の「愛知県調査」は、「令和元年度 男女共同参画社会の実現に向けて〔調査報告書〕」、「全国調査」は令和元年度実施の内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」を引用しています。

## II 調査結果

### 1 回答者属性

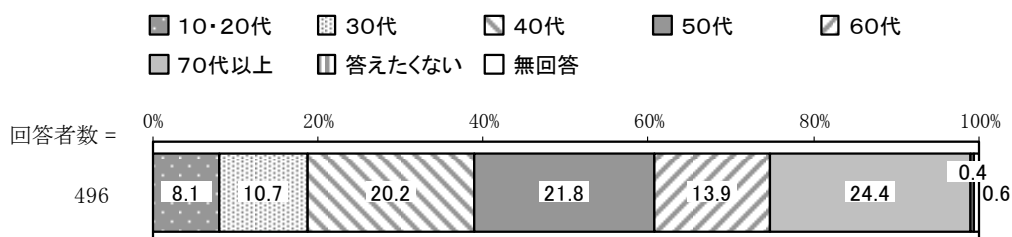
#### A あなたの性別について教えてください。

「男性」の割合が41.3%、「女性」の割合が57.5%となっています。



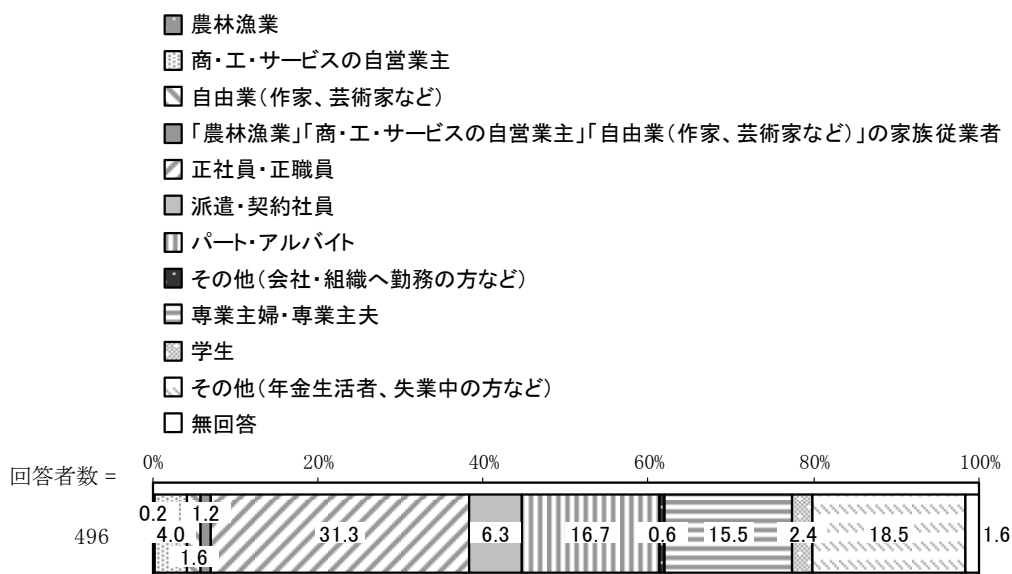
#### B あなたの年代（年齢）を教えてください。

「70代以上」の割合が24.4%と最も高く、次いで「50代」の割合が21.8%、「40代」の割合が20.2%となっています。



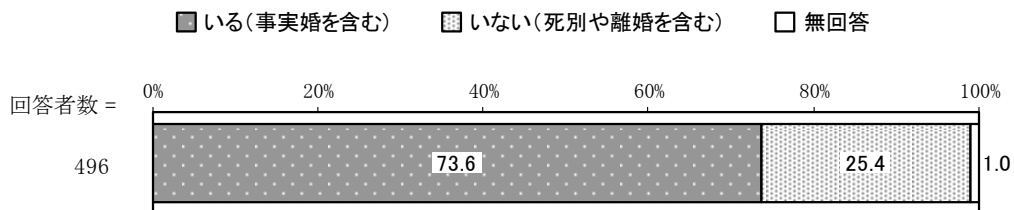
#### C あなたの職業は、次の中のどれに当てはまりますか。1つだけ選んで○をつけてください。

「正社員・正職員」の割合が31.3%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」の割合が16.7%、「専業主婦・専業主夫」の割合が15.5%となっています。



**D あなたに配偶者（パートナー）はいますか。**

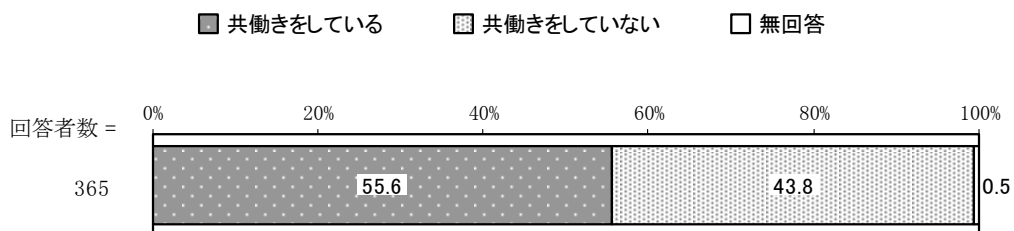
「いる（事実婚を含む）」の割合が73.6%、「いない（死別や離婚を含む）」の割合が25.4%となっています。



Dの質問で「いる（事実婚を含む）」と答えた方にのみお聞きします

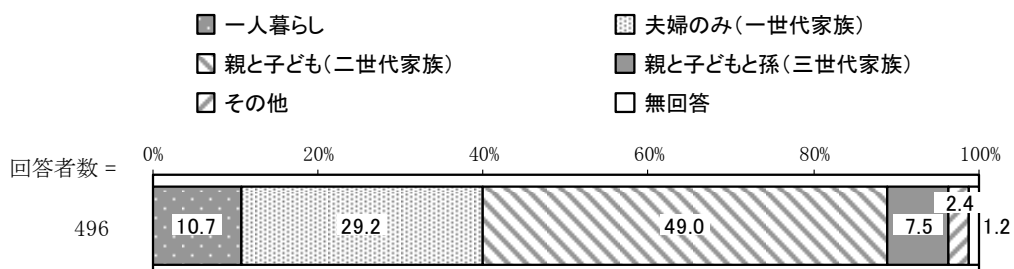
**D-1 あなたと配偶者は、共働き（パート、アルバイトを含む）をしていますか。**

「共働きをしている」の割合が55.6%、「共働きをしていない」の割合が43.8%となっています。



**E あなたの世帯の家族構成はどれに該当しますか。1つだけ選んで○をつけてください。**

「親と子ども（二世世代家族）」の割合が49.0%と最も高く、次いで「夫婦のみ（一世世代家族）」の割合が29.2%、「一人暮らし」の割合が10.7%となっています。

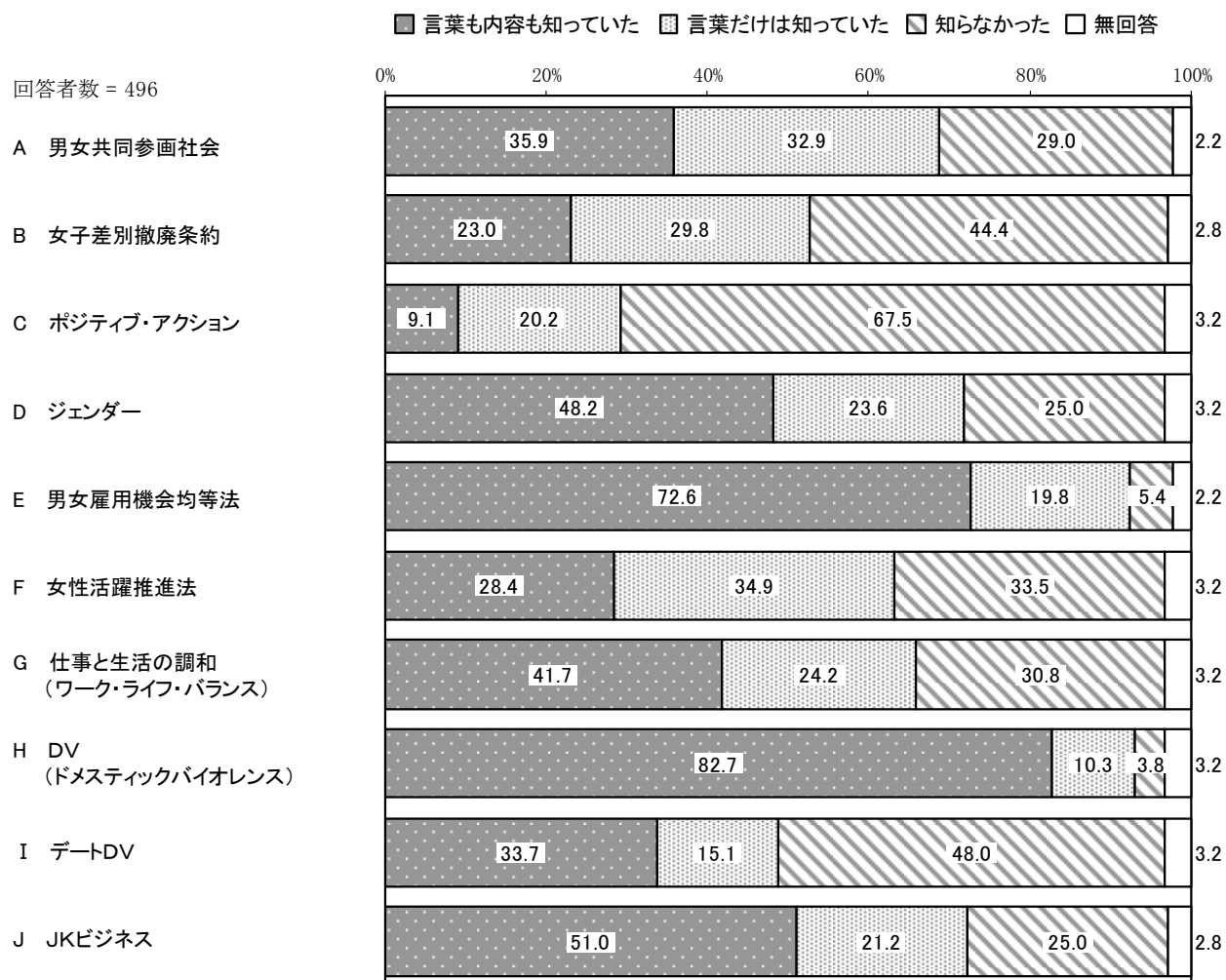


## 2 用語の認知度について

問1 次の用語について知っていましたか。A～Jのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。

『H DV (ドメスティックバイオレンス)』で「言葉も内容も知っていた」の割合が高く、8割を超えています。

また、『C ポジティブ・アクション』で「知らなかった」の割合が高く、約7割となっています。



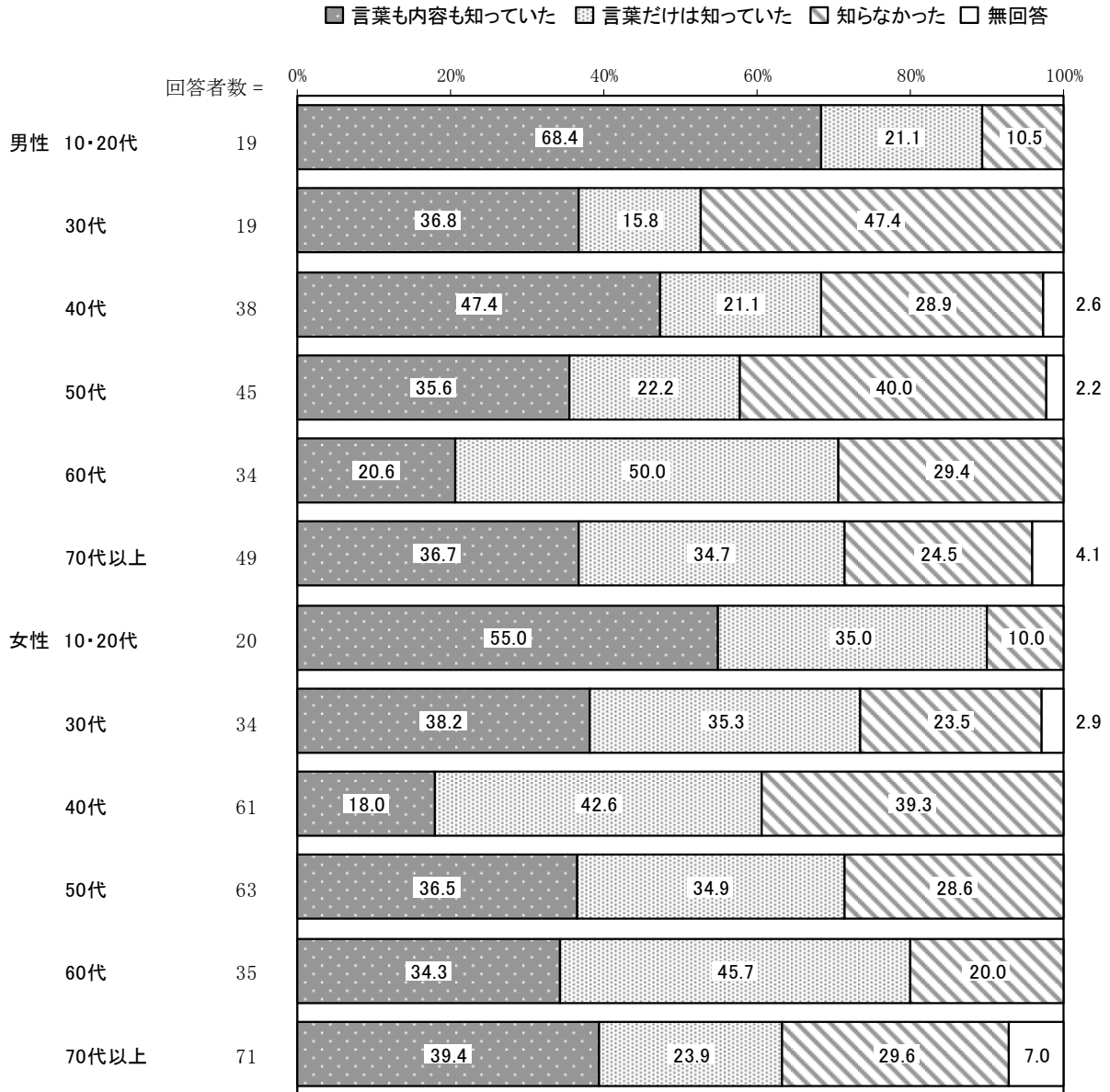


## A 男女共同参画社会

### 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男女の10・20代で「言葉も内容も知っていた」の割合が高く、特に男性の10・20代で約7割となっています。

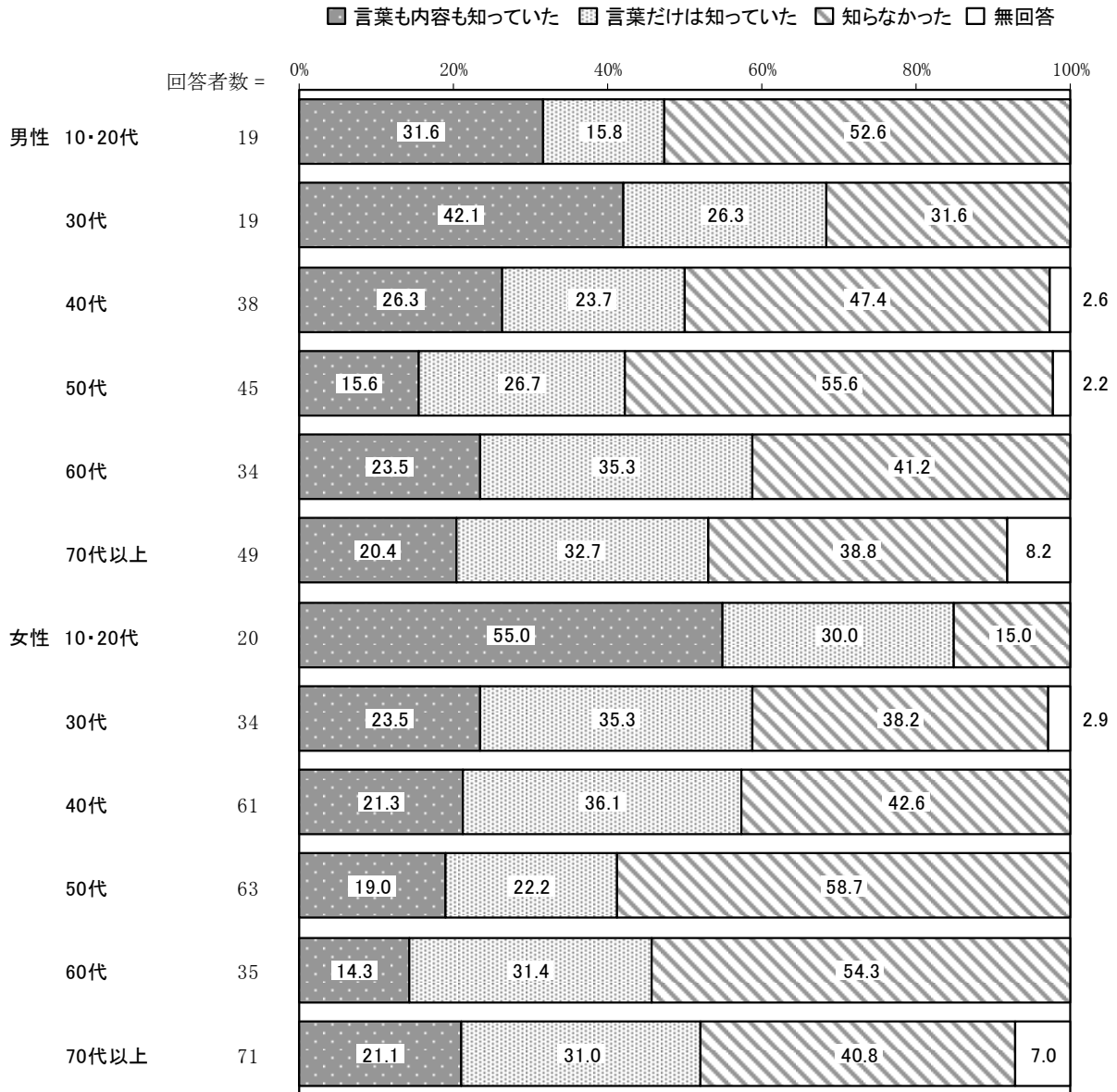
一方、男性の30代で「知らなかった」の割合が高く、約5割となっています。



## B 女子差別撤廃条約

### 【性・年齢別】

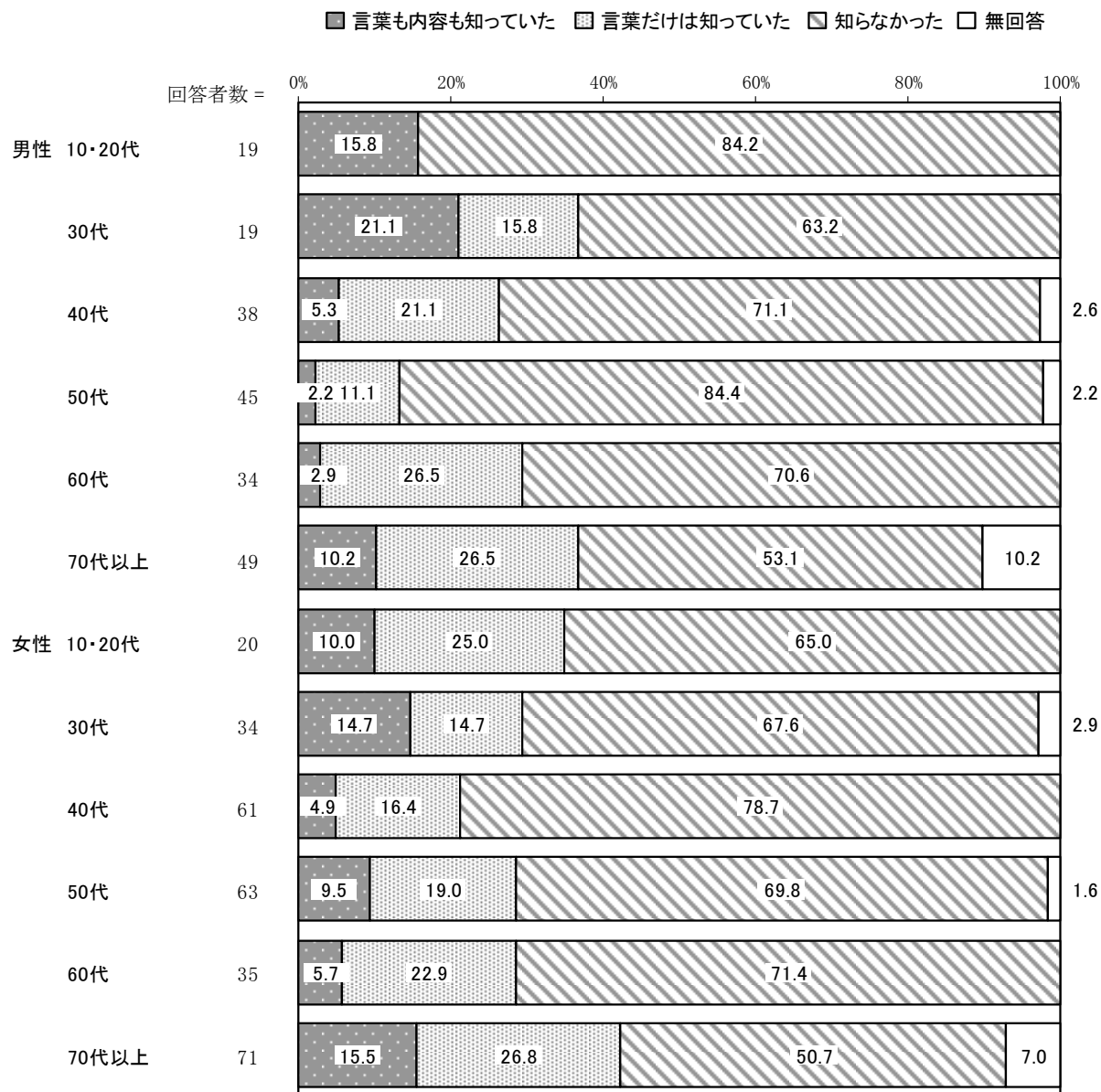
性・年齢別で見ると、女性の10・20代で「言葉も内容も知っていた」の割合が高く、5割半ばとなっています。また、女性の50代で「知らなかった」の割合が高く、約6割となっています。



## C ポジティブ・アクション

### 【性・年齢別】

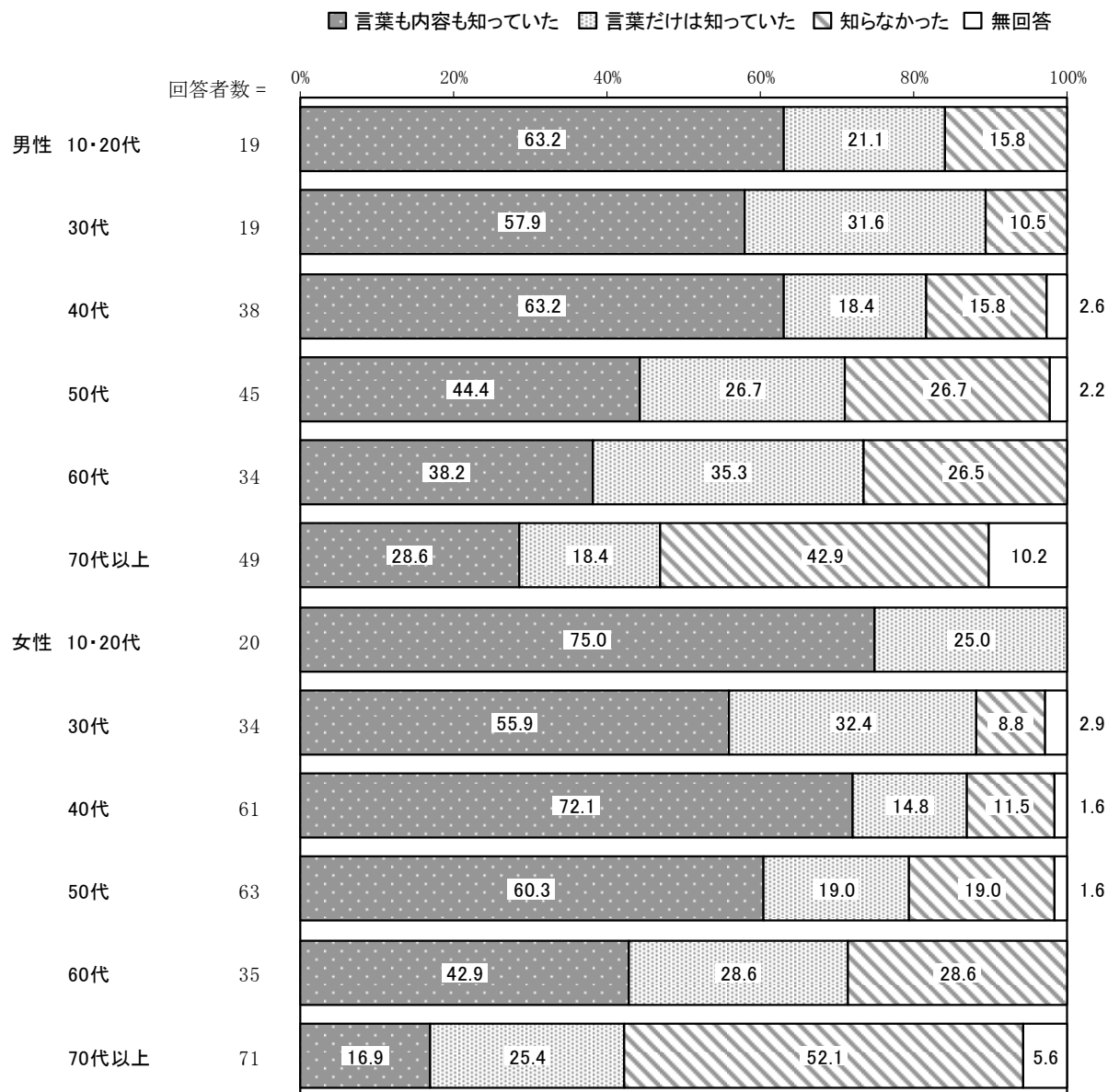
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の30代で「言葉も内容も知っていた」の割合が高く、約2割となっています。また、男性の50代で「知らなかった」の割合が高く、8割半ばとなっています。



## D ジェンダー

### 【性・年齢別】

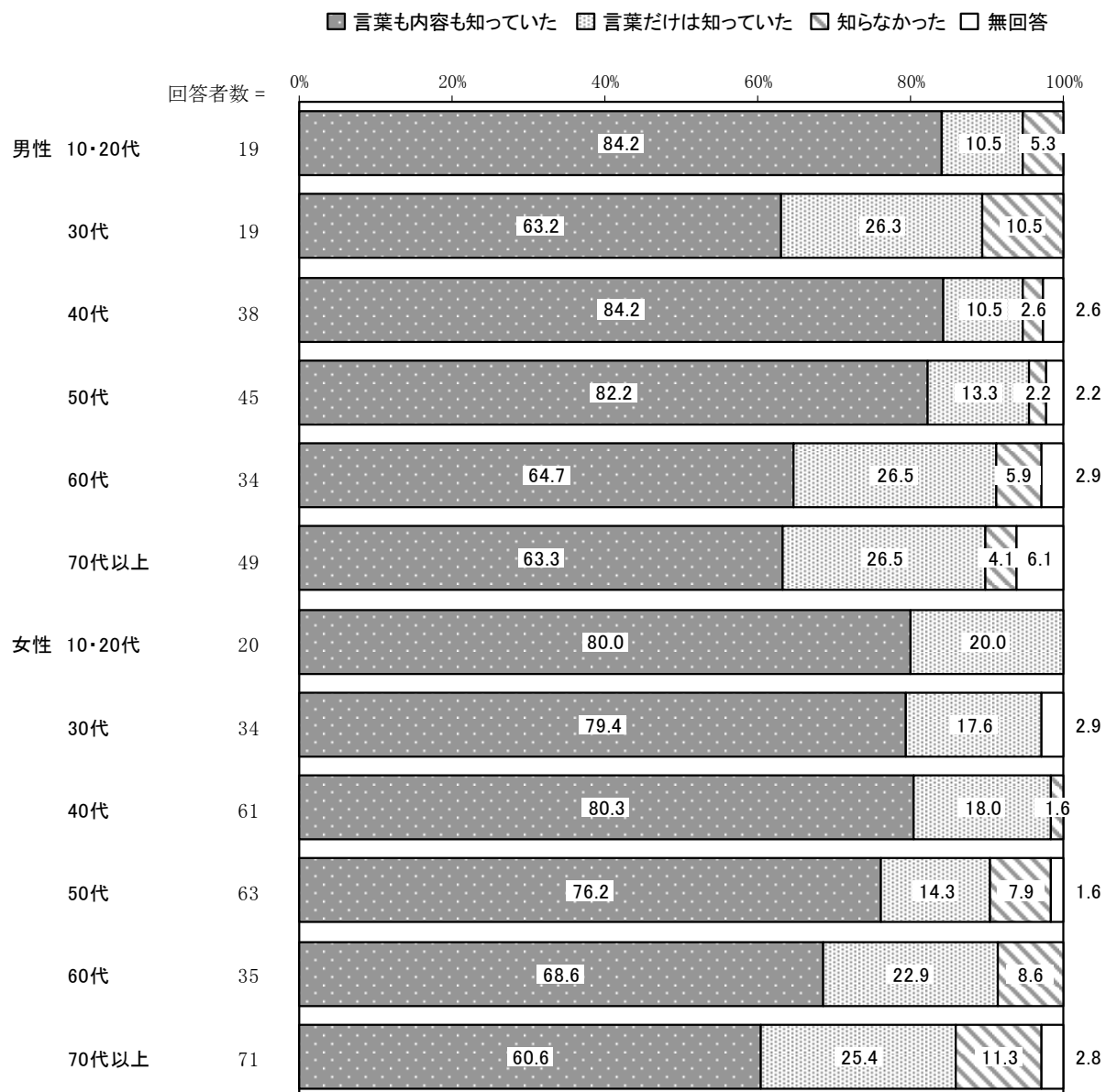
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の10・20代、40代で「言葉も内容も知っていた」の割合が高く、7割を超えています。また、男女とも70代以上で「知らなかった」の割合が高く、特に女性の70代以上で5割を超えています。



## E 男女雇用機会均等法

### 【性・年齢別】

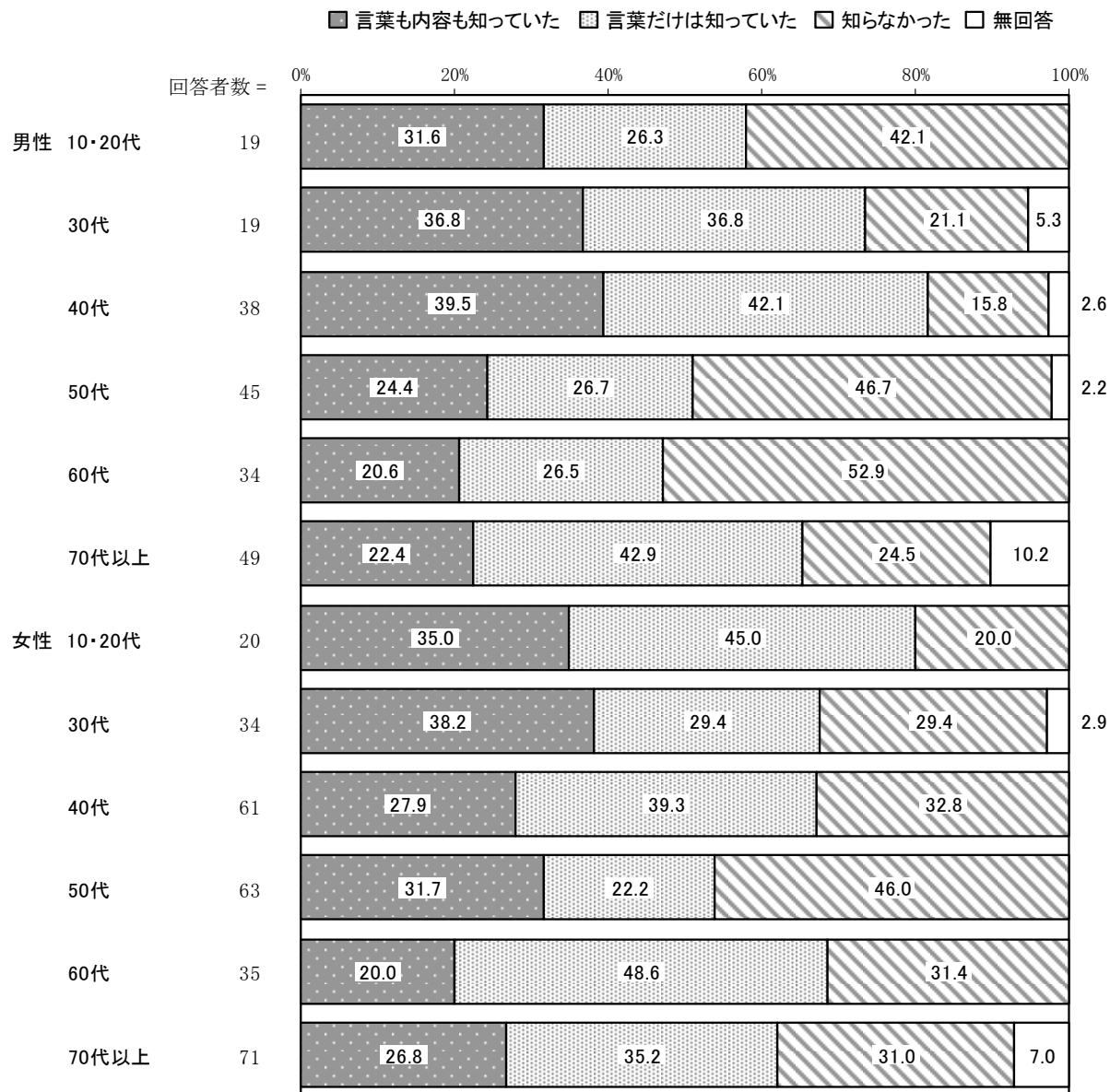
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の10・20代、40代で「言葉も内容も知っていた」の割合が高く、8割半ばとなっています。



## F 女性活躍推進法

### 【性・年齢別】

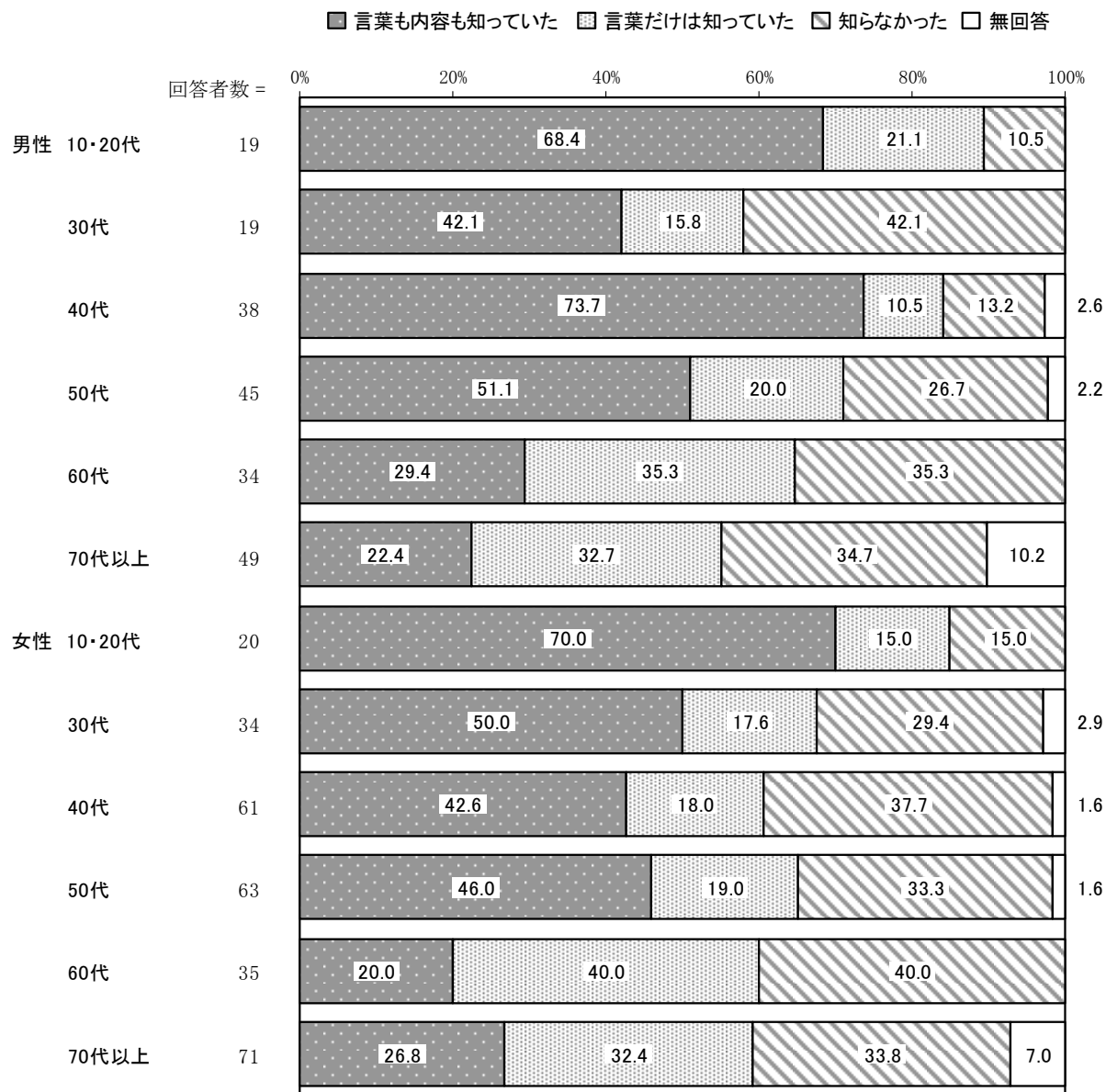
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の40代で「言葉も内容も知っていた」の割合が高く、約4割となっています。また、男性の60代で「知らなかった」の割合が高く、5割を超えています。



## G 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

### 【性・年齢別】

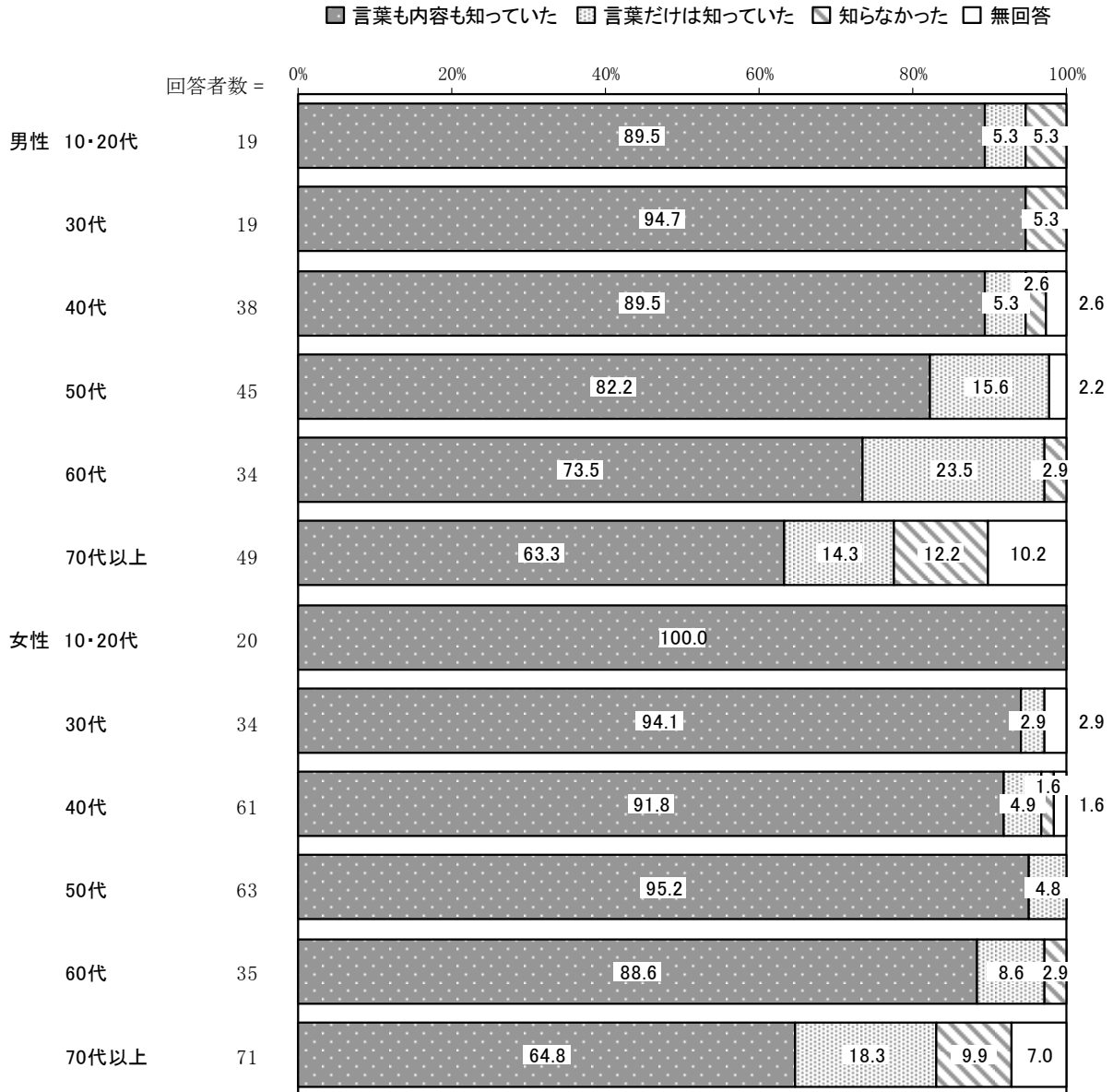
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の10・20代、40代、女性の10・20代で「言葉も内容も知っていた」の割合が高く、約7割となっています。一方、男性の30代、女性の40代、60代で「知らなかった」の割合が高く、約4割となっています。



## H DV（ドメスティックバイオレンス）

### 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男女とも年代が低くなるにつれ「言葉も内容も知っていた」の割合が高くなる傾向がみられます。

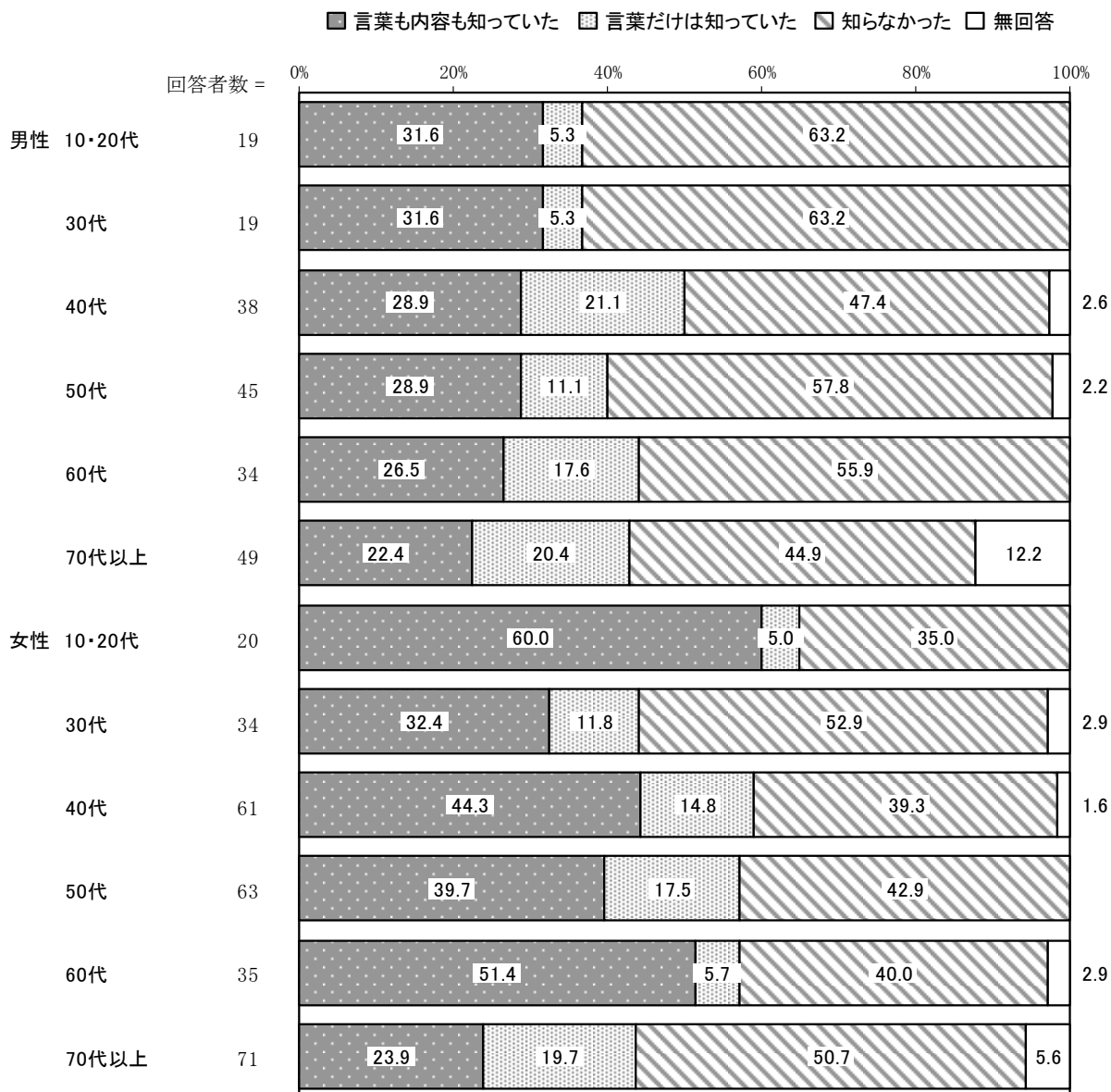




# I デートDV

## 【性・年齢別】

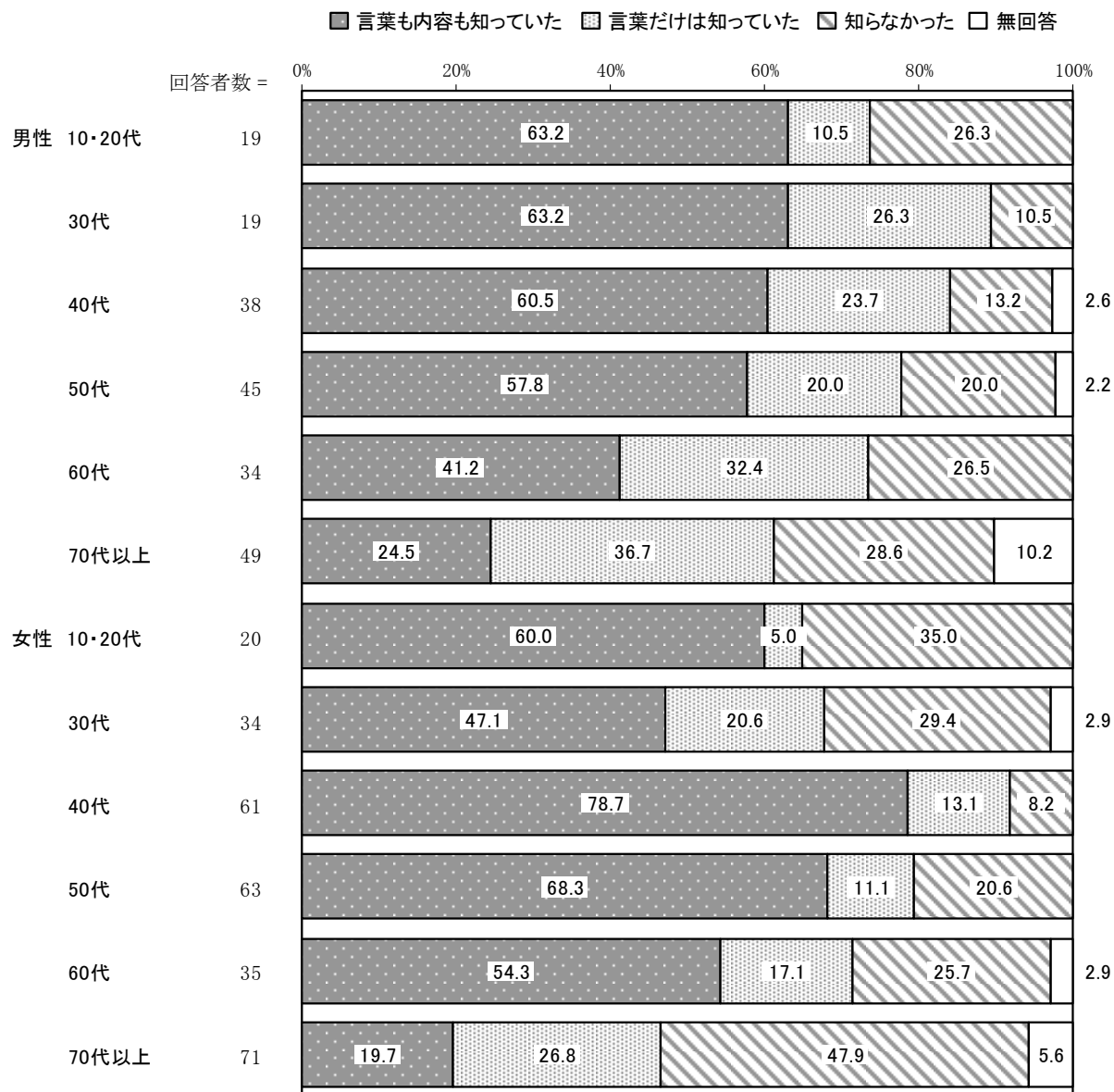
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の10・20代で「言葉も内容も知っていた」の割合が高く、6割となっています。一方、男性の10・20代、30代で「知らなかった」の割合が高く、6割を超えています。



## J JKビジネス

### 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性で、年代が低くなるにつれ「言葉も内容も知っていた」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、女性の40代で「言葉も内容も知っていた」の割合が、女性の70代以上で「知らなかった」の割合が高くなっています。



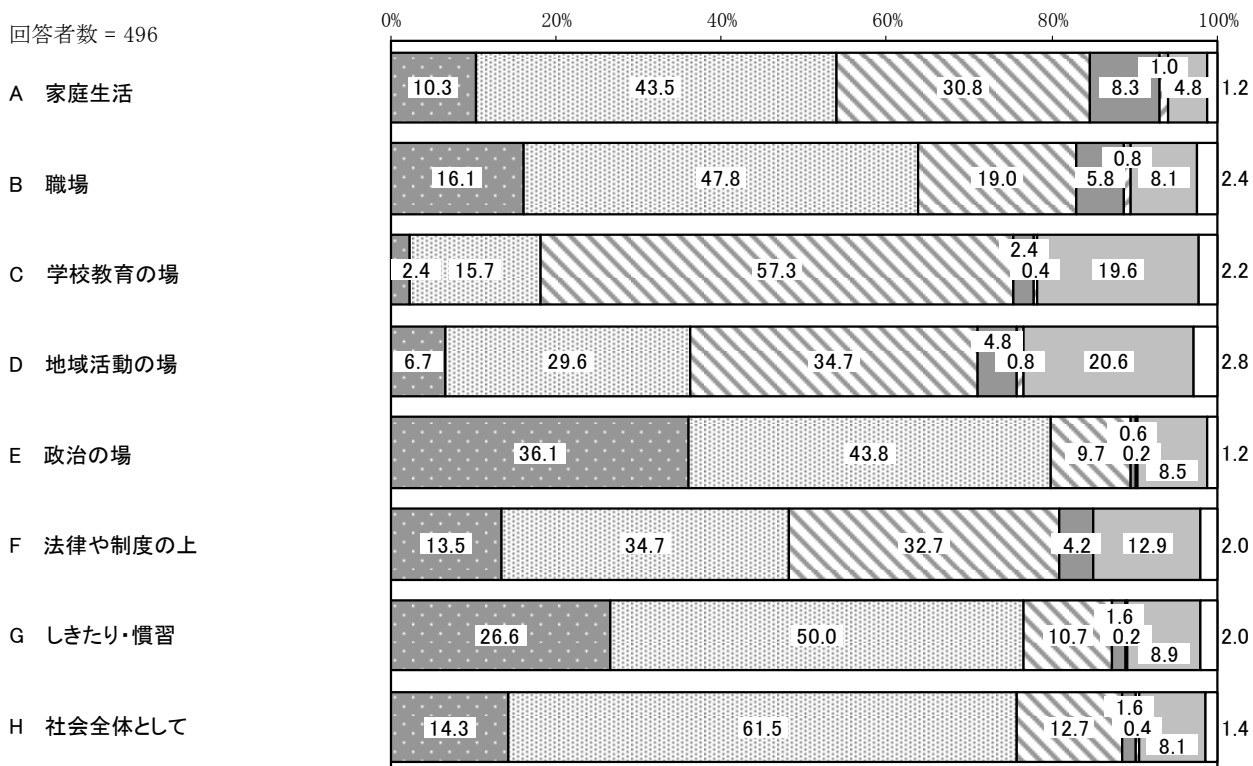
### 3 男女の平等感について

問2 次の各場面および分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。A～Hの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。

『E 政治の場』『G しきたり・慣習』『H 社会全体として』で「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性優遇”の割合が高く、7割を超えています。

また、『C 学校教育の場』で「平等である」の割合が高く、約6割となっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▩ 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

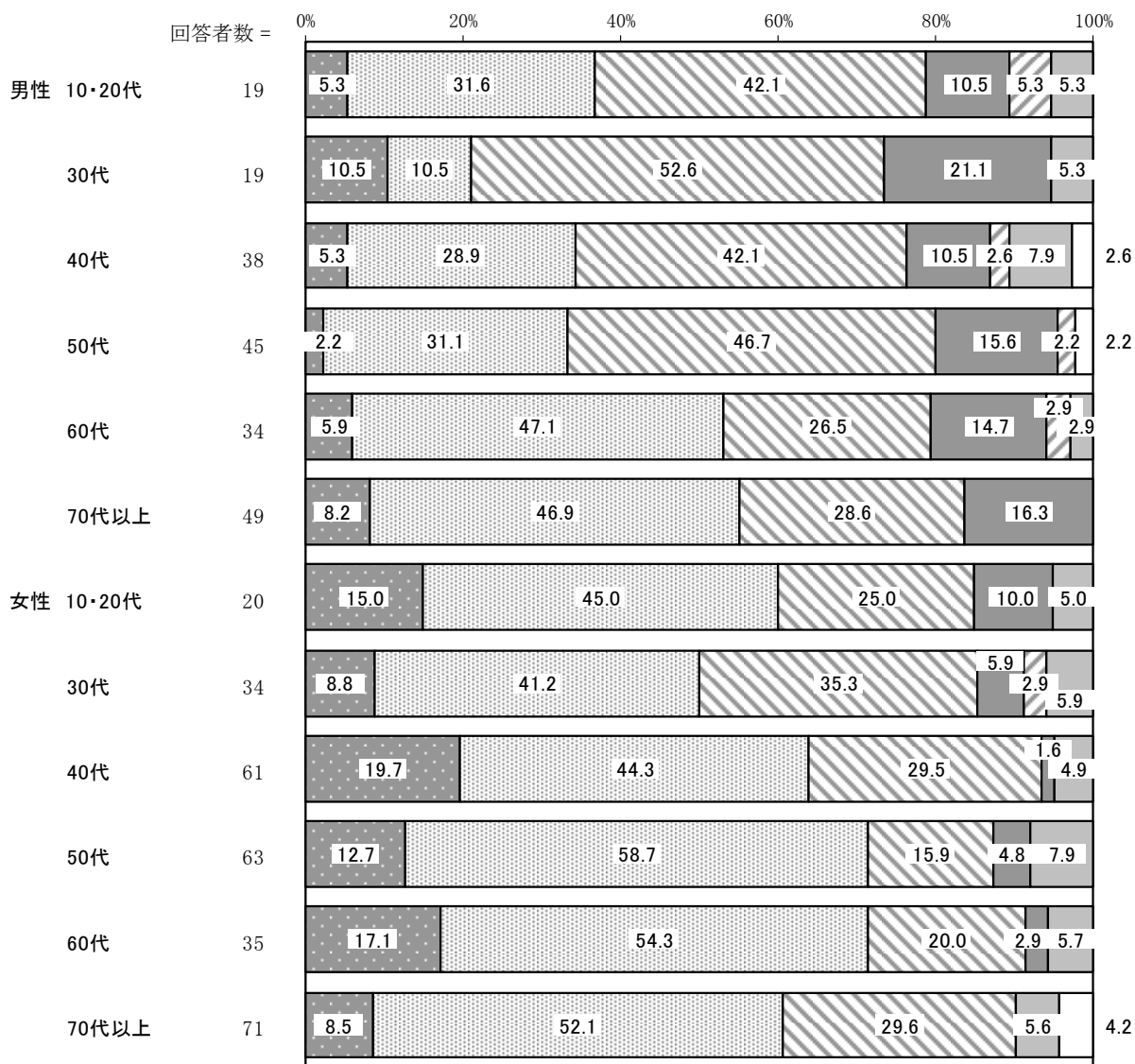


## A 家庭生活

### 【性・年齢別】

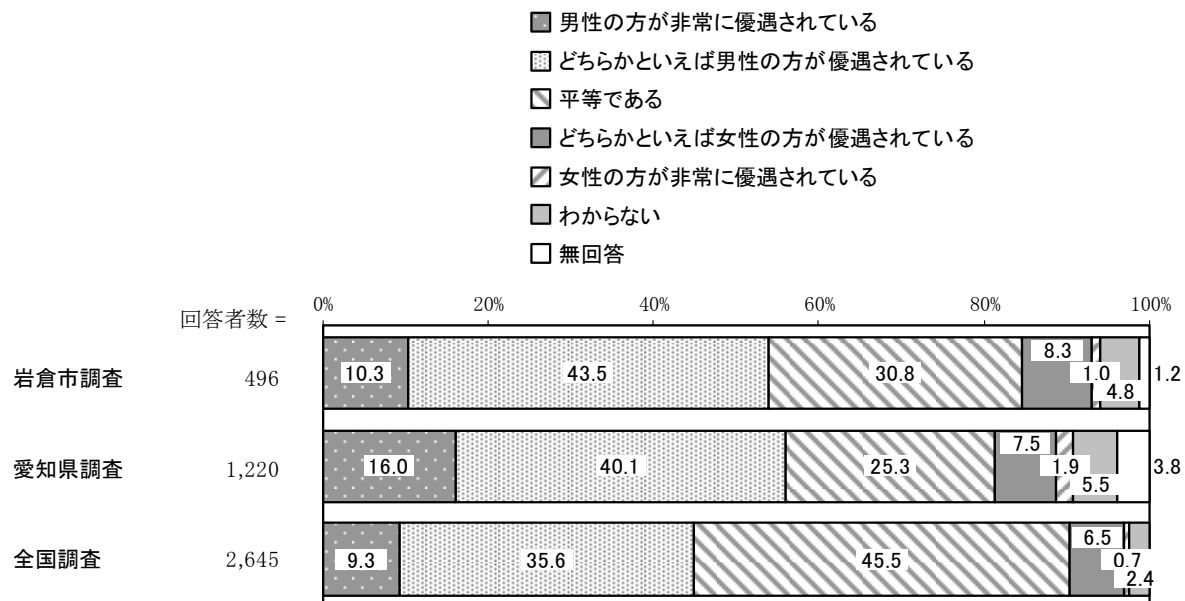
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の50代、60代で“男性優遇”の割合が高く、約7割となっています。一方、男性の30代で「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」をあわせた“女性優遇”の割合が高く、約2割となっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



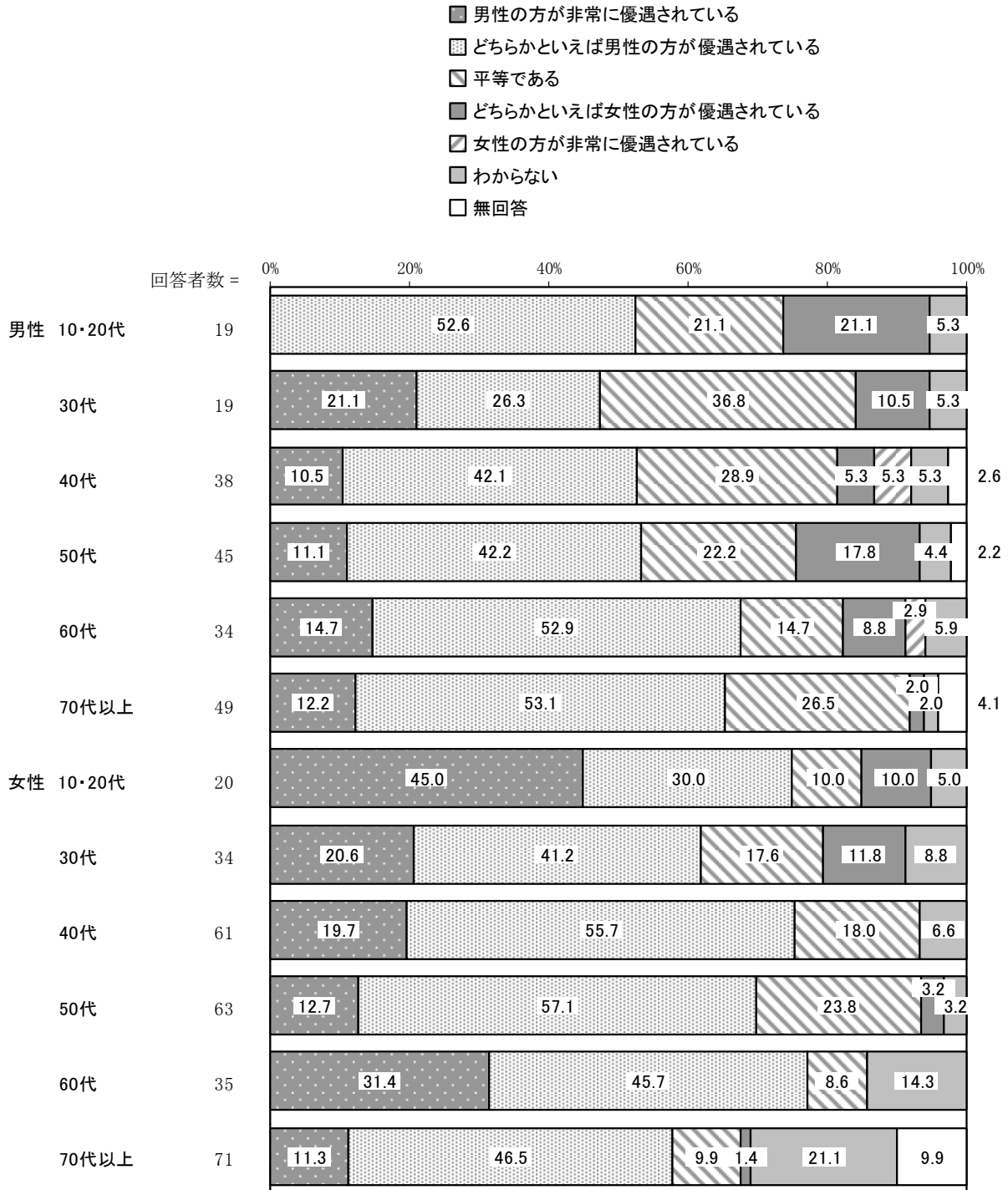
### 【愛知県調査・全国調査との比較】

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「平等である」の割合が高くなっています。  
 全国調査と比較すると、国に比べ“男性優遇”の割合が高くなっています。



## B 職場

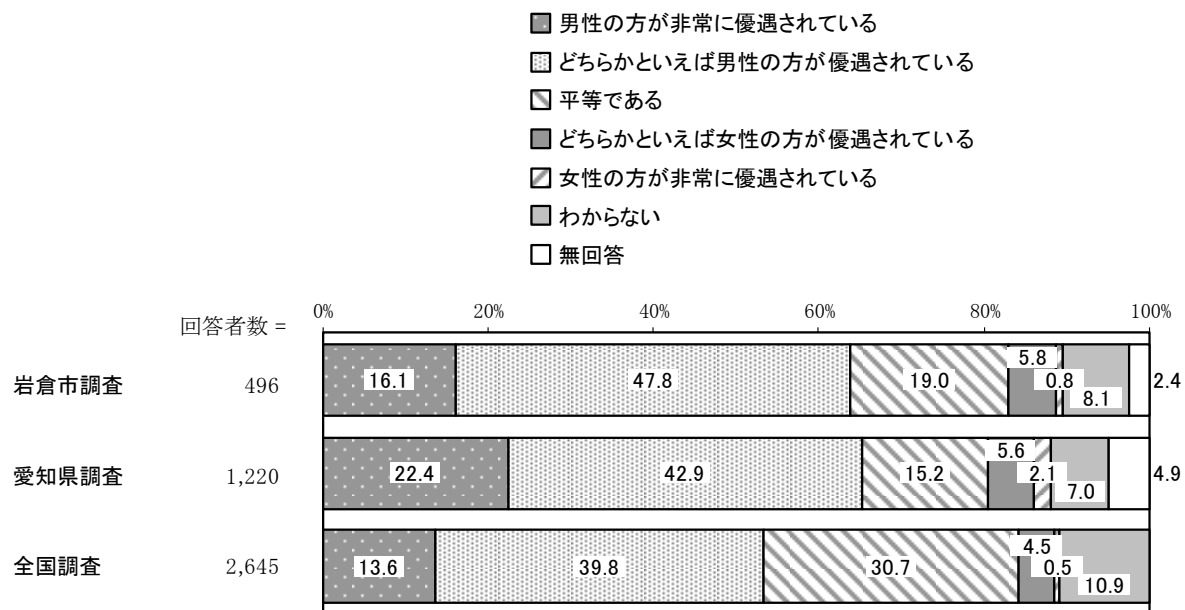
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の10・20代、40代、60代で“男性優遇”の割合が高く、7割半ばとなっています。また、男性の30代で「平等である」の割合が高く、3割半ばとなっています。



**【愛知県調査・全国調査との比較】**

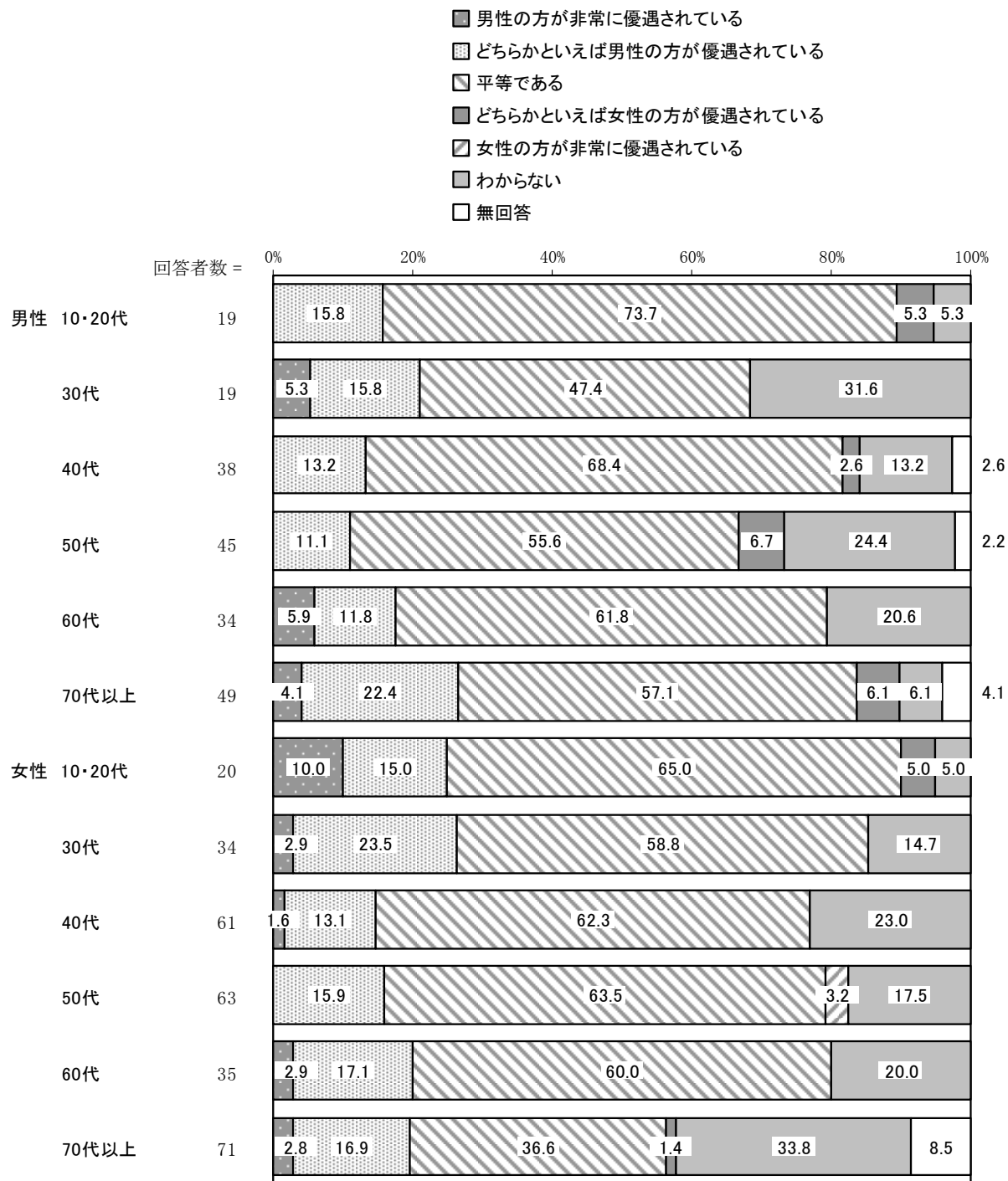
愛知県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

全国調査と比較すると、国に比べ“男性の方が優遇されている”の割合が高く、「平等である」の割合が低くなっています。



### C 学校教育の場

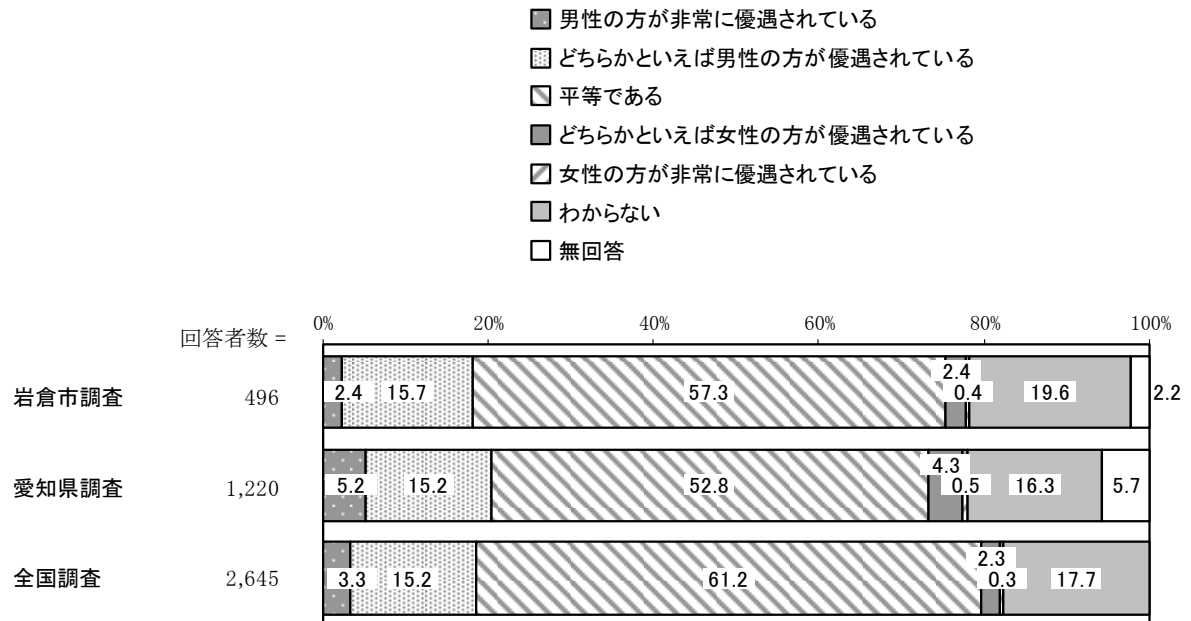
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の10・20代、30代で“男性優遇”の割合が高く、2割半ばとなっています。また、男性の10・20代で「平等である」の割合が高く、7割半ばとなっています。





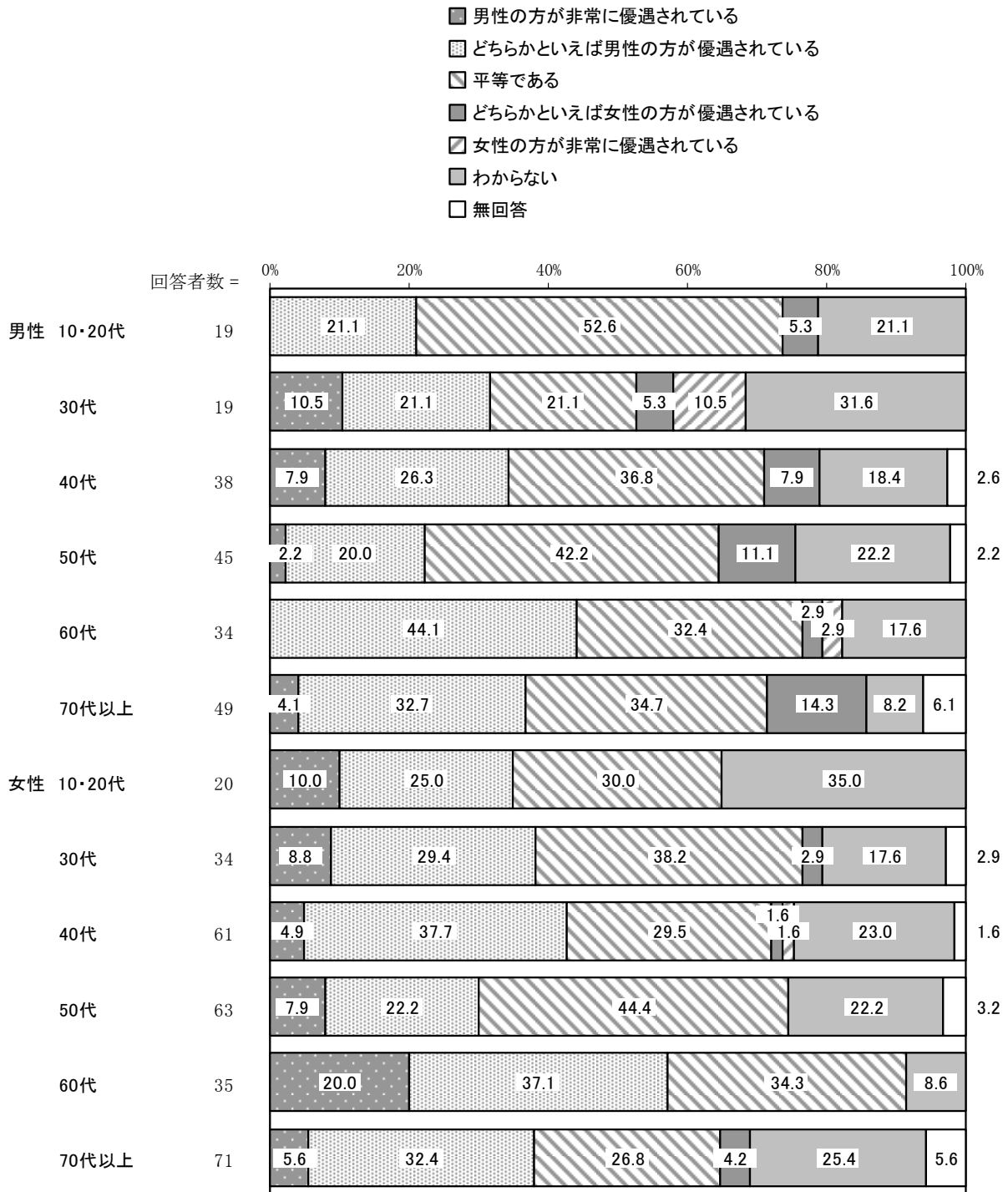
【愛知県調査・全国調査との比較】

愛知県調査、全国調査と比較すると、愛知県、国とも大きな差異はみられません。



## D 地域活動の場

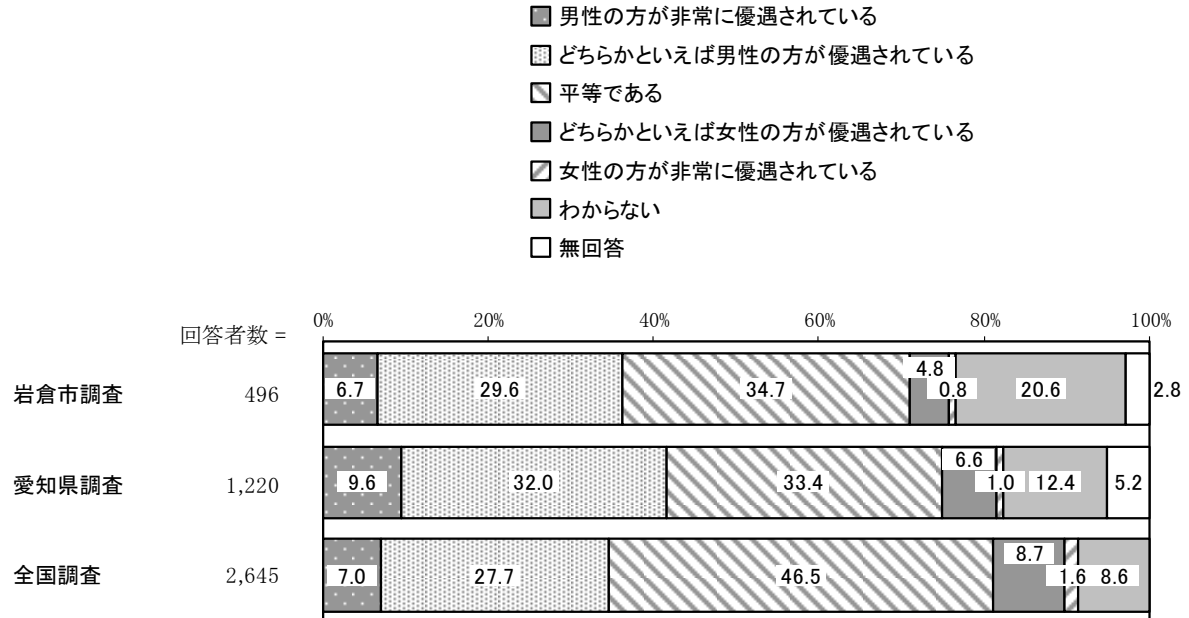
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の60代で“男性優遇”の割合が高く、約6割となっています。また、男性の10・20代で「平等である」の割合が高く、5割を超えています。



**【愛知県調査・全国調査との比較】**

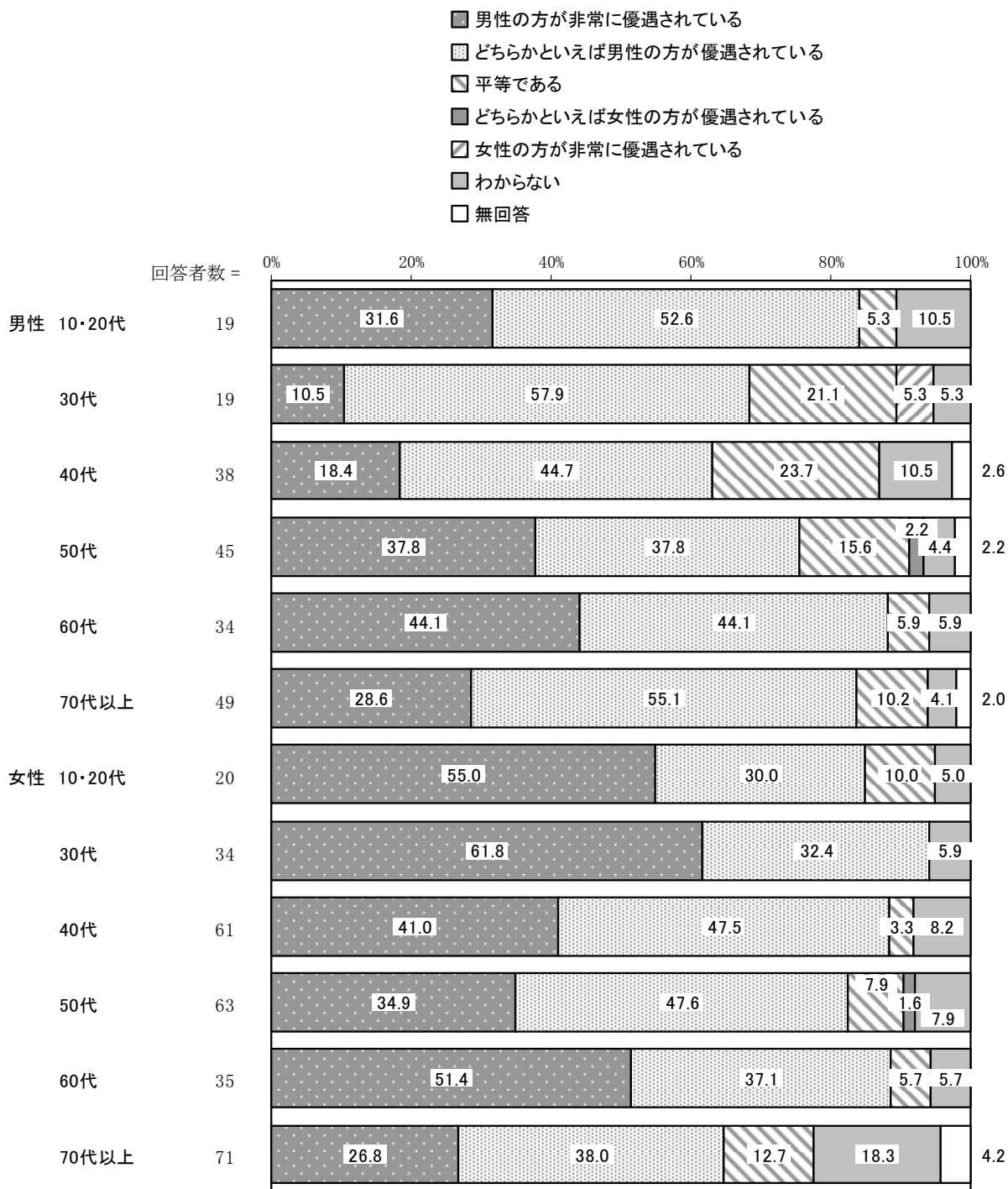
愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、“男性の方が優遇されている”の割合が低くなっています。

全国調査と比較すると、国に比べ、「平等である」の割合が低くなっています。



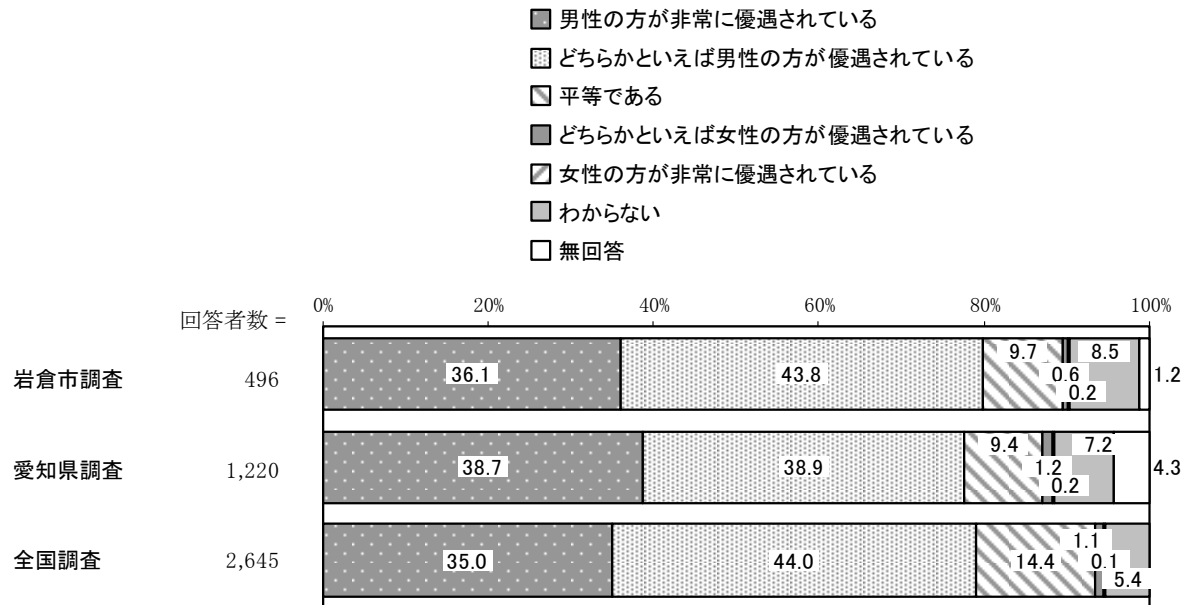
## E 政治の場

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の30代で“男性優遇”の割合が高く、9割半ばとなっています。また、男性の30代、40代で「平等である」の割合が高く、2割を超えています。



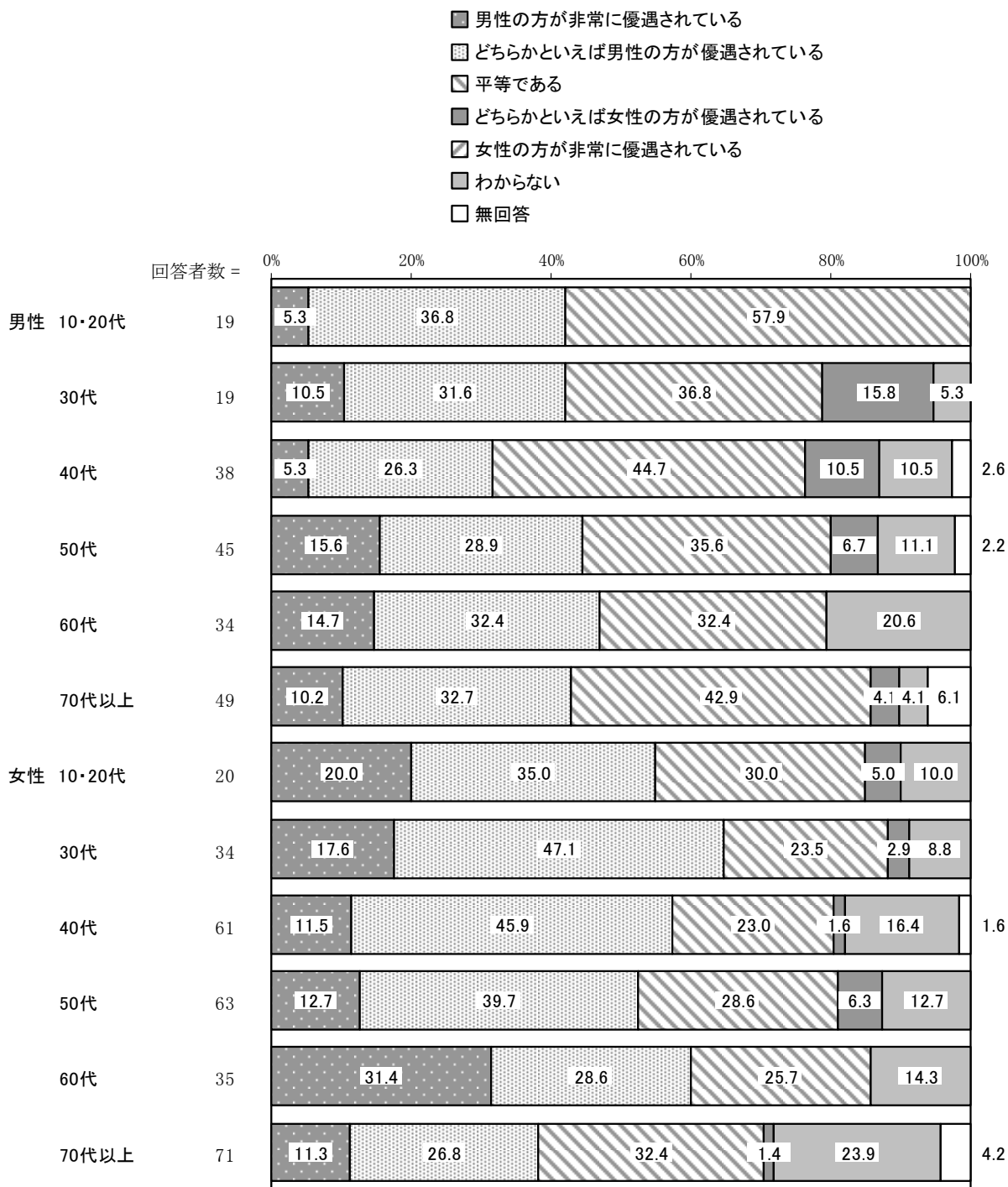
【愛知県調査・全国調査との比較】

愛知県調査、全国調査と比較すると、愛知県、国とも大きな差異はみられません。



## F 法律や制度の上

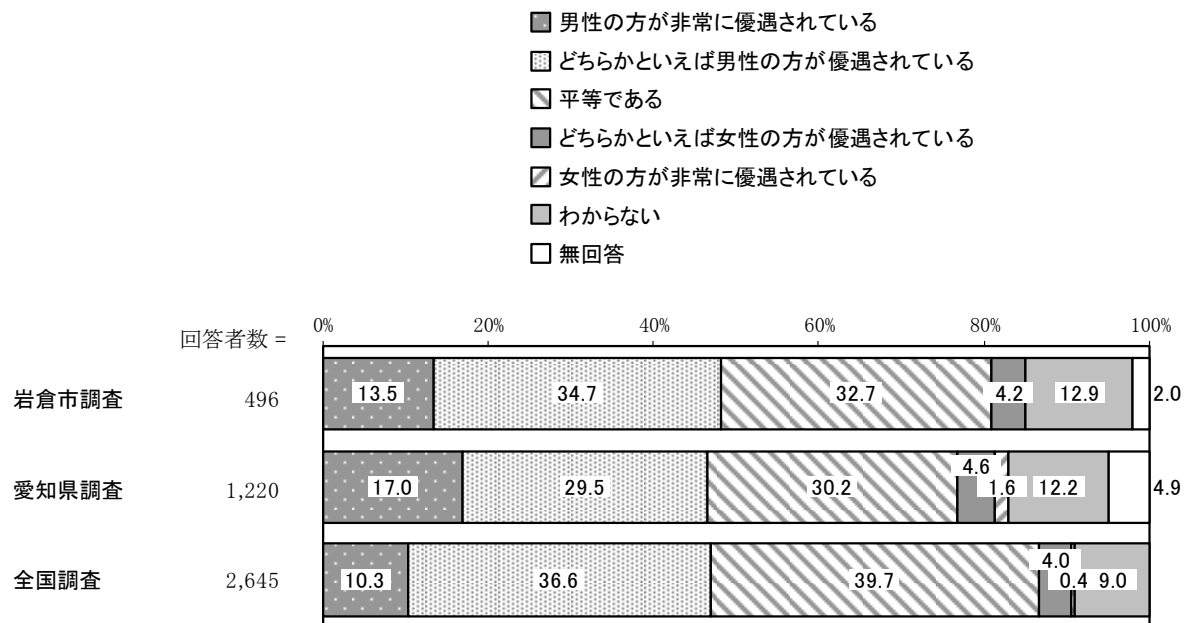
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の30代で“男性優遇”の割合が高く、6割半ばとなっています。また、男性の10・20代で「平等である」の割合が高く、約6割となっています。



**【愛知県調査・全国調査との比較】**

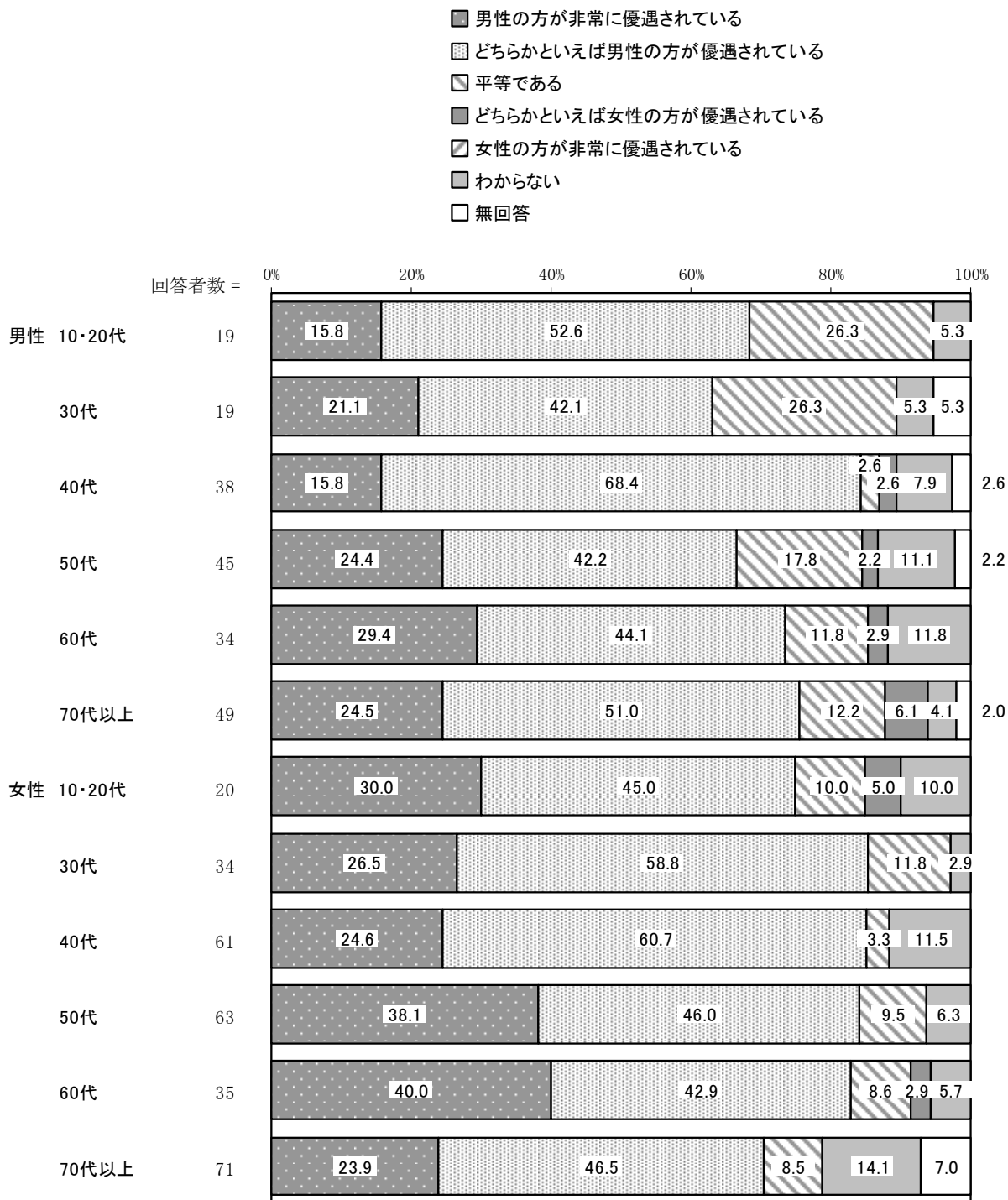
愛知県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

全国調査と比較すると、国に比べ、「平等である」の割合が低くなっています。



## G しきたり・慣習

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の40代、女性の30代から50代で“男性優遇”の割合が高く、8割半ばとなっています。また、男性の10・20代、30代で「平等である」の割合が高く、2割半ばとなっています。

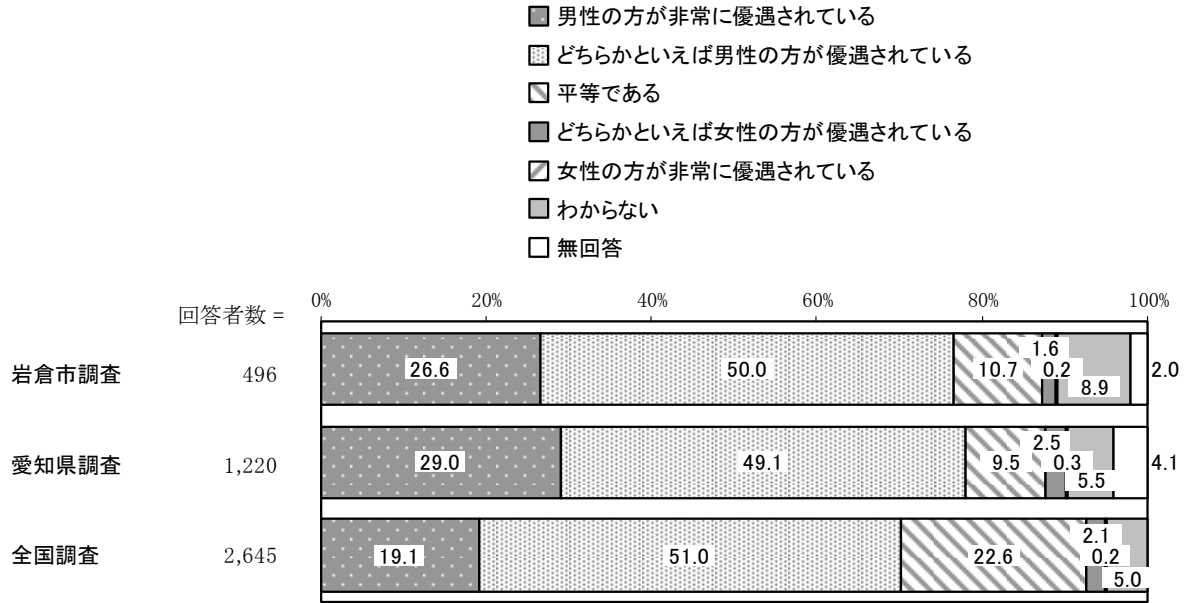




**【愛知県調査・全国調査との比較】**

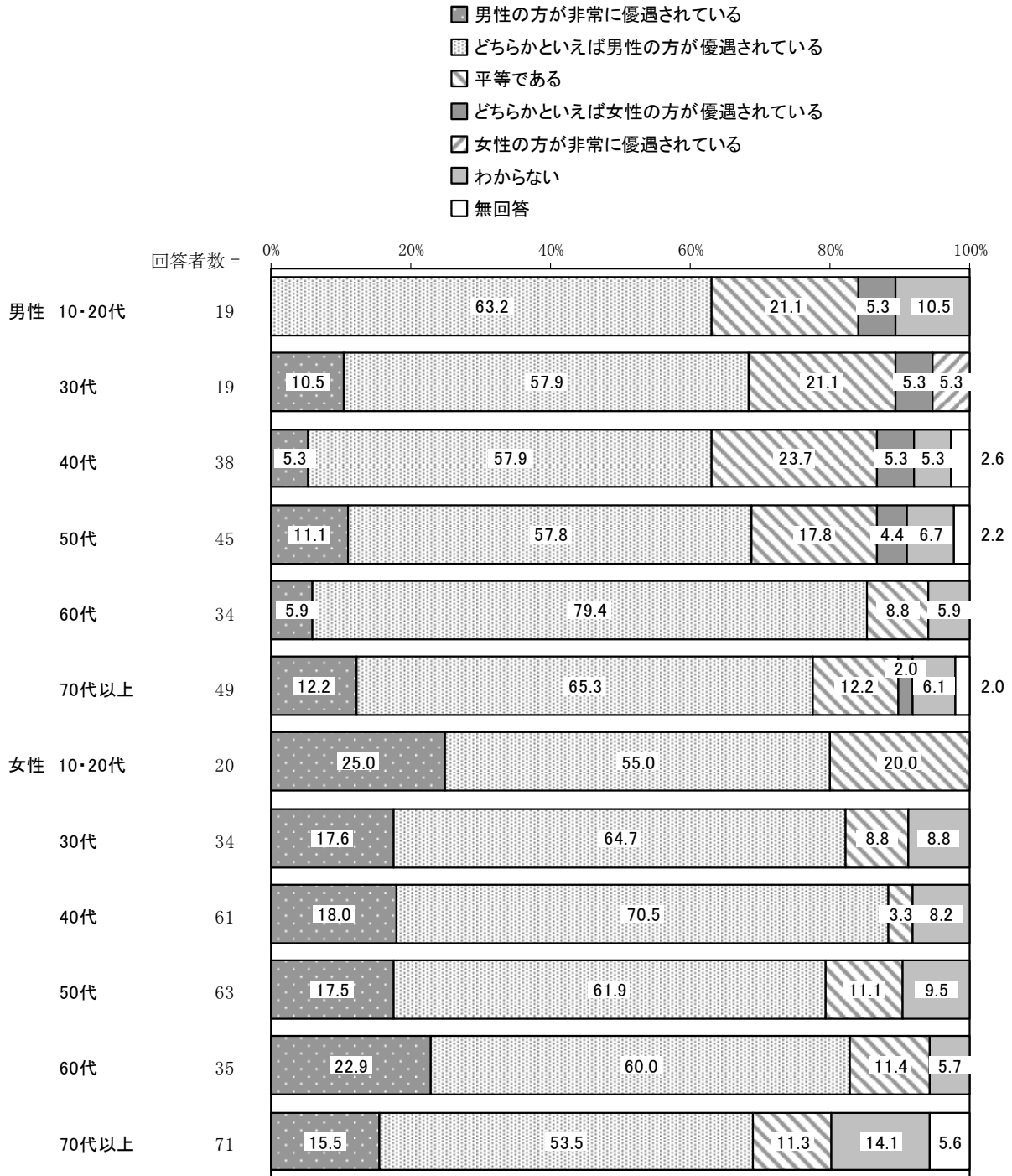
愛知県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

全国調査と比較すると、国に比べ“男性の方が優遇されている”の割合が高く、「平等である」の割合が低くなっています。



## H 社会全体として

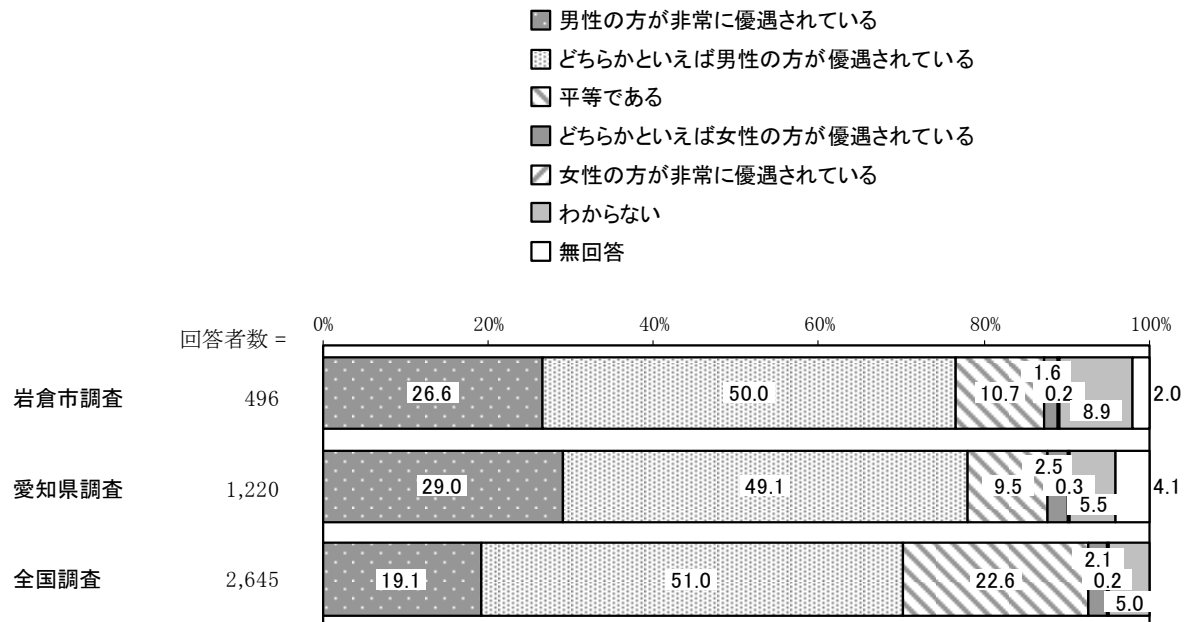
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の40代で“男性優遇”の割合が高く、約9割となっています。また、男性の10・20代から40代、女性の10・20代で「平等である」の割合が高く、約2割となっています。



**【愛知県調査・全国調査との比較】**

愛知県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

全国調査と比較すると、国に比べ“男性の方が優遇されている”の割合が高く、「平等である」の割合が低くなっています。

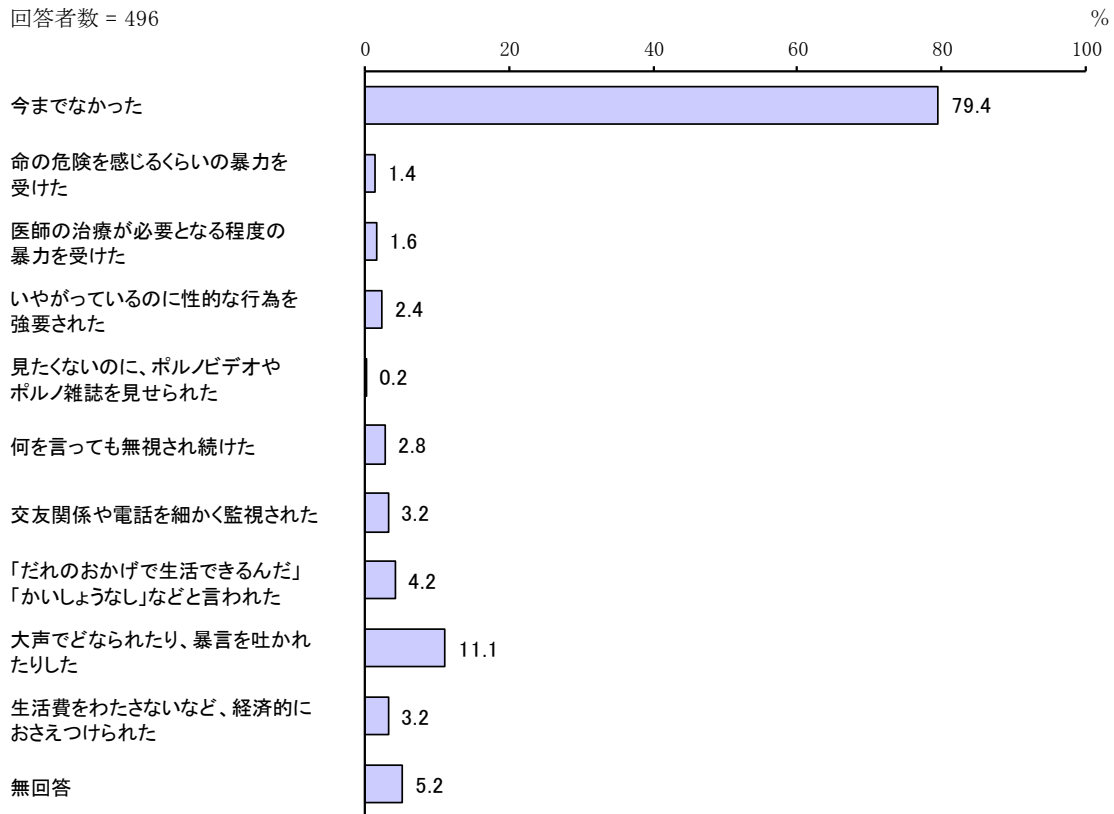


## 4 DV（ドメスティック・バイオレンス）について

問3 これまでに、あなたの配偶者や交際相手から、次のような行為を受けた経験がありますか。あてはまると思うものをすべて選んで○をつけてください。

「今までなかった」の割合が79.4%と最も高く、次いで「大声でどなられたり、暴言を吐かれたりした」の割合が11.1%となっています。

回答者数 = 496



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の10・20代、30代で「大声でどなられたり、暴言を吐かれたりした」の割合が高く、2割半ばとなっています。また、女性の10・20代で「交友関係や電話を細かく監視された」の割合が高くなっています。

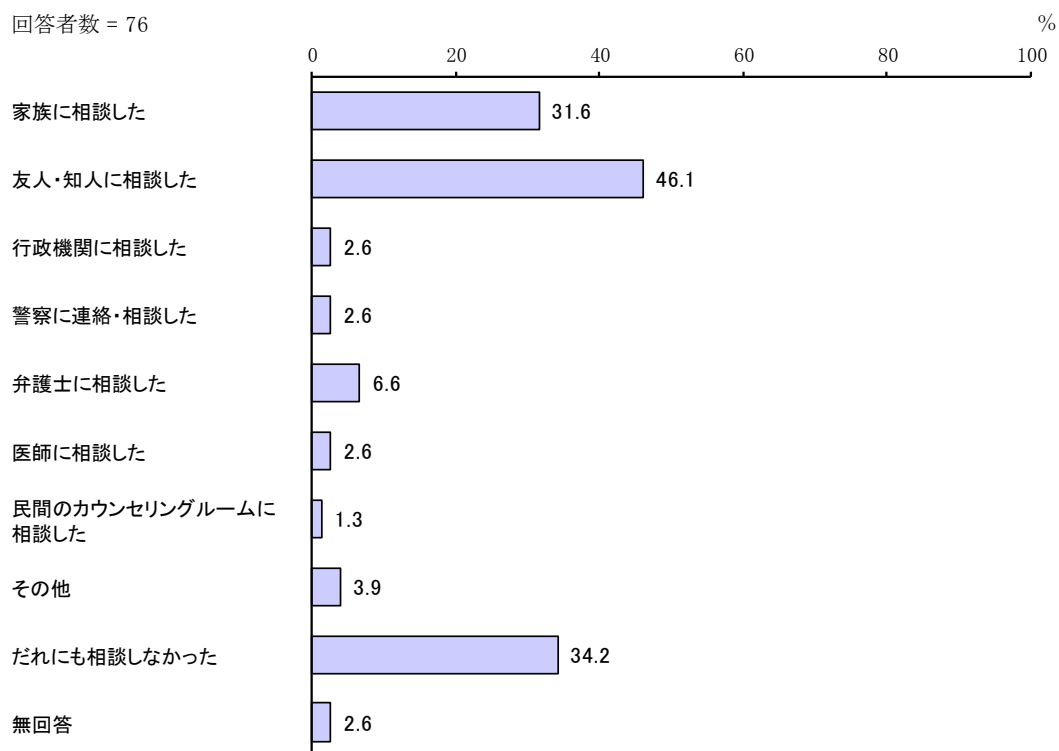
単位：%

区分	有効回答数(件)	今までなかった	命の危険を感じるくらい の暴力を受けた	医師の治療が必要となる 程度の暴力を受けた	いやがっているのに性的な 行為を強要された	見たくないのに、ポルノビ デオやポルノ雑誌を見せられ た	何を言っても無視され続 けた	交友関係や電話を細かく 監視された	「だれのおかげで生活でき るんだ」「かいしようなし」 などと言われた	大声でどなられたり、暴言 を吐かれたりした	生活費をわたさないなど、 経済的におさえつけられた	無回答
男性 10・20代	19	94.7	—	—	—	—	—	—	—	5.3	—	—
30代	19	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
40代	38	89.5	—	—	—	—	2.6	2.6	—	5.3	—	5.3
50代	45	93.3	—	—	—	—	2.2	—	2.2	2.2	2.2	2.2
60代	34	85.3	—	2.9	—	—	2.9	—	—	2.9	2.9	8.8
70代以上	49	85.7	—	—	—	—	—	—	2.0	4.1	—	10.2
女性 10・20代	20	70.0	—	—	10.0	—	10.0	15.0	—	25.0	10.0	—
30代	34	67.6	2.9	2.9	5.9	—	2.9	5.9	5.9	26.5	2.9	—
40代	61	78.7	3.3	4.9	1.6	1.6	3.3	6.6	4.9	11.5	4.9	6.6
50代	63	68.3	1.6	3.2	4.8	—	1.6	6.3	9.5	20.6	3.2	4.8
60代	35	82.9	—	—	2.9	—	2.9	2.9	5.7	5.7	2.9	2.9
70代以上	71	69.0	4.2	—	4.2	—	4.2	1.4	7.0	14.1	5.6	8.5

問3で、「命の危険を感じるくらいの暴力を受けた」から「生活費をわたさないなど、経済的におさえつけられた」を選んだ方にのみお聞きします

問3-1 これまでに配偶者や交際相手から受けた行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。次の中からあてはまると思うものをすべて選んで○をつけてください。

「友人・知人に相談した」の割合が46.1%と最も高く、次いで「だれにも相談しなかった」の割合が34.2%、「家族に相談した」の割合が31.6%となっています。



【性・年齢別】

性・年齢別では、有効回答数が少ないため参考とします。

単位：％

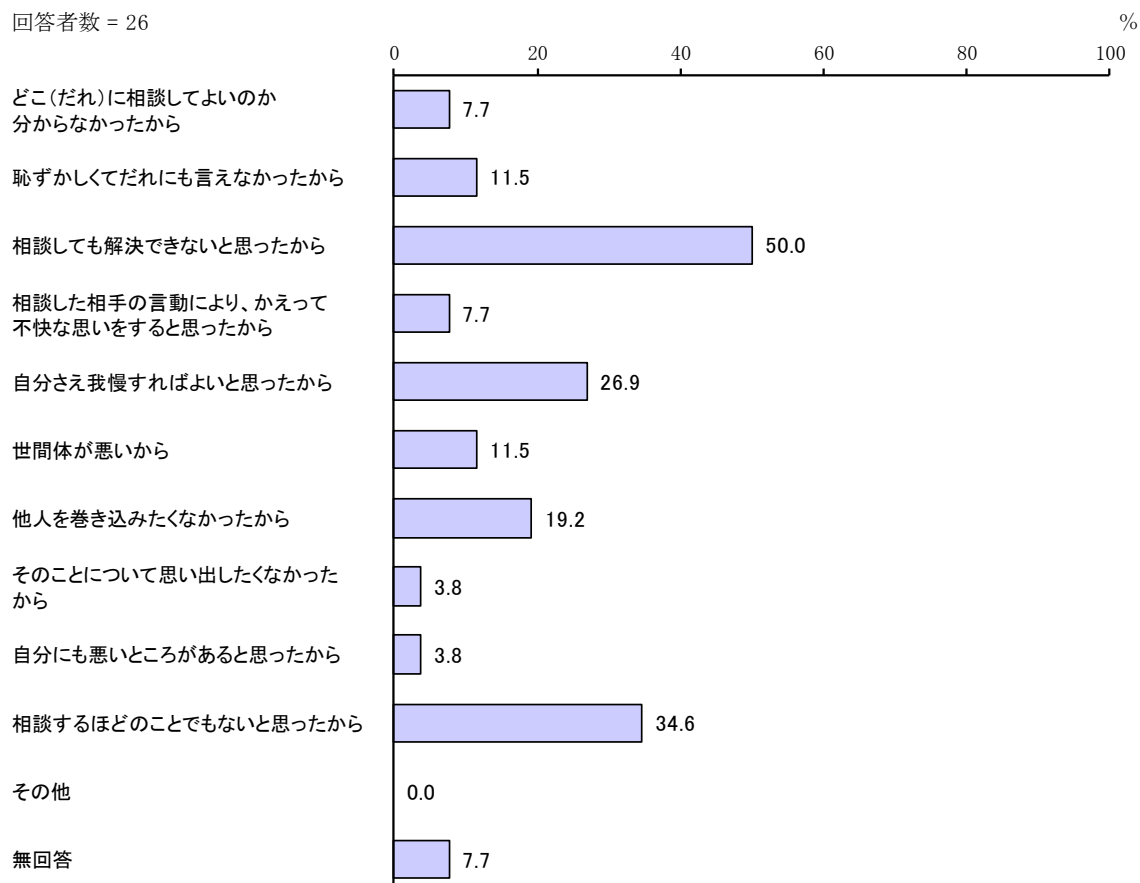
区分	有効回答数 (件)	家族に相談した	友人・知人に相談した	行政機関に相談した	警察に連絡・相談した	弁護士に相談した	医師に相談した	民間のカウンセリング ルームに相談した	その他	だれにも相談しなかった	無回答
男性 10・20代	1	100.0	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—
30代	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
40代	2	50.0	50.0	—	—	—	—	—	—	50.0	—
50代	2	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—
60代	2	—	50.0	—	—	—	—	—	—	50.0	—
70代以上	2	—	—	—	—	—	—	—	50.0	50.0	—
女性 10・20代	6	33.3	83.3	16.7	—	—	—	—	—	16.7	—
30代	11	45.5	45.5	—	—	9.1	—	—	—	36.4	—
40代	9	66.7	33.3	11.1	11.1	22.2	11.1	—	—	11.1	22.2
50代	17	23.5	52.9	—	5.9	—	—	—	—	35.3	—
60代	5	80.0	100.0	—	—	20.0	—	—	—	—	—
70代以上	16	6.3	25.0	—	—	6.3	6.3	6.3	12.5	43.8	—

問3-1で「だれにも相談しなかった」と答えた方のみお聞きします

問3-2 だれにも相談しなかった理由として、次の中からあてはまると思うものをすべて選んで○をつけてください。

「相談しても解決できないと思ったから」の割合が50.0%と最も高く、次いで「相談するほどのことでもないと思ったから」の割合が34.6%、「自分さえ我慢すればよいと思ったから」の割合が26.9%となっています。

回答者数 = 26





【性・年齢別】

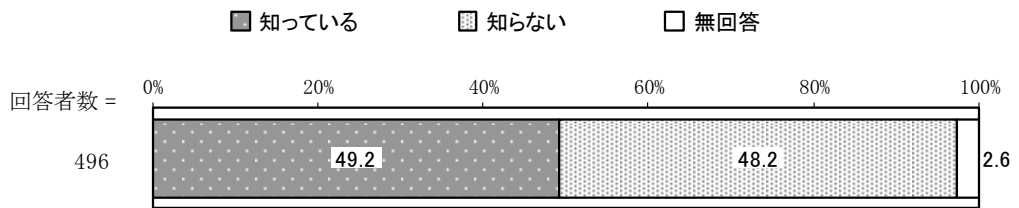
性・年齢別では、有効回答数が少ないため参考とします。

単位：％

区分	有効回答数(件)	どこ(だれ)に相談してよいか 分からなかったから	恥ずかしくてだれにも 言えなかったから	相談しても解決できないと 思ったから	相談した相手の言動により、かえっ て不快な思いをすと思ったから	自分さえ我慢すればよいと思っ たから	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくなかったから	そのことについて思い出したくな かったから	自分にも悪いところがあると思っ たから	相談するほどのことでもないと思 ったから	その他	無回答
男性 10・20代	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
30代	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
40代	1	—	—	100.0	—	100.0	100.0	100.0	—	—	—	—	—
50代	2	—	50.0	100.0	—	50.0	—	—	—	—	—	—	—
60代	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0
70代以上	1	—	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
女性 10・20代	1	100.0	—	—	—	—	—	100.0	—	—	100.0	—	—
30代	4	—	—	50.0	—	25.0	—	50.0	—	25.0	50.0	—	—
40代	1	—	—	100.0	100.0	100.0	—	—	—	—	—	—	—
50代	6	—	16.7	66.7	—	—	16.7	—	16.7	—	33.3	—	—
60代	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
70代以上	7	14.3	14.3	14.3	14.3	42.9	14.3	14.3	—	—	42.9	—	14.3

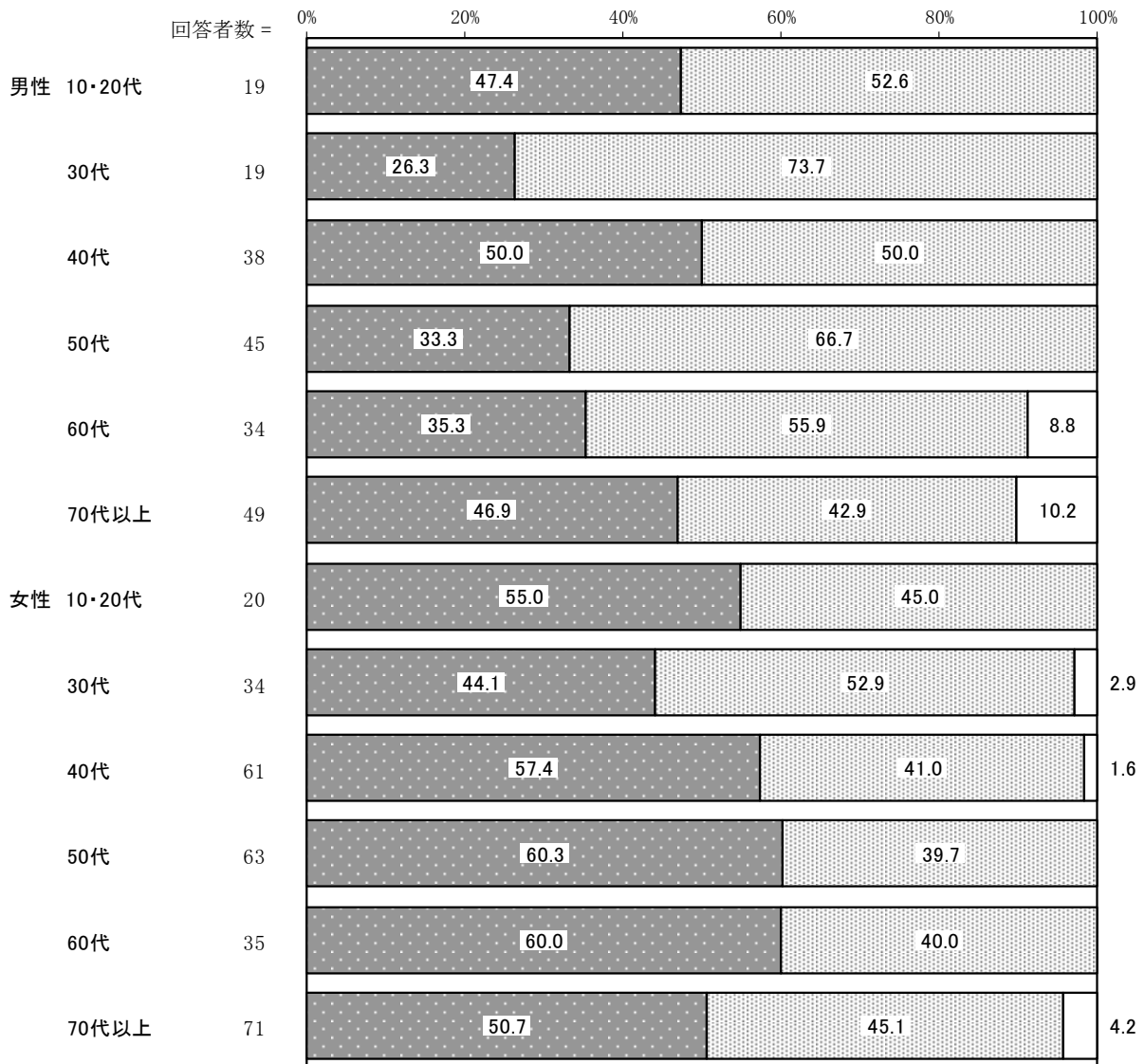
**問4 あなたは、配偶者、交際相手からの暴力について相談できる窓口をご存知ですか。**

「知っている」の割合が49.2%、「知らない」の割合が48.2%となっています。



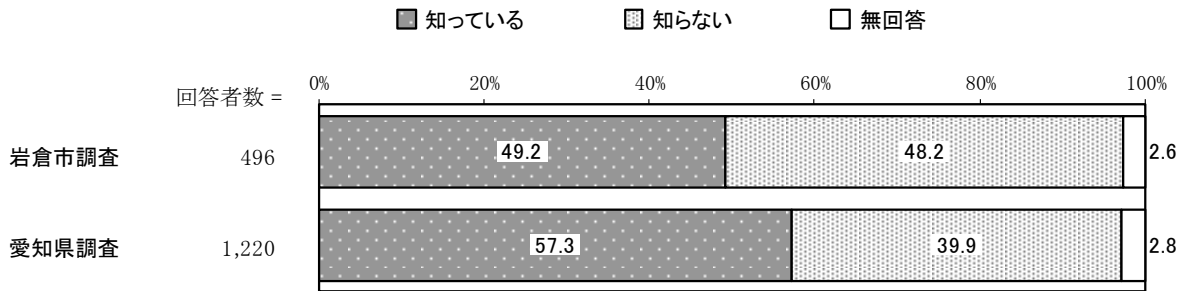
**【性・年齢別】**

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の40代から60代で「知っている」の割合が高く、約6割となっています。また、男性の30代で「知らない」の割合が高く、7割半ばとなっています。



### 【愛知県調査との比較】

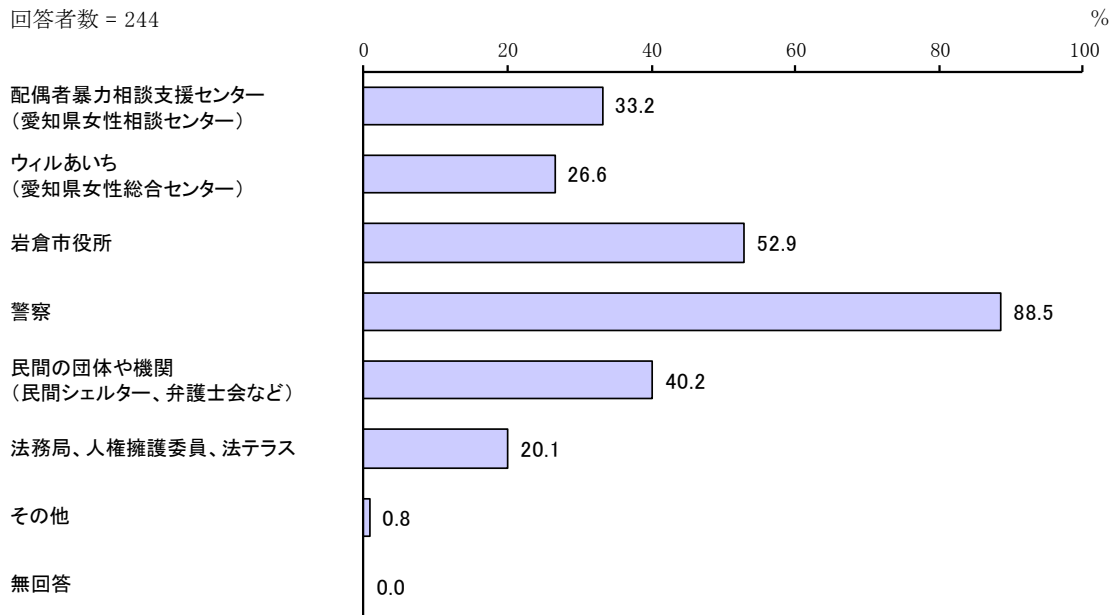
愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「知っている」の割合が低くなっています。



問4で「知っている」と回答した方にお聞きします

#### 問4—1 知っている相談窓口をすべて選んで○をつけてください。

「警察」の割合が88.5%と最も高く、次いで「岩倉市役所」の割合が52.9%、「民間の団体や機関（民間シェルター、弁護士会など）」の割合が40.2%となっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の50代で「ウイルあいち（愛知県女性総合センター）」の割合が高く、4割となっています。また、女性の10・20代で「民間の団体や機関（民間シェルター、弁護士会など）」の割合が高く、5割半ばとなっています。

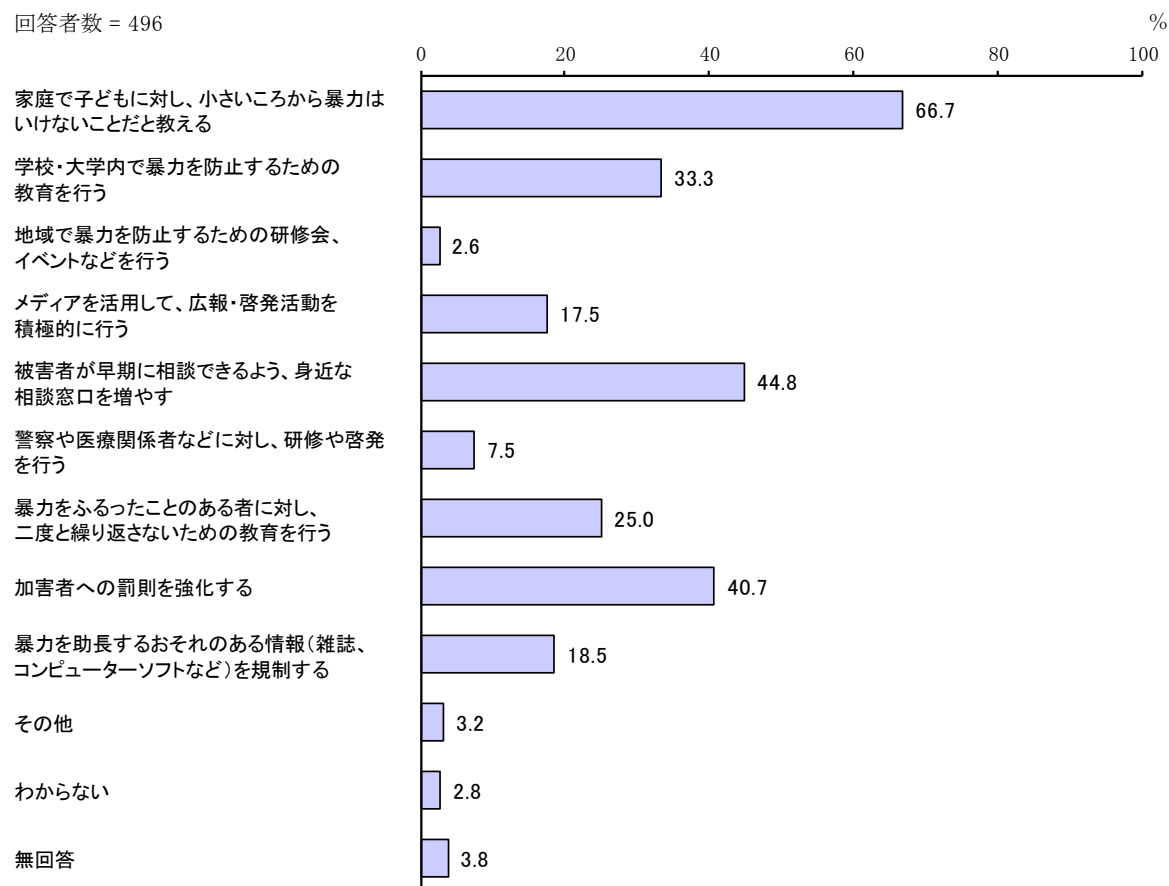
単位：％

区分	有効回答数 (件)	配偶者暴力相談支援センター (愛知県女性相談センター)	ウイルあいち (愛知県女性総合センター)	岩倉市役所	警察	民間の団体や機関 (民間シェルター、 弁護士会 など)	法務局、 人権擁護委員、 法テラス	その他	無回答
男性 10・20代	9	33.3	33.3	44.4	88.9	44.4	11.1	—	—
30代	5	—	—	60.0	60.0	60.0	40.0	20.0	—
40代	19	26.3	26.3	63.2	84.2	42.1	21.1	—	—
50代	15	6.7	40.0	40.0	100.0	40.0	20.0	—	—
60代	12	8.3	25.0	75.0	100.0	33.3	33.3	—	—
70代以上	23	30.4	21.7	52.2	91.3	26.1	34.8	—	—
女性 10・20代	11	36.4	27.3	36.4	81.8	54.5	27.3	—	—
30代	15	46.7	20.0	46.7	93.3	40.0	20.0	—	—
40代	35	45.7	28.6	51.4	88.6	40.0	14.3	—	—
50代	38	34.2	36.8	42.1	81.6	47.4	18.4	2.6	—
60代	21	38.1	33.3	71.4	100.0	38.1	14.3	—	—
70代以上	36	44.4	16.7	61.1	83.3	38.9	13.9	—	—

**問5 男女間における暴力を防止するために特に重要と思うものを3つまで選んで○をつけてください。**

「家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える」の割合が66.7%と最も高く、次いで「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」の割合が44.8%、「加害者への罰則を強化する」の割合が40.7%となっています。

回答者数 = 496



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の60代、70代以上で「家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える」の割合が高く、約8割となっています。また、男性の30代で「学校・大学内で暴力を防止するための教育を行う」の割合が、男性の10・20代、30代、女性の30代で「加害者への罰則を強化する」の割合が高く、約6割となっています。

単位：%

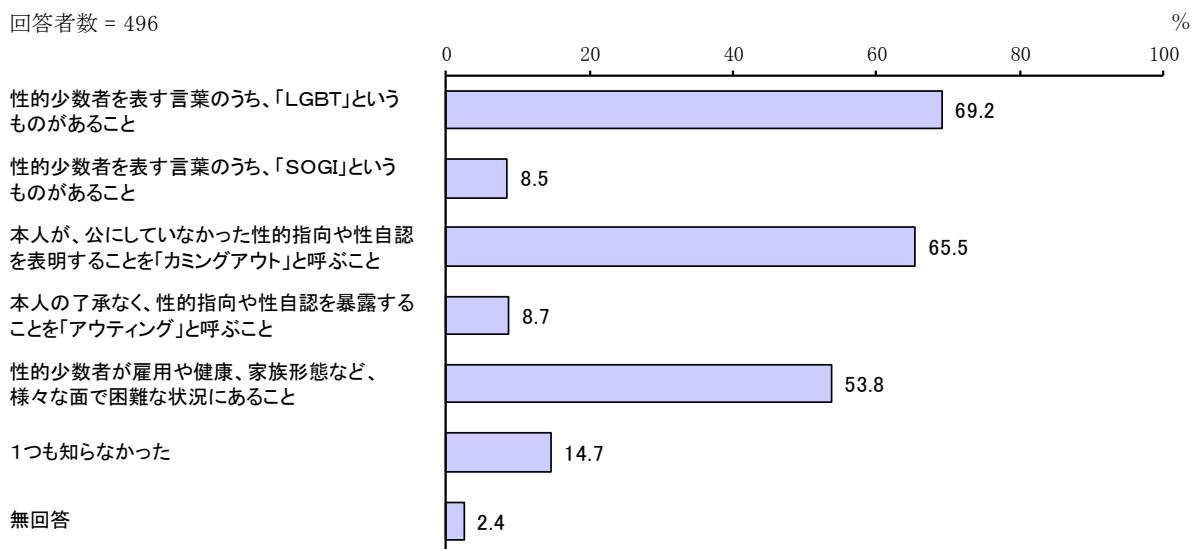
区分	有効回答数(件)	家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える	学校・大学内で暴力を防止するための教育を行う	地域で暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う	暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	加害者への罰則を強化する	暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、コンピューターソフトなど)を規制する	その他	わからない	無回答
男性 10・20代	19	73.7	31.6	5.3	21.1	42.1	5.3	10.5	63.2	10.5	5.3	—	—
30代	19	52.6	57.9	—	15.8	47.4	15.8	36.8	57.9	5.3	—	—	—
40代	38	73.7	44.7	5.3	7.9	44.7	10.5	26.3	47.4	15.8	—	—	—
50代	45	60.0	31.1	—	20.0	40.0	2.2	13.3	42.2	11.1	6.7	8.9	4.4
60代	34	64.7	23.5	—	14.7	47.1	2.9	14.7	32.4	20.6	8.8	5.9	5.9
70代以上	49	71.4	20.4	4.1	10.2	38.8	12.2	18.4	36.7	22.4	—	4.1	12.2
女性 10・20代	20	40.0	50.0	5.0	15.0	35.0	15.0	35.0	50.0	15.0	—	—	5.0
30代	34	61.8	29.4	—	17.6	47.1	11.8	23.5	58.8	14.7	8.8	2.9	2.9
40代	61	65.6	27.9	1.6	24.6	41.0	6.6	37.7	47.5	13.1	4.9	3.3	3.3
50代	63	60.3	39.7	3.2	19.0	44.4	4.8	28.6	46.0	22.2	3.2	1.6	1.6
60代	35	77.1	42.9	5.7	17.1	48.6	8.6	28.6	17.1	22.9	2.9	2.9	2.9
70代以上	71	77.5	29.6	2.8	18.3	54.9	2.8	22.5	23.9	29.6	—	1.4	4.2

## 5 性的少数者について

問6（1）あなたは、性的少数者に関する次のことについて知っていますか。次の中からすべて選んで○をつけてください。

「性的少数者を表す言葉のうち、「LGBT」というものがあること」の割合が69.2%と最も高く、次いで「本人が、公にしていなかった性的指向や性自認を表明することを「カミングアウト」と呼ぶこと」の割合が65.5%、「性的少数者が雇用や健康、家族形態など、様々な面で困難な状況にあること」の割合が53.8%となっています。

回答者数 = 496



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の10・20代で「性的少数者を表す言葉のうち、「LGBT」というものがあること」「性的少数者を表す言葉のうち、「SOGI」というものがあること」「性的少数者が雇用や健康、家族形態など、様々な面で困難な状況にあること」の割合が高くなっています。また、女性の70代以上で「1つも知らなかった」の割合が高く、3割半ばとなっています。

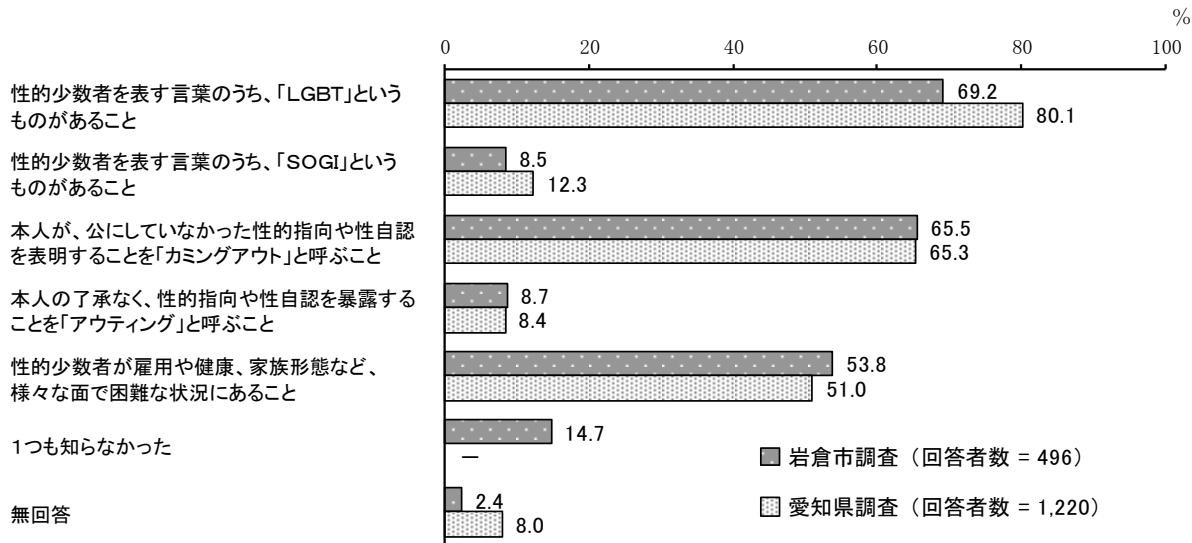
単位：%

区分	有効回答数(件)	性的少数者を表す言葉のうち、「LGBT」というものがあること	性的少数者を表す言葉のうち、「SOGI」というものがあること	本人が、公にしていなかった性的指向や性自認を表明することを「カミングアウト」と呼ぶこと	本人の了承なく、性的指向や性自認を暴露することを「アウトティング」と呼ぶこと	性的少数者が雇用や健康、家族形態など、様々な面で困難な状況にあること	1つも知らなかった	無回答
男性 10・20代	19	84.2	—	68.4	10.5	52.6	10.5	—
30代	19	73.7	10.5	63.2	21.1	57.9	10.5	—
40代	38	81.6	2.6	71.1	10.5	55.3	13.2	—
50代	45	68.9	—	80.0	2.2	48.9	6.7	—
60代	34	70.6	8.8	61.8	17.6	47.1	14.7	2.9
70代以上	49	46.9	12.2	38.8	6.1	42.9	26.5	6.1
女性 10・20代	20	100.0	30.0	90.0	20.0	85.0	—	—
30代	34	79.4	5.9	79.4	5.9	61.8	8.8	—
40代	61	83.6	9.8	88.5	4.9	62.3	8.2	—
50代	63	77.8	11.1	79.4	9.5	71.4	7.9	—
60代	35	74.3	5.7	68.6	11.4	68.6	14.3	—
70代以上	71	35.2	7.0	29.6	4.2	22.5	35.2	9.9



### 【愛知県調査との比較】

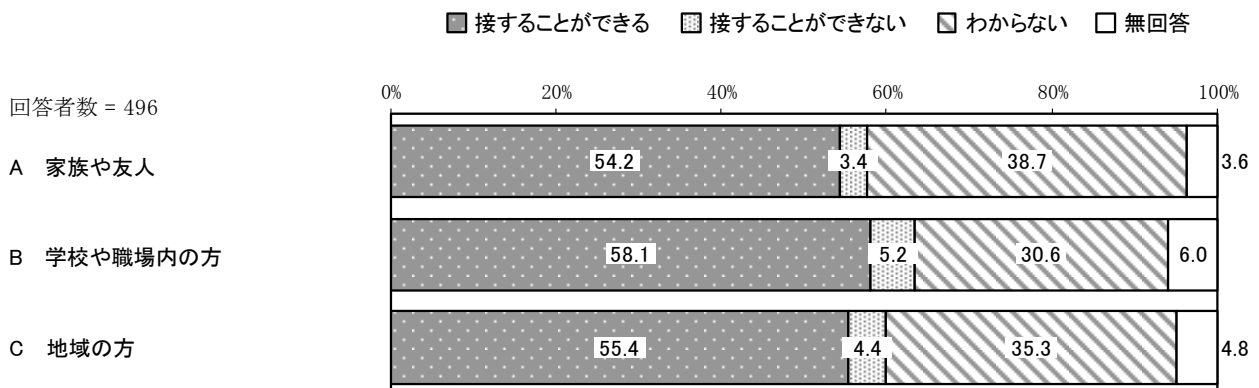
愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「性的少数者を表す言葉のうち、『LGBT』というものがあること」の割合が低くなっています。



※愛知県調査には「1つも知らなかった」の選択肢はありません。

問6 (2) 身近な方などが性的少数者だった場合、あなたはこれまでと変わりなく接することができますか。A~Cの項目について、あてはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。

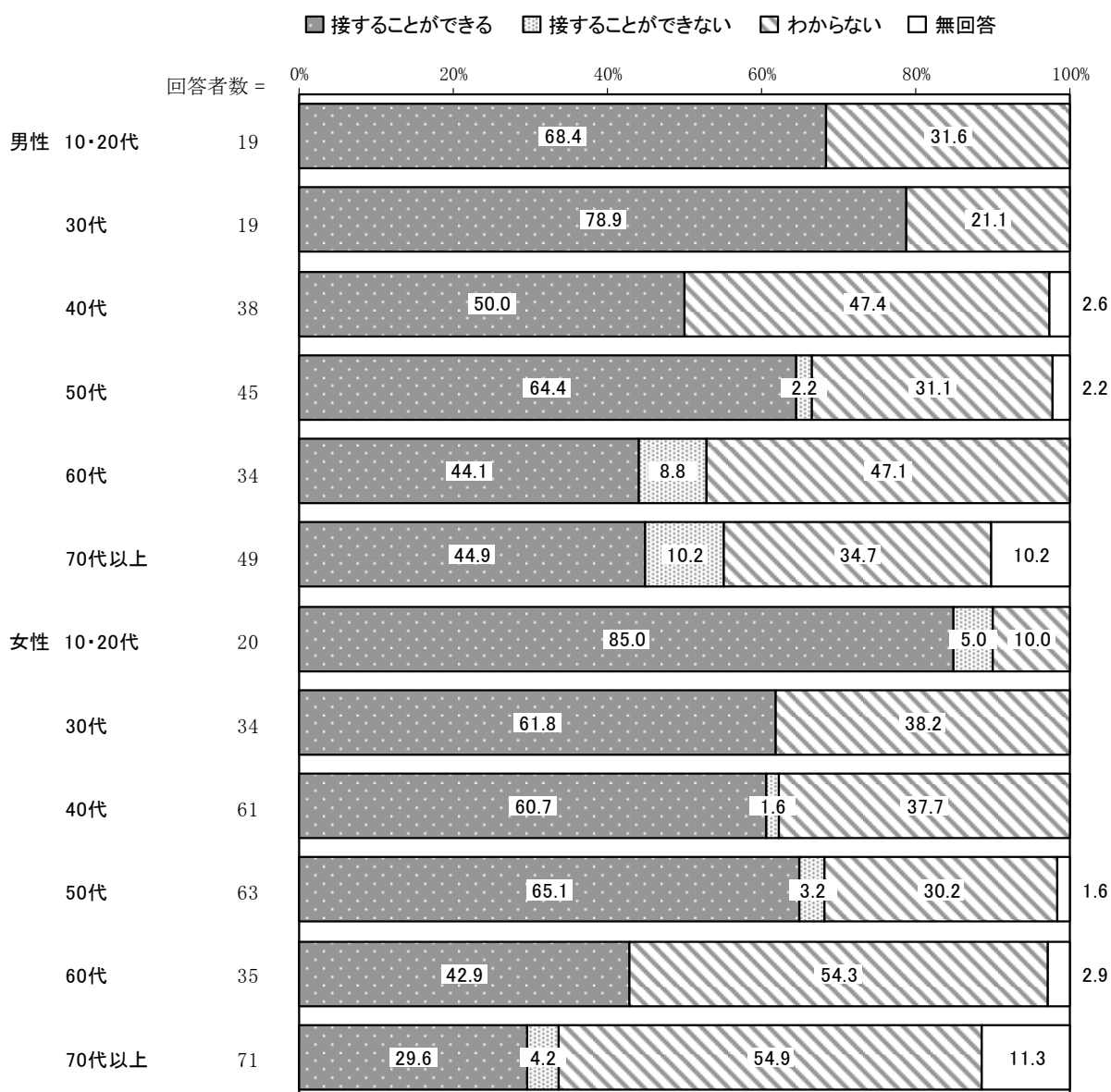
『B 学校や職場内の方』で「接することができる」の割合が高くなっています。



## A 家族や友人

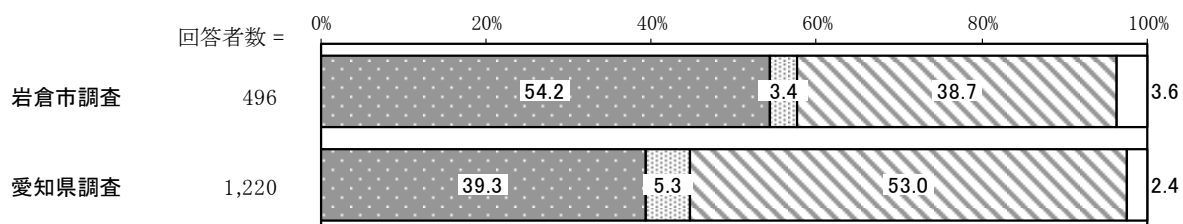
### 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の10・20代で「接することができる」の割合が高く、8割半ばとなっています。



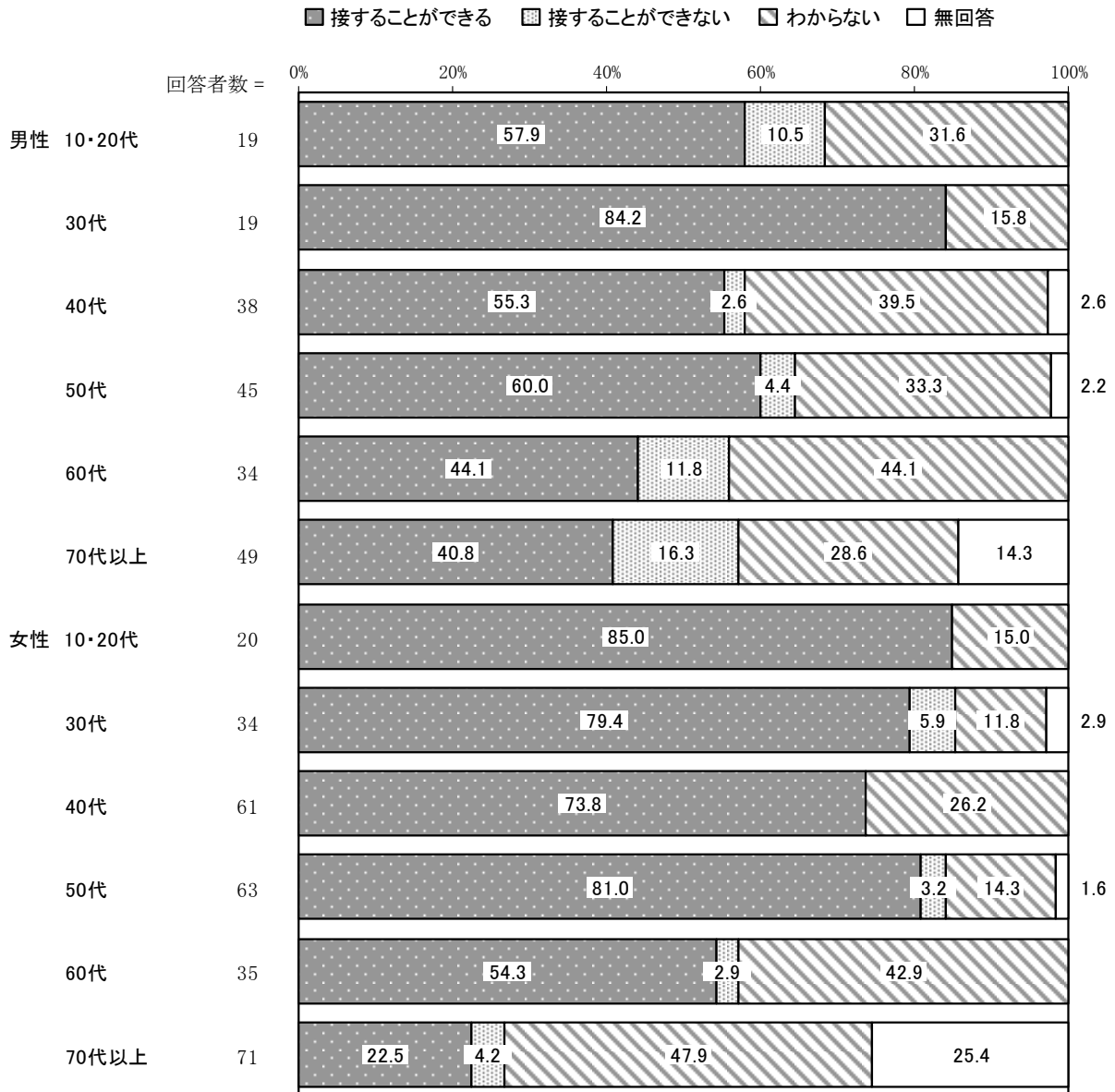
### 【愛知県調査との比較】

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「接することができる」の割合が高くなっています。



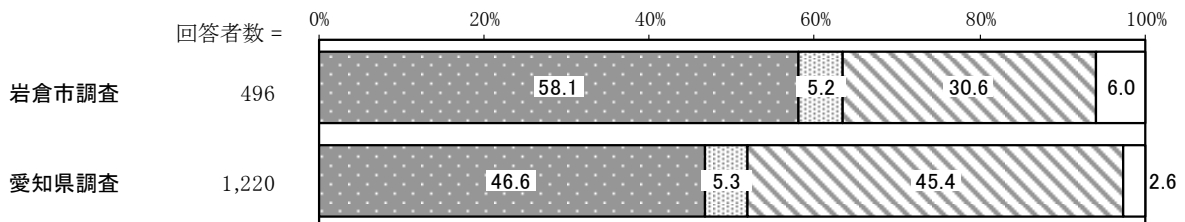
## B 学校や職場内の方

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の30代、女性の10・20代で「接することができる」の割合が高く、8割半ばとなっています。



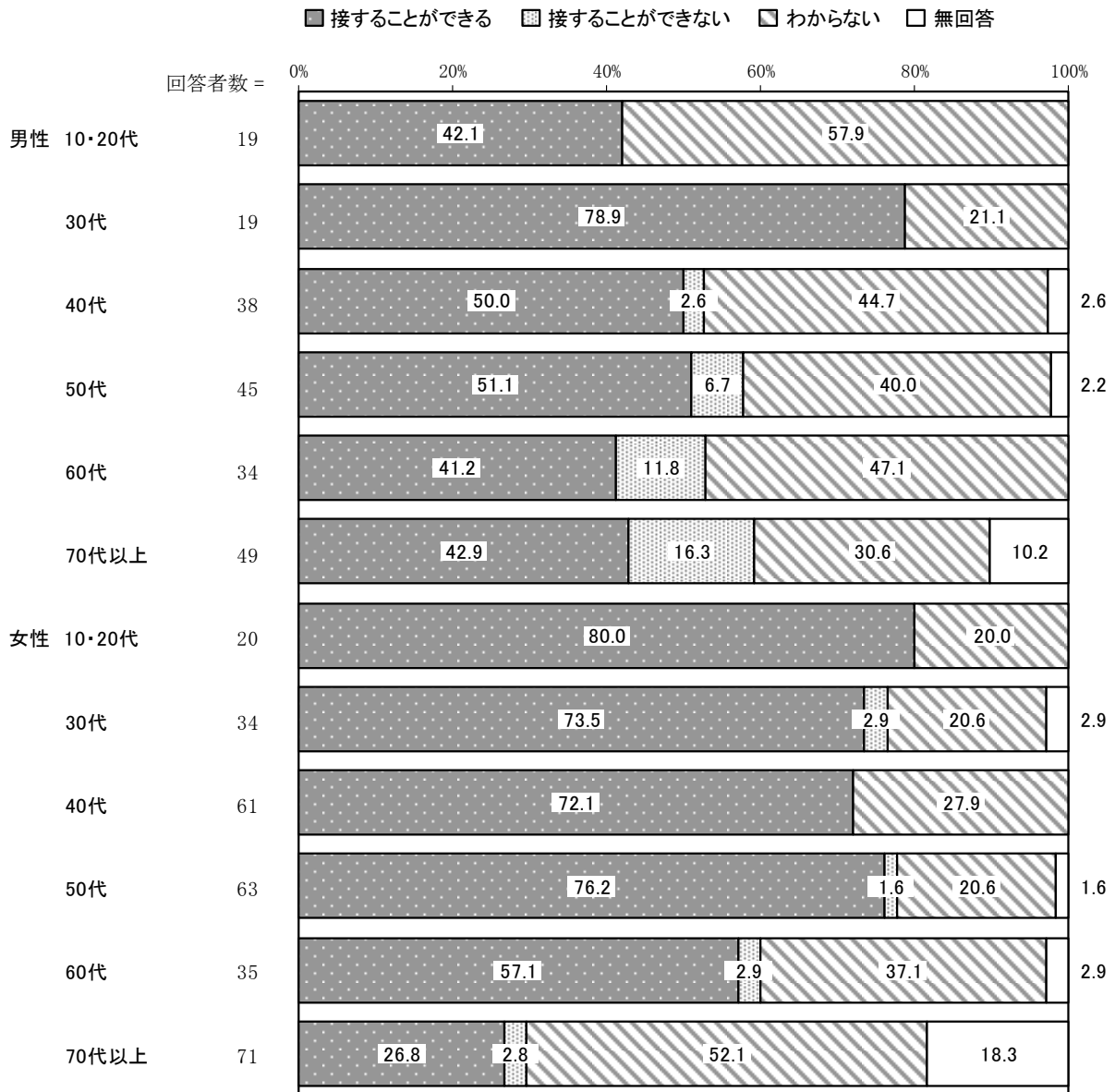
### 【愛知県調査との比較】

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「接することができる」の割合が高くなっています。



### C 地域の方

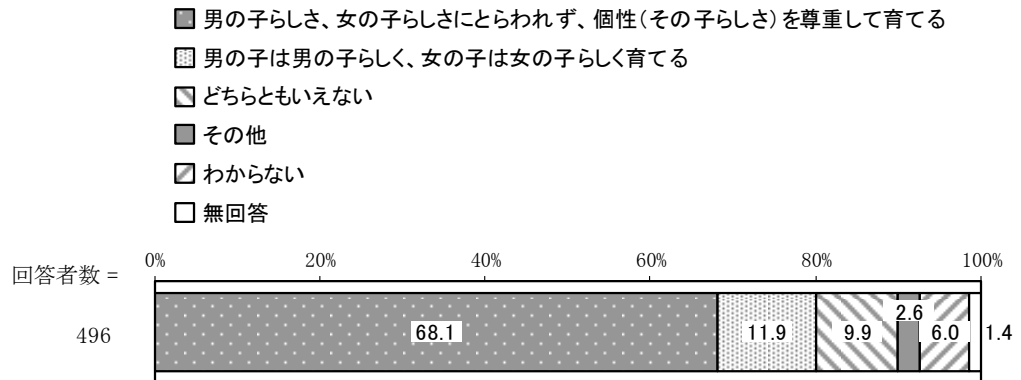
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の30代、女性の10・20代で「接することができる」の割合が高く、約8割となっています。また、男性の70代以上で「接することができない」の割合が高く、1割半ばとなっています。



## 6 子育てにおける男女共同参画について

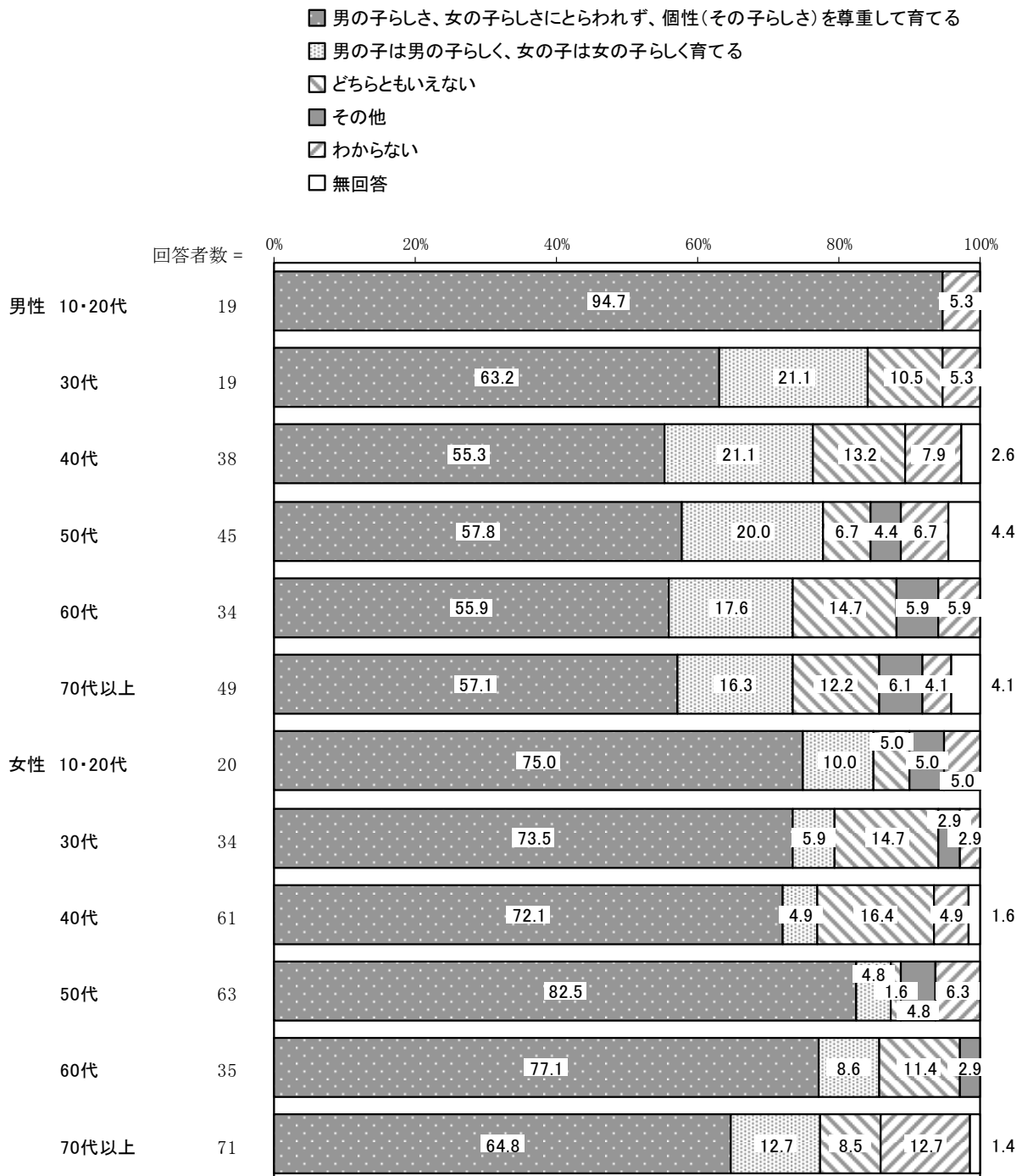
問7 子どもをどのように育てたいと思いますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。

「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、個性（その子らしさ）を尊重して育てる」の割合が68.1%と最も高く、次いで「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる」の割合が11.9%となっています。



【性・年齢別】

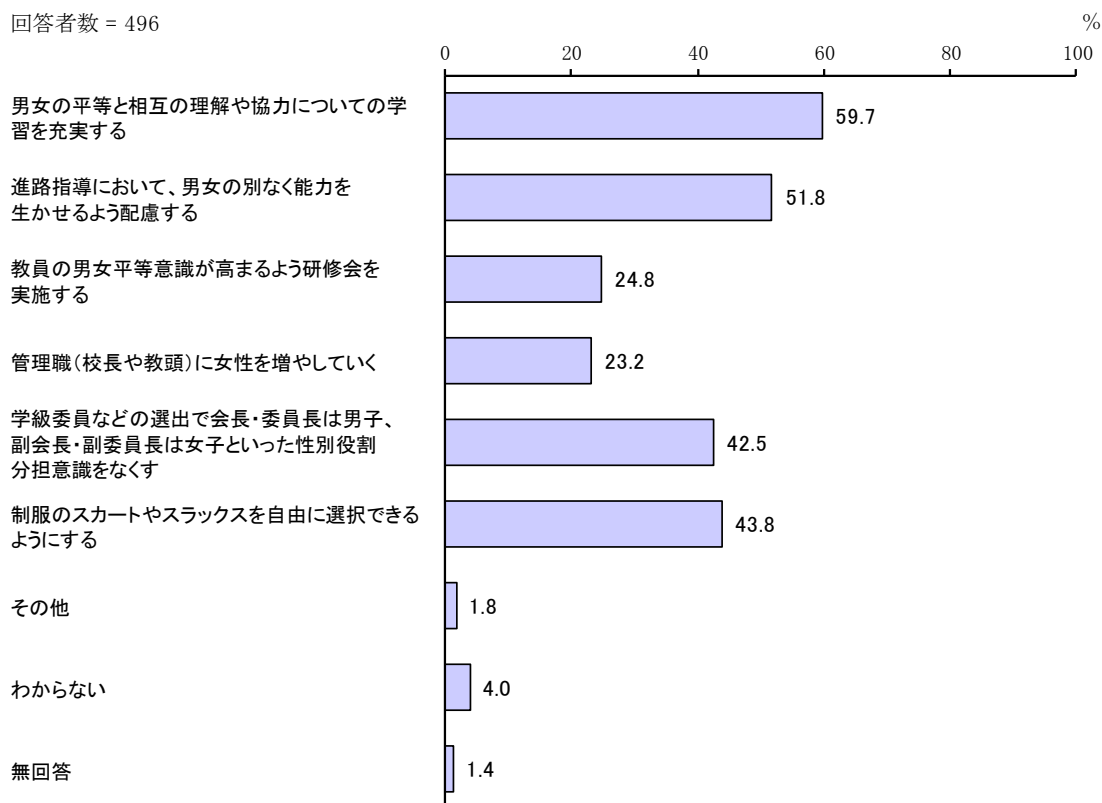
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の10・20代で「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、個性（その子らしさ）を尊重して育てる」の割合が高く、9割半ばとなっています。また、男性の30代から50代で「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる」の割合が高く、約2割となっています。



問8 学校において男女平等教育を推進するために特に何が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。

「男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」の割合が59.7%と最も高く、次いで「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」の割合が51.8%、「制服のスカートやスラックスを自由に選択できるようにする」の割合が43.8%となっています。

回答者数 = 496



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の10・20代で「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」「制服のスカートやスラックスを自由に選択できるようにする」の割合が高く、7割以上となっています。

位：%

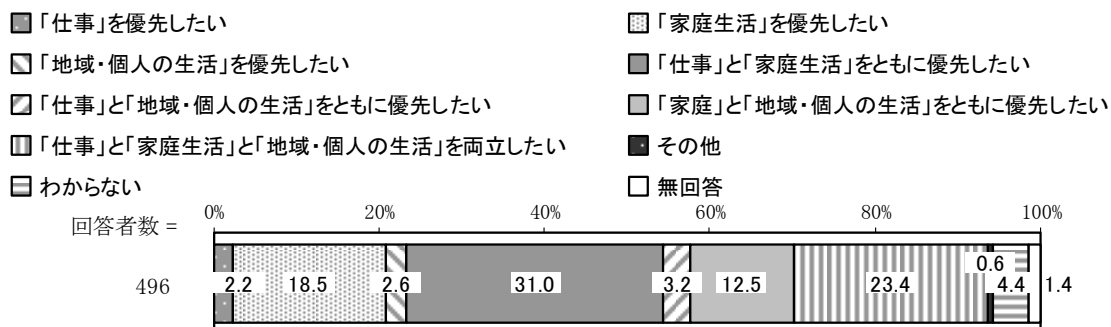
区分	有効回答数(件)	男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	教員の男女平等意識が高まるよう研修会を実施する	管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく	学級委員などの選出で会長・委員長は男子、副会長・副委員長は女子といった性別役割分担意識をなくす	制服のスカートやスラックスを自由に選択できるようにする	その他	わからない	無回答
男性 10・20代	19	73.7	63.2	31.6	15.8	15.8	36.8	—	—	5.3
30代	19	68.4	42.1	36.8	21.1	31.6	42.1	5.3	5.3	—
40代	38	65.8	52.6	23.7	18.4	47.4	50.0	2.6	—	2.6
50代	45	55.6	53.3	17.8	24.4	46.7	37.8	—	4.4	—
60代	34	67.6	38.2	38.2	17.6	35.3	32.4	2.9	5.9	2.9
70代以上	49	57.1	55.1	18.4	30.6	42.9	22.4	4.1	4.1	4.1
女性 10・20代	20	40.0	70.0	10.0	40.0	45.0	75.0	—	—	—
30代	34	50.0	47.1	26.5	35.3	41.2	61.8	2.9	2.9	—
40代	61	57.4	47.5	18.0	23.0	54.1	49.2	1.6	1.6	1.6
50代	63	65.1	41.3	25.4	15.9	41.3	55.6	1.6	6.3	—
60代	35	62.9	62.9	31.4	20.0	37.1	40.0	—	2.9	—
70代以上	71	56.3	62.0	28.2	21.1	43.7	35.2	1.4	8.5	1.4



## 7 家庭、仕事、地域・個人の生活のバランスについて

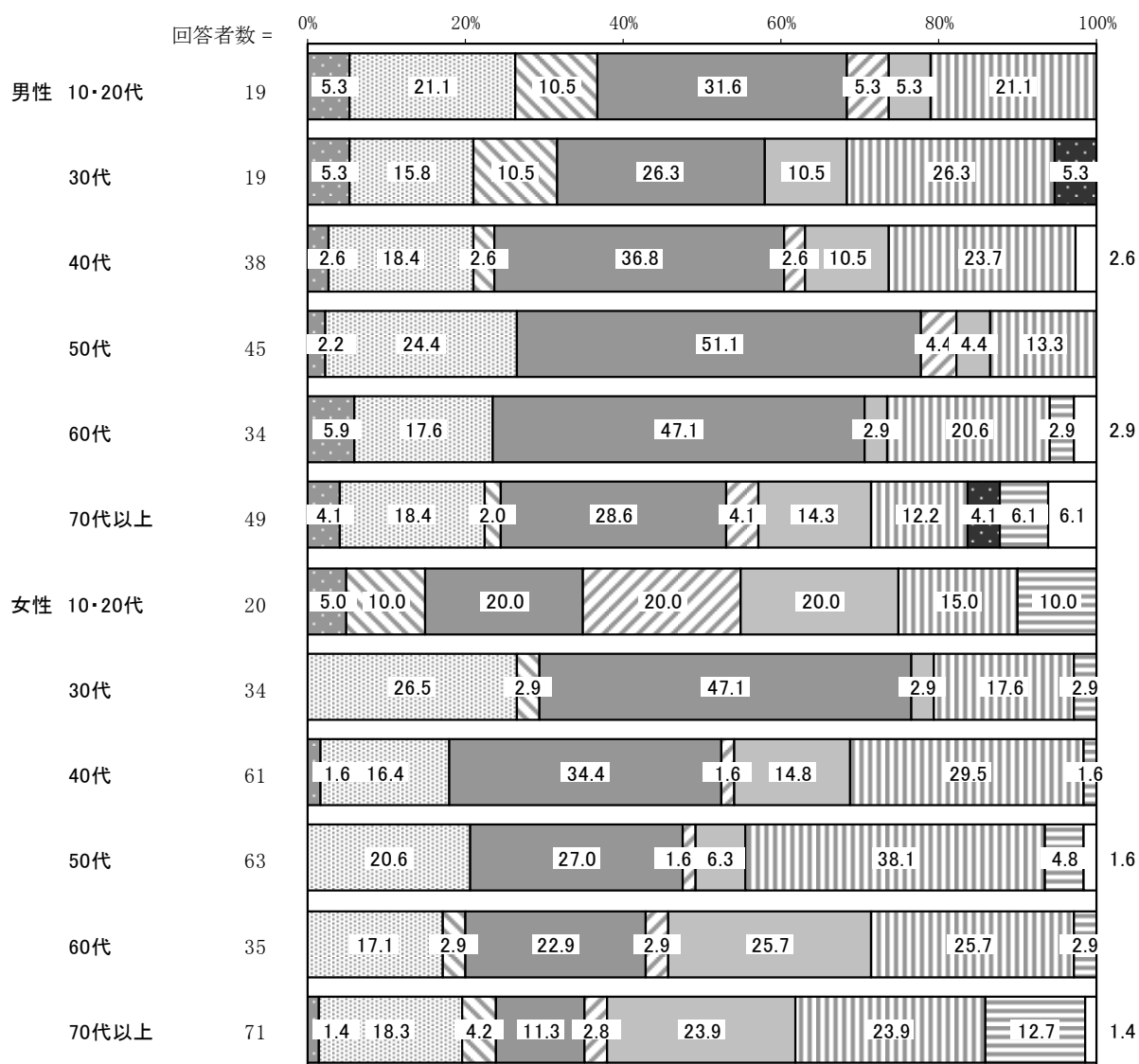
問9 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、希望に最も近いものはどれですか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。

『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」の割合が31.0%と最も高く、次いで『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』を両立したい」の割合が23.4%、『家庭生活』を優先したい」の割合が18.5%となっています。



### 【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、男性の50代、60代、女性の30代で『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」の割合が高く、約5割となっています。

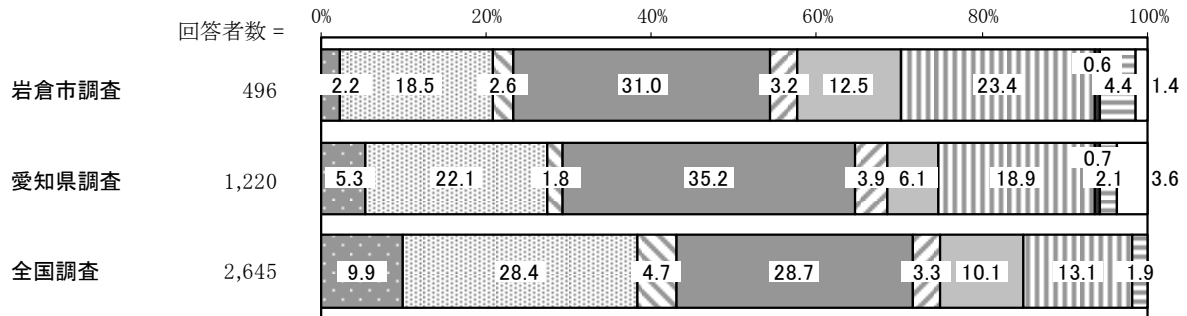


**【愛知県調査・全国調査との比較】**

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「『家庭』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」の割合が高くなっています。

全国調査と比較すると、国に比べ「『仕事』を優先したい」「『家庭生活』を優先したい」の割合が低く、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』を両立したい」の割合が高くなっています。

- 「仕事」を優先したい
- 「地域・個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を両立したい
- わからない
- 「家庭生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 「家庭」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- その他
- 無回答

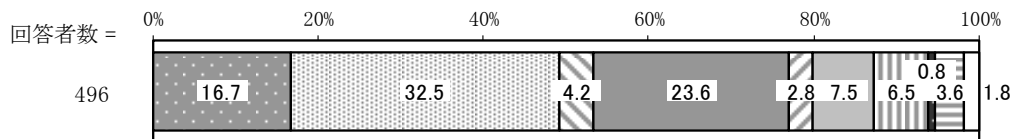


※全国調査に「その他」の選択肢はありません。

問 10 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、現在の状況に最も近いものはどれですか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。

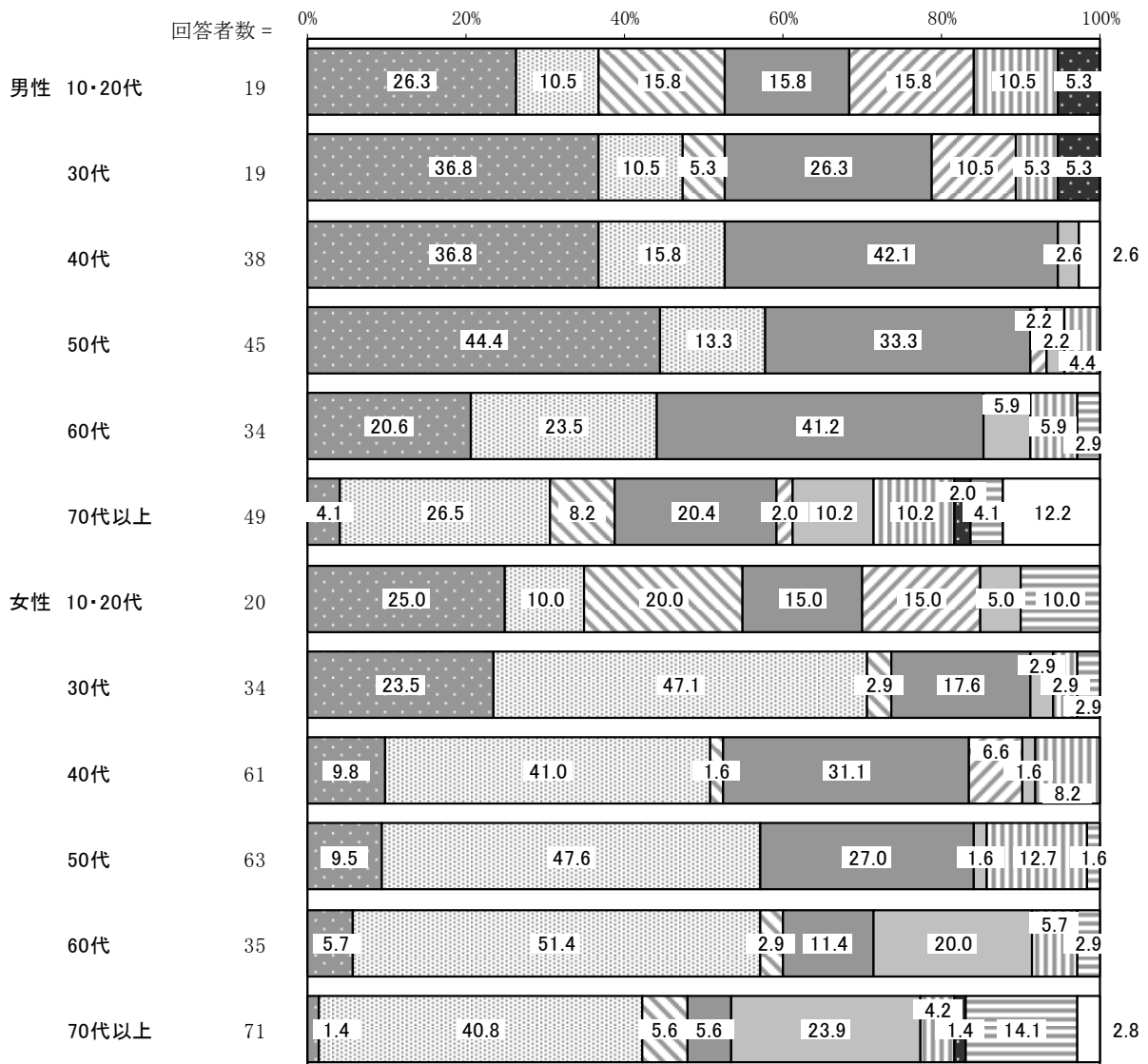
『家庭生活』を優先している」の割合が 32.5%と最も高く、次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」の割合が 23.6%、『仕事』を優先している」の割合が 16.7%となっています。

- 「仕事」を優先している
- 「家庭生活」を優先している
- 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「家庭」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を両立している
- その他
- わからない
- 無回答



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の30代、50代、60代で『家庭生活』を優先している」の割合が高く、約5割となっています。また、男性の50代で『仕事』を優先している」の割合が高く、4割半ばとなっています。

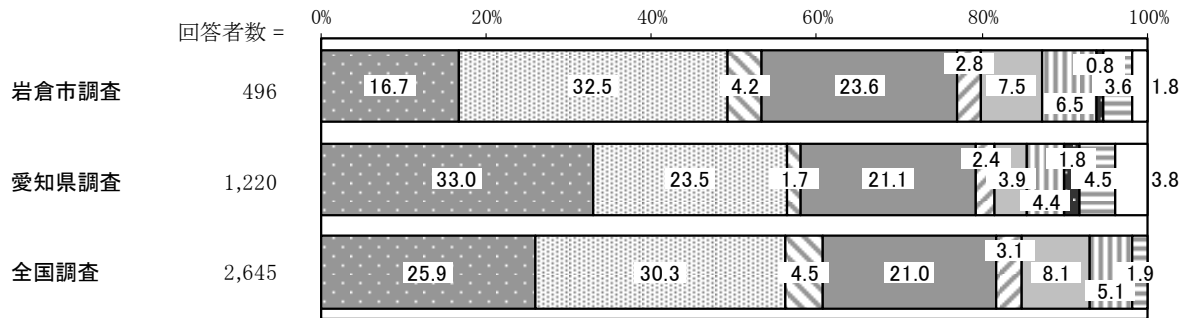


**【愛知県調査・全国調査との比較】**

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、『仕事』を優先している」の割合が低く、『家庭生活』を優先している」の割合が高くなっています。

全国調査と比較すると、国に比べ『仕事』を優先している」の割合が低くなっています。

- 「仕事」を優先している
- 「家庭生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「家庭」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を両立している
- その他
- わからない
- 無回答

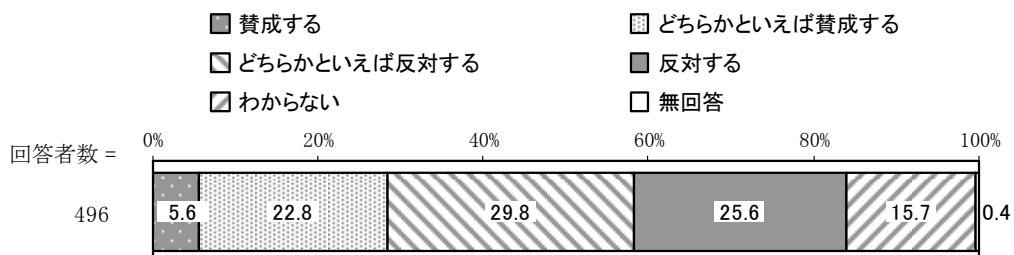


※全国調査に「その他」の選択肢はありません。

## 8 男女の働き方について

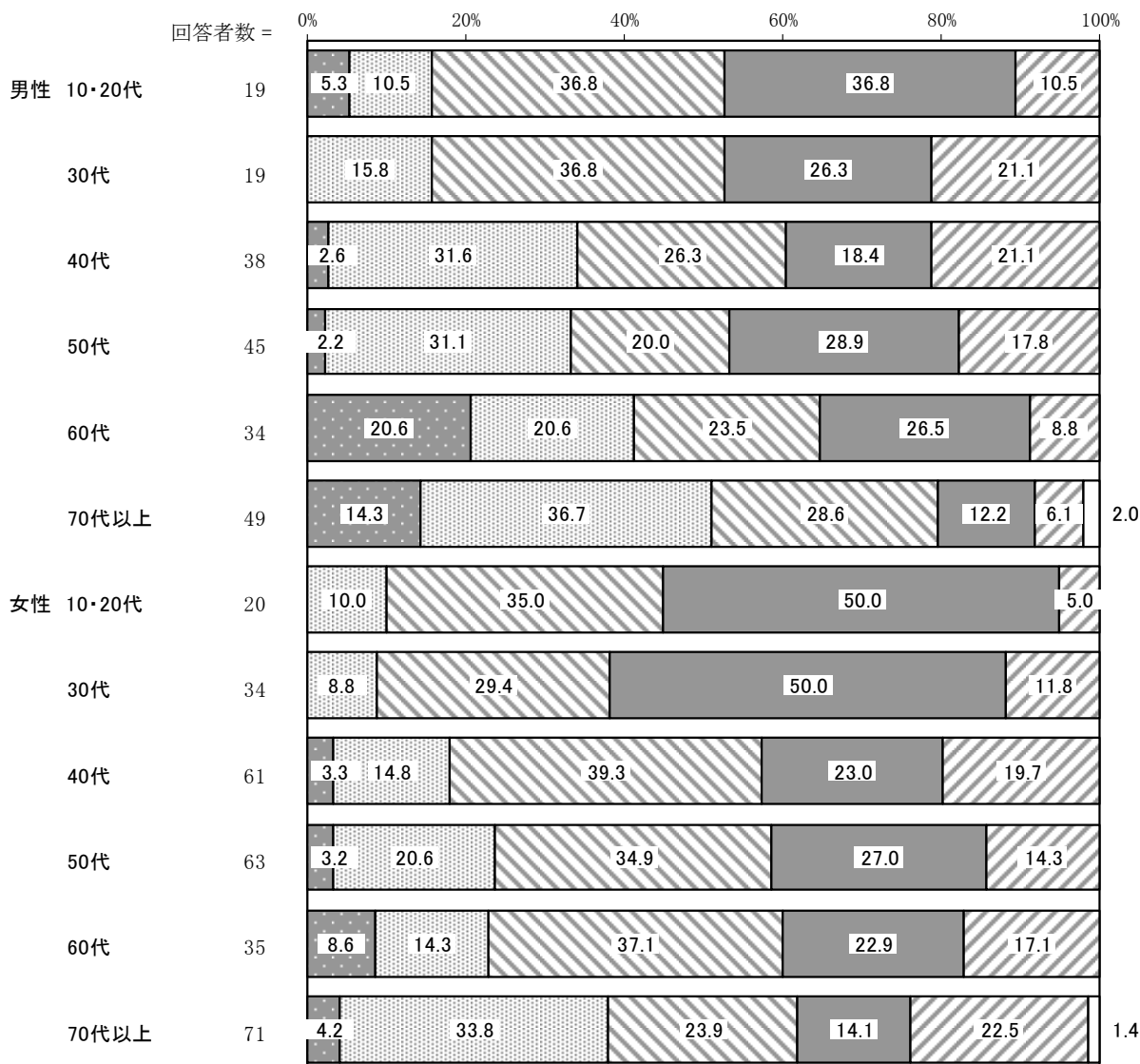
問 11 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どのように思いますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。

「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」をあわせた“賛成する”の割合が28.4%、「どちらかといえば反対する」と「反対する」をあわせた“反対する”の割合が55.4%となっています。



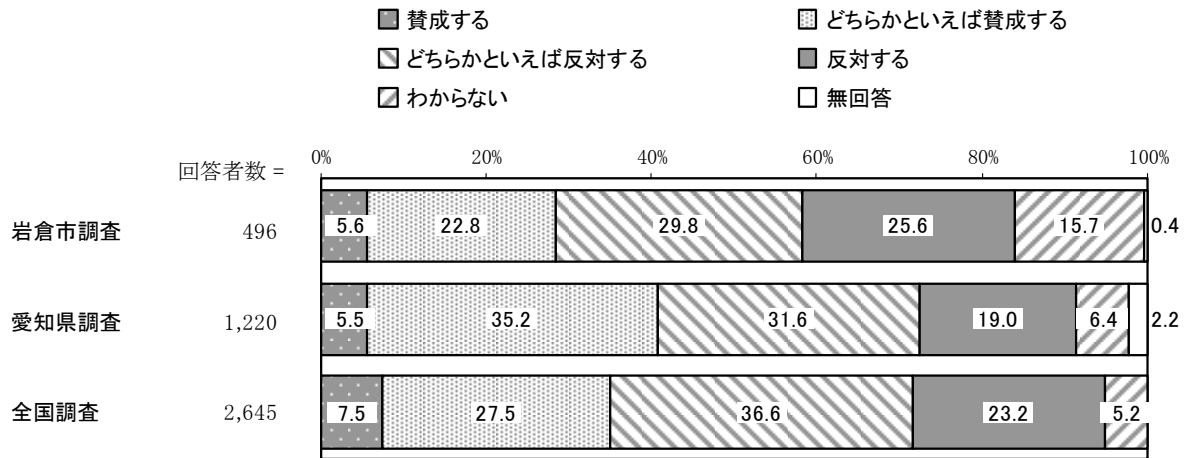
### 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の70代以上で“賛成する”の割合が高く、約5割となっています。また、女性の10・20代で“反対する”の割合が高く、8割半ばとなっています。



【愛知県調査・全国調査との比較】

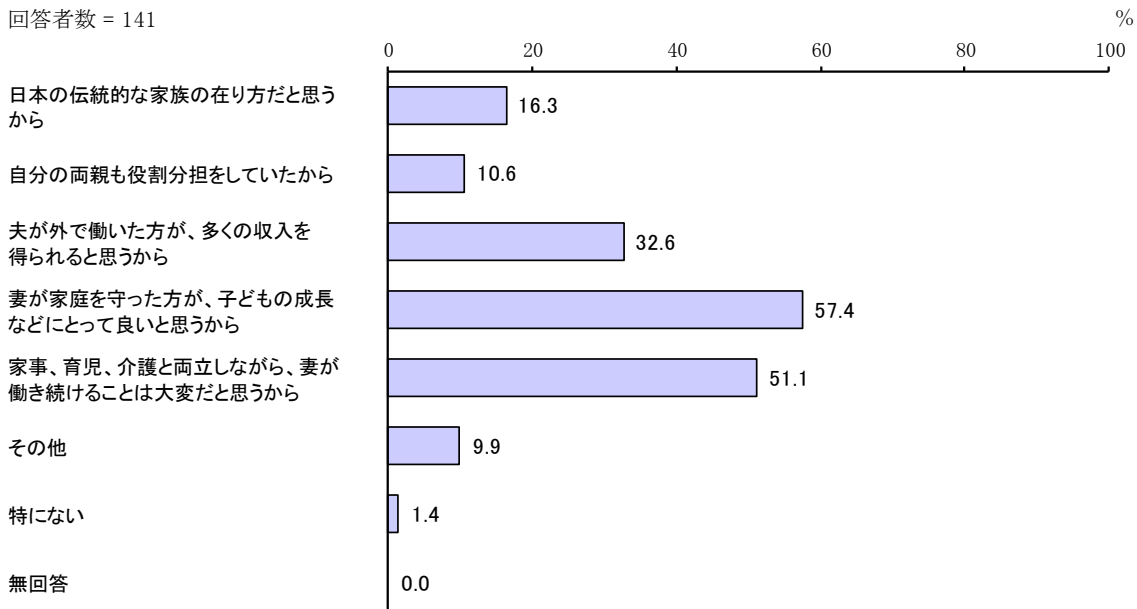
愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、“賛成する”の割合が低くなっています。  
 全国調査と比較すると、国に比べ、“賛成する”の割合が低くなっています。



問 11 で「賛成する」、「どちらかといえば賛成する」と回答した方にお聞きします

問 11—1 そう思うのはなぜですか。次の中からあてはまると思うものをすべて選んで○をつけてください。

「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」の割合が 57.4% と最も高く、次いで「家事、育児、介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」の割合が 51.1%、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」の割合が 32.6% となっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の70代以上で「日本の伝統的な家族の在り方だと思ふから」の割合が高く、4割となっています。また、男性の40代、女性の70代以上で「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思ふから」の割合が高く、約7割となっています。

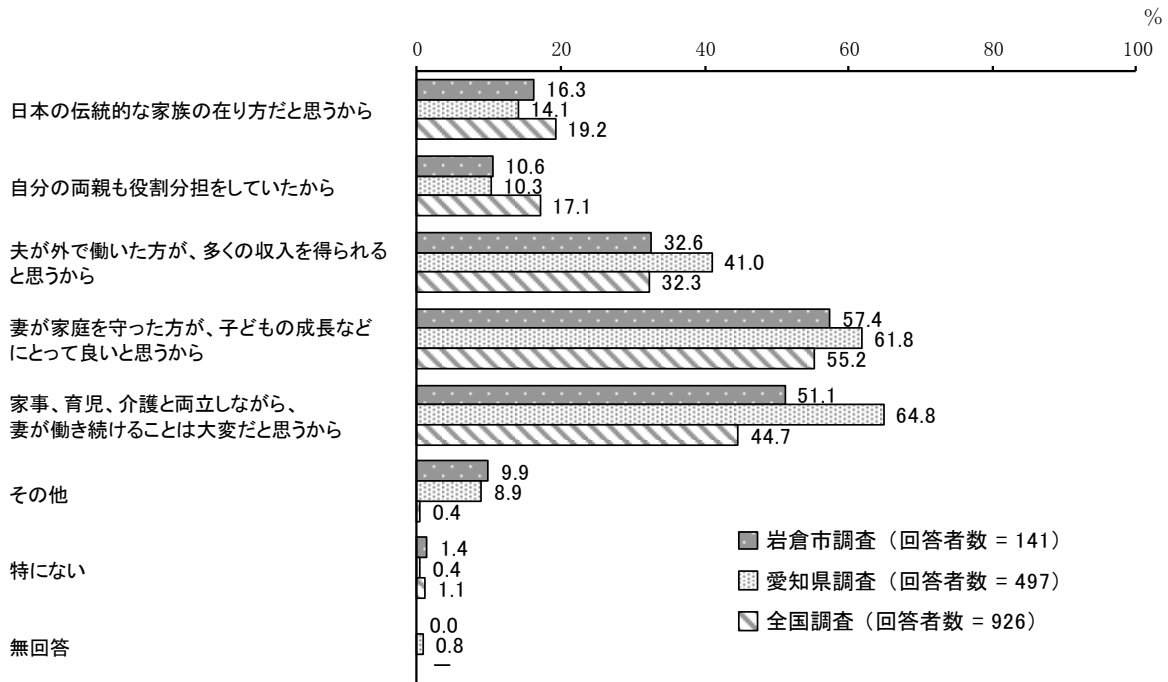
単位：％

区分	有効回答数(件)	日本の伝統的な家族の在り方だと思ふから	自分の両親も役割分担をしていたから	夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思ふから	妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思ふから	家事、育児、介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思ふから	その他	特にない	無回答
男性 10・20代	3	66.7	—	100.0	100.0	33.3	—	—	—
30代	3	—	—	—	33.3	33.3	66.7	—	—
40代	13	—	7.7	46.2	69.2	53.8	—	—	—
50代	15	6.7	20.0	26.7	40.0	66.7	6.7	—	—
60代	14	7.1	7.1	14.3	42.9	50.0	21.4	—	—
70代以上	25	40.0	12.0	32.0	56.0	44.0	4.0	—	—
女性 10・20代	2	—	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	—	—
30代	3	—	—	66.7	66.7	100.0	—	—	—
40代	11	—	18.2	45.5	63.6	45.5	9.1	9.1	—
50代	15	13.3	13.3	40.0	60.0	66.7	20.0	6.7	—
60代	8	25.0	—	25.0	25.0	50.0	12.5	—	—
70代以上	27	14.8	7.4	22.2	70.4	44.4	3.7	—	—

### 【愛知県調査・全国調査との比較】

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」「家事、育児、介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」の割合が低くなっています。

全国調査と比較すると、国に比べ、「自分の両親も役割分担をしていたから」の割合が低く、「家事、育児、介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」の割合が高くなっています。



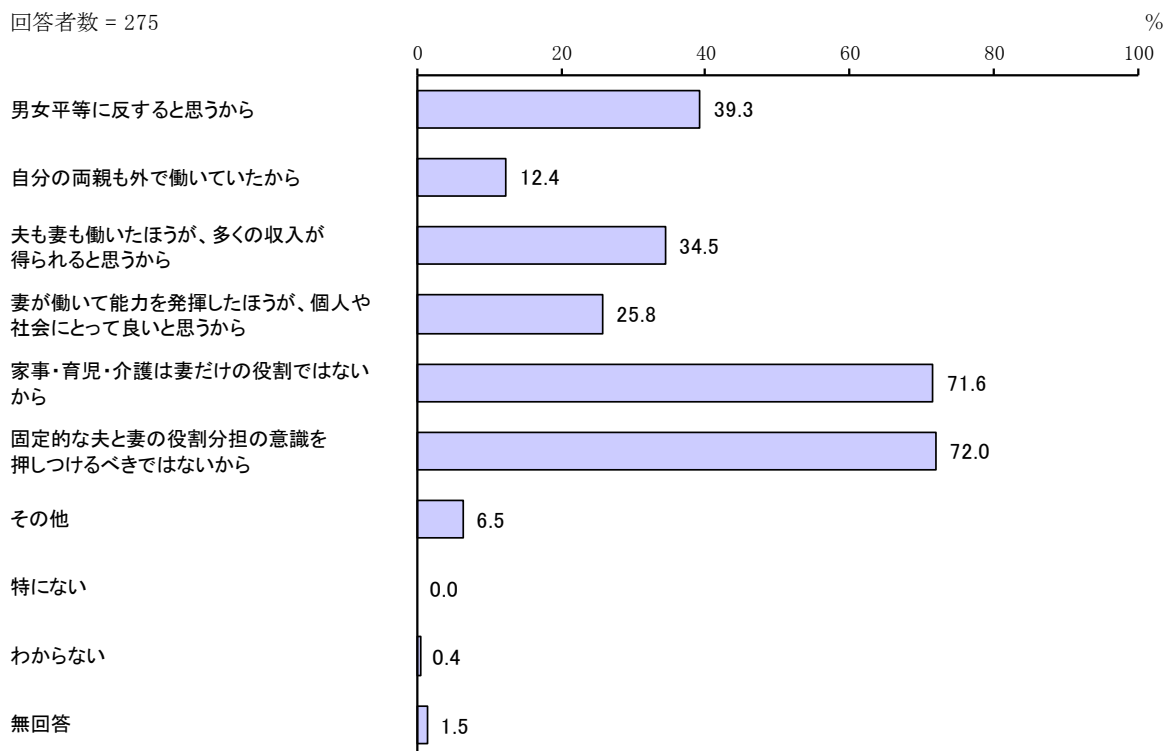


問 11 で「どちらかといえば反対する」、「反対する」、と回答した方にお聞きします

問 11-2 そう思うのはなぜですか。次の中からあてはまると思うものをすべて選んで○をつけてください。

「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」の割合が 72.0%と最も高く、次いで「家事・育児・介護は妻だけの役割ではないから」の割合が 71.6%、「男女平等に反すると思うから」の割合が 39.3%となっています。

回答者数 = 275



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の30代、女性の10・20代で「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」の割合が高く、100.0%となっています。また、女性の60代で「家事・育児・介護は妻だけの役割ではないから」の割合が高く、約9割となっています。

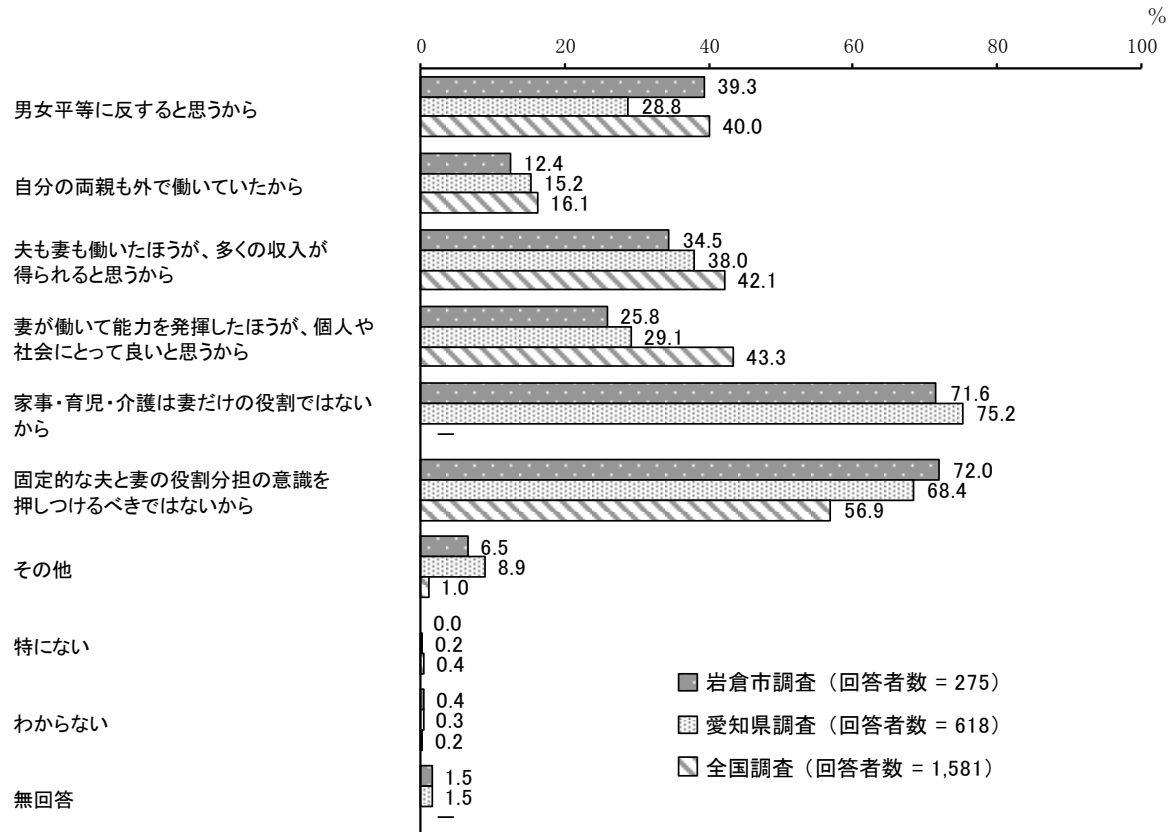
単位：%

区分	有効回答数(件)	男女平等に反すると思うから	自分の両親も外で働いていたから	夫も妻も働いたほうが、多くの収入が得られると思うから	妻が働いて能力を發揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから	家事・育児・介護は妻だけの役割ではないから	固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから	その他	特になし	わからない	無回答
男性 10・20代	14	14.3	14.3	35.7	14.3	85.7	78.6	—	—	—	—
30代	12	58.3	8.3	33.3	50.0	75.0	100.0	—	—	—	—
40代	17	35.3	17.6	52.9	52.9	58.8	58.8	5.9	—	—	—
50代	22	27.3	13.6	31.8	40.9	50.0	59.1	9.1	—	—	4.5
60代	17	41.2	11.8	52.9	35.3	47.1	82.4	—	—	—	—
70代以上	20	40.0	5.0	15.0	35.0	50.0	65.0	10.0	—	—	10.0
女性 10・20代	17	58.8	23.5	47.1	17.6	76.5	100.0	—	—	—	—
30代	27	48.1	18.5	37.0	14.8	74.1	55.6	11.1	—	—	—
40代	38	31.6	10.5	26.3	10.5	76.3	76.3	5.3	—	—	—
50代	39	38.5	7.7	35.9	23.1	84.6	66.7	10.3	—	—	—
60代	21	42.9	9.5	33.3	28.6	90.5	81.0	9.5	—	—	—
70代以上	27	44.4	14.8	29.6	22.2	74.1	70.4	3.7	—	3.7	—

### 【愛知県調査・全国調査との比較】

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、「男女平等に反すると思うから」の割合が高くなっています。

全国調査と比較すると、国に比べ、「夫も妻も働いたほうが、多くの収入が得られると思うから」「妻が働いて能力を發揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから」「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」の割合が高くなっています。

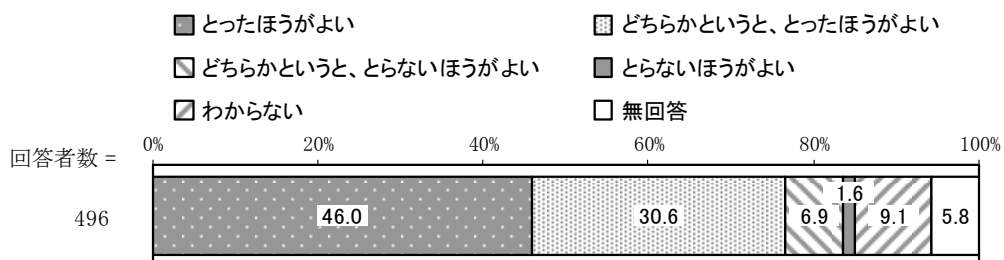


※全国調査には「家事・育児・介護は妻だけの役割ではないから」の選択肢はありません。

問 12 男性が育児や介護をするために休みをとることについて、どのように思いますか。A、Bそれぞれの項目について、あてはまるものを一つずつ選んで○をつけてください。

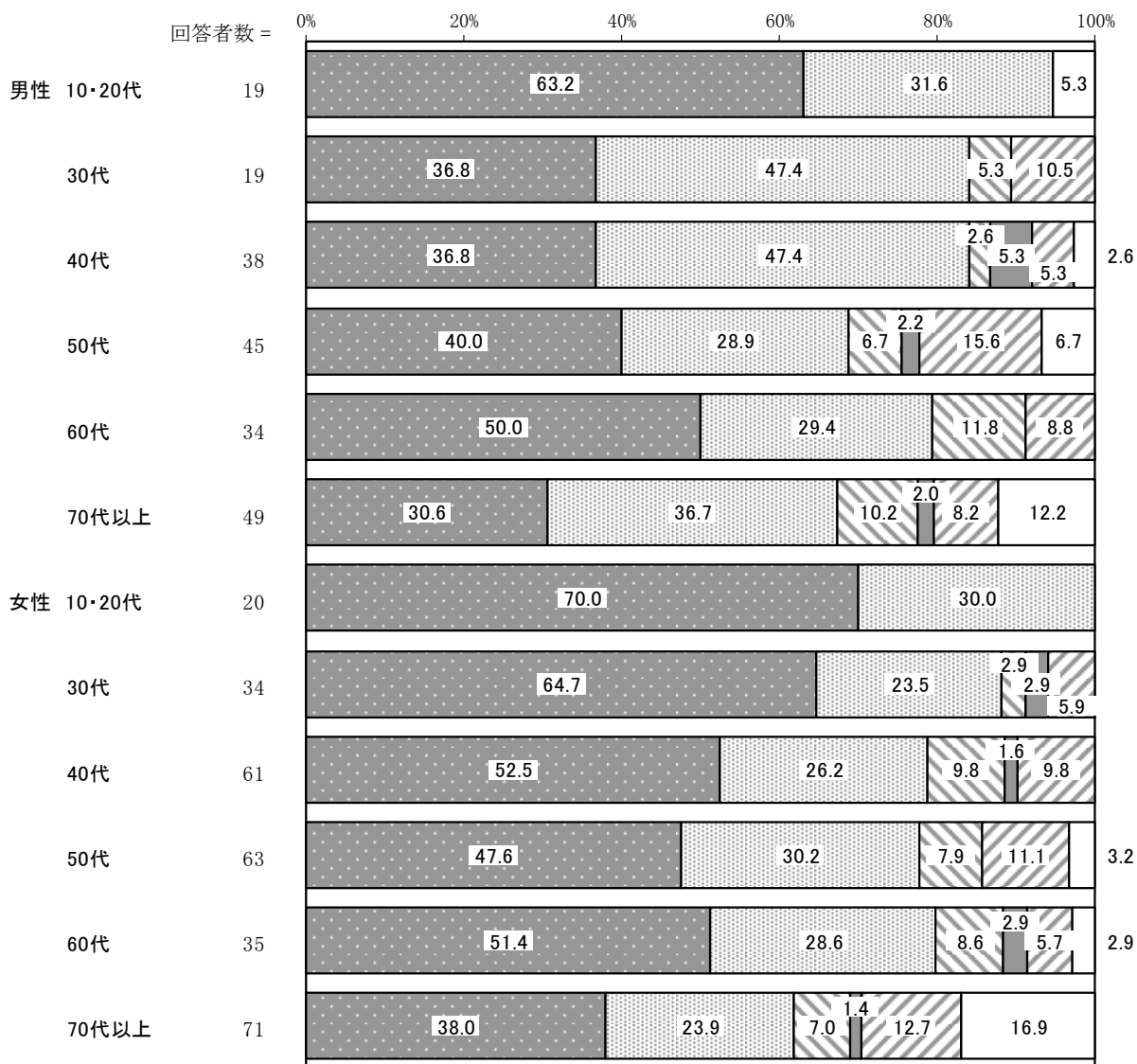
A 育児休暇

「とったほうがよい」と「どちらかという、とったほうがよい」をあわせた“とったほうがよい”の割合が76.6%、「どちらかという、とらないほうがよい」と「とらないほうがよい」をあわせた“とらないほうがよい”の割合が8.5%となっています。



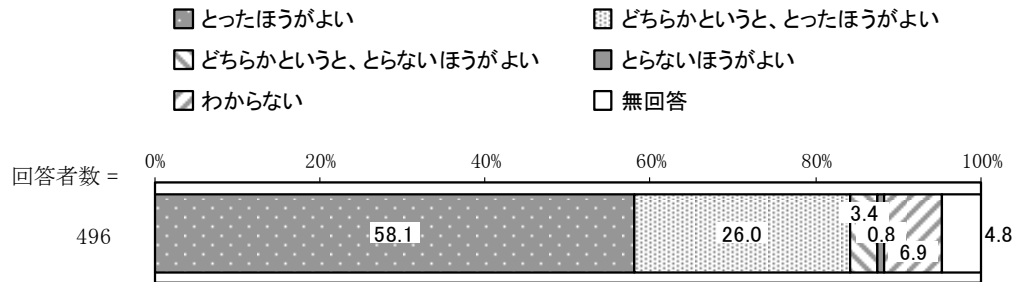
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性10代・20代、女性10代・20代で“とったほうがよい”の割合が高く、9割を超えています。



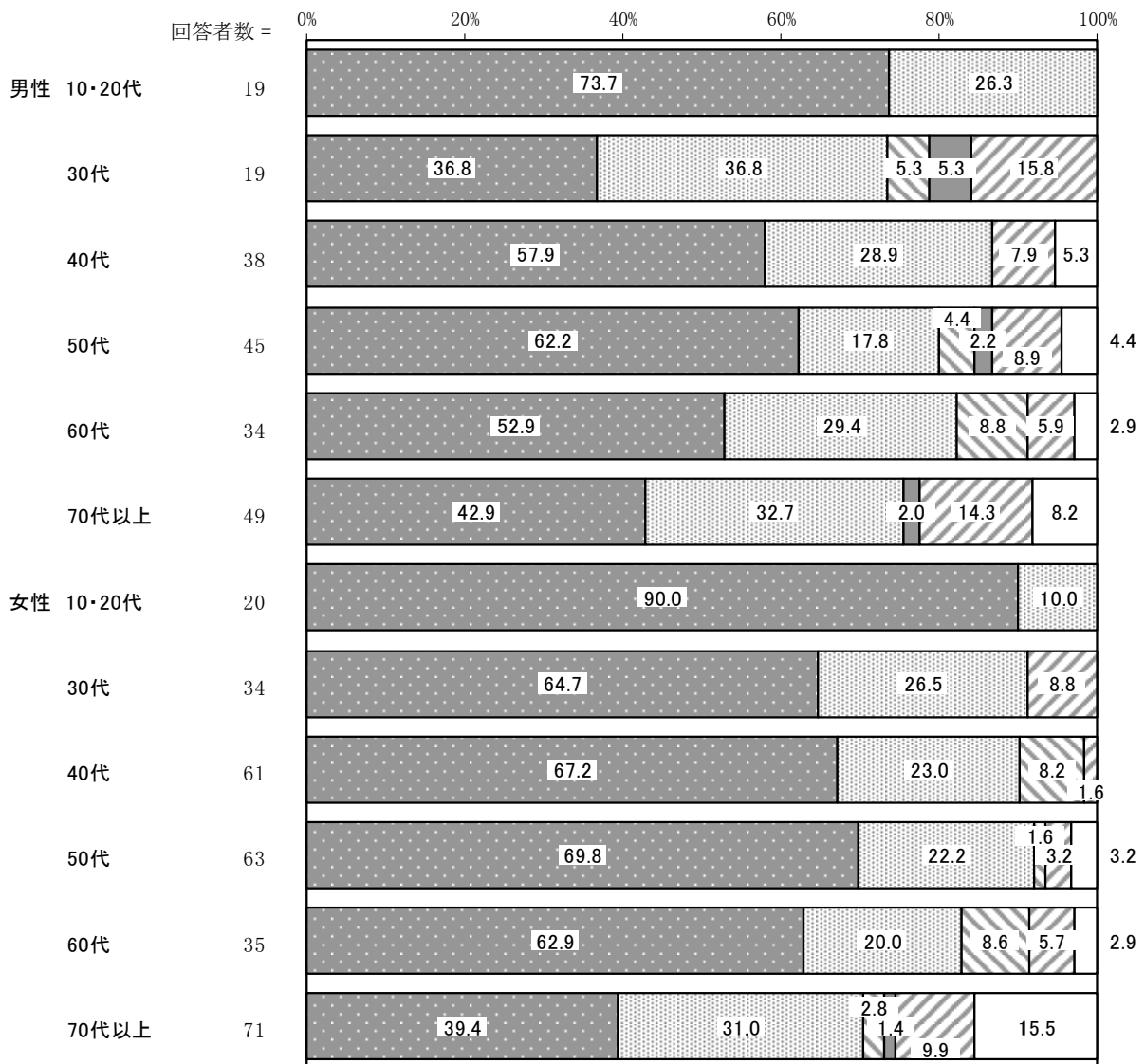
## B 介護休暇

“とったほうがよい”の割合が84.1%、“とらないほうがよい”の割合が4.2%となっています。



### 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男女とも10代・20代で“とったほうがよい”の割合が高く、100.0%となっています。

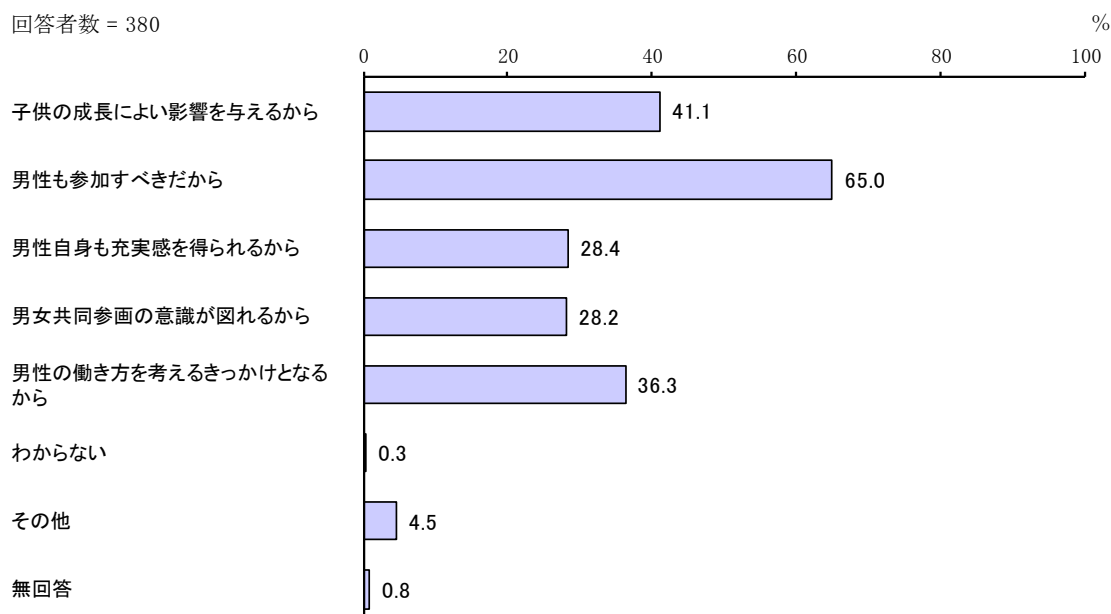


問 12 で「A 育児休暇」、「B 介護休暇」それぞれについて、「とったほうがよい」、「どちらかという」と、「とったほうがよい」、と回答した方にお聞きします

問 12-1 そう思う理由を次の中からすべて選んで○をつけてください。

### A 育児休暇

「男性も参加すべきだから」の割合が 65.0%と最も高く、次いで「子供の成長により影響を与えるから」の割合が 41.1%、「男性の働き方を考えるきっかけとなるから」の割合が 36.3%となっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の10・20代で「男性も参加すべきだから」の割合が高く、100.0%となっています。また、女性の30代で「男性の働き方を考えるきっかけとなるから」の割合が高く、5割半ばとなっています。

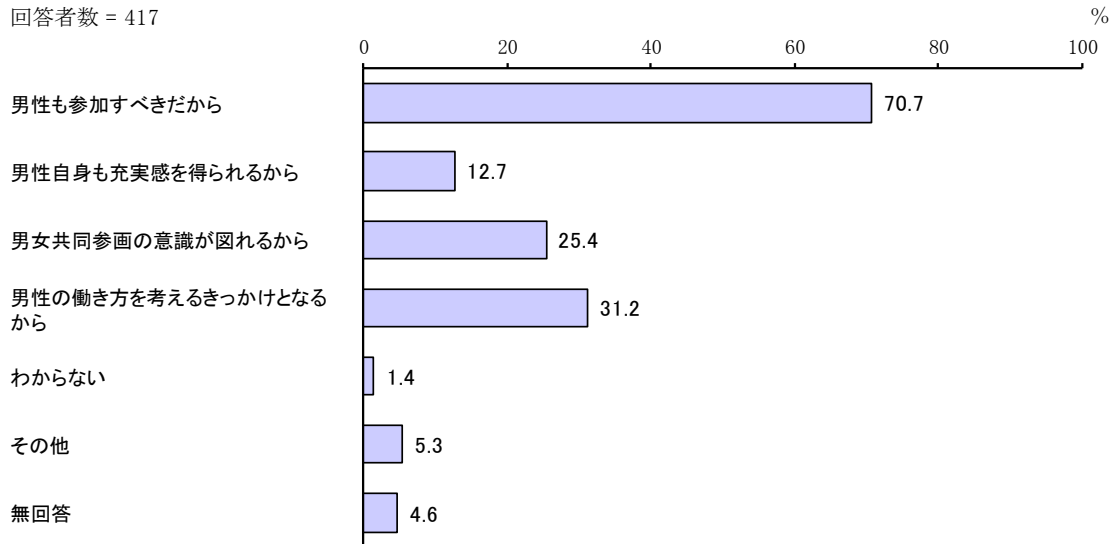
単位：%

区分	有効回答数(件)	子供の成長により影響を与えるから	男性も参加すべきだから	男性自身も充実感を得られるから	男女共同参画の意識が図れるから	男性の働き方を考えるきっかけとなるから	わからない	その他	無回答
男性 10・20代	18	38.9	72.2	33.3	27.8	27.8	—	5.6	—
30代	16	50.0	50.0	25.0	43.8	31.3	—	6.3	—
40代	32	40.6	46.9	34.4	18.8	46.9	—	—	—
50代	31	48.4	48.4	19.4	25.8	35.5	—	3.2	—
60代	27	22.2	51.9	29.6	22.2	33.3	—	3.7	—
70代以上	33	27.3	48.5	24.2	45.5	33.3	—	9.1	6.1
女性 10・20代	20	40.0	100.0	20.0	35.0	45.0	—	—	—
30代	30	43.3	86.7	30.0	26.7	56.7	—	6.7	—
40代	48	41.7	75.0	20.8	16.7	27.1	—	6.3	—
50代	49	40.8	71.4	36.7	20.4	28.6	—	4.1	—
60代	28	42.9	82.1	25.0	35.7	28.6	—	7.1	3.6
70代以上	44	52.3	52.3	36.4	38.6	40.9	2.3	2.3	—

## B 介護休暇

「男性も参加すべきだから」の割合が70.7%と最も高く、次いで「男性の働き方を考えるきっかけとなるから」の割合が31.2%、「男女共同参画の意識が図れるから」の割合が25.4%となっています。

回答者数 = 417





【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の60代で「男性も参加すべきだから」の割合が高く、8割半ばとなっています。また、女性の10・20代で「男女共同参画の意識が図れるから」の割合が高く、4割となっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	男性も参加すべきだから	男性自身も充実感を 得られるから	男女共同参画の意識が 図れるから	男性の働き方を考える きっかけとなるから	わからない	その他	無回答
男性 10・20代	19	84.2	21.1	31.6	26.3	—	—	—
30代	14	57.1	14.3	28.6	42.9	—	7.1	—
40代	33	72.7	6.1	18.2	45.5	—	—	—
50代	36	61.1	5.6	25.0	38.9	2.8	5.6	2.8
60代	28	42.9	17.9	25.0	32.1	3.6	7.1	—
70代以上	37	59.5	8.1	27.0	18.9	2.7	10.8	16.2
女性 10・20代	20	80.0	10.0	40.0	25.0	—	5.0	—
30代	31	83.9	12.9	25.8	48.4	—	6.5	—
40代	55	83.6	5.5	18.2	30.9	3.6	7.3	—
50代	58	79.3	13.8	20.7	27.6	—	6.9	3.4
60代	29	86.2	20.7	27.6	24.1	—	6.9	3.4
70代以上	50	56.0	22.0	32.0	24.0	2.0	—	16.0

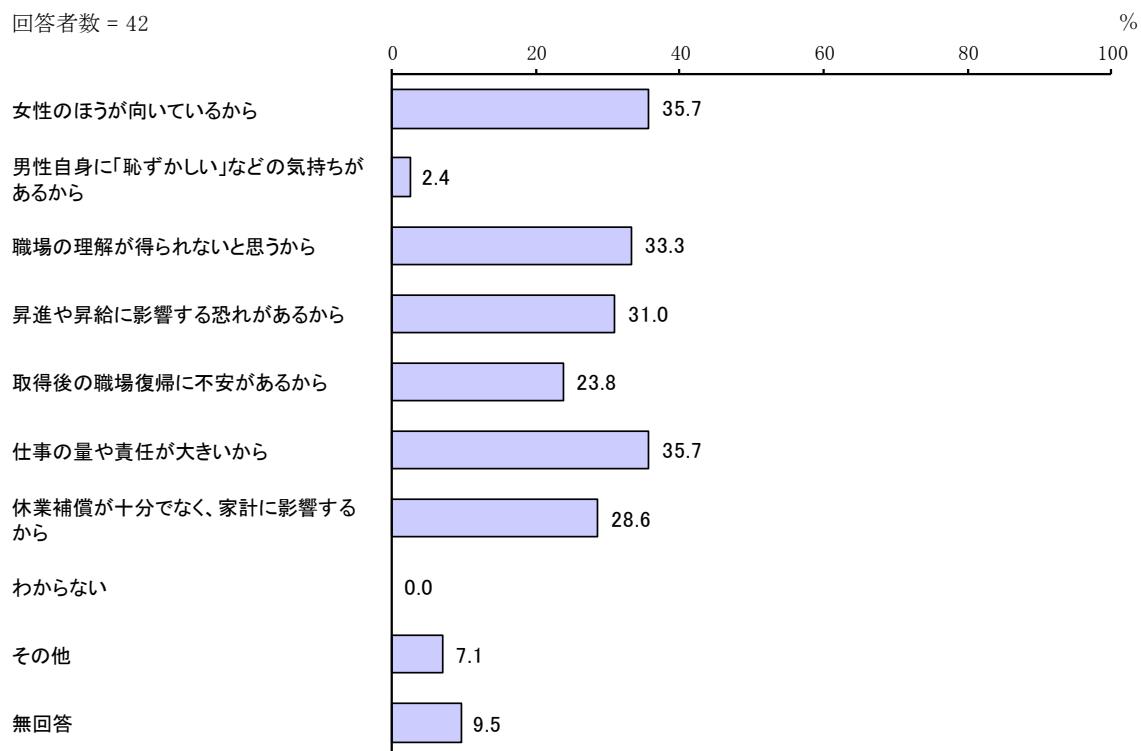
問 12 で「A 育児休暇」、「B 介護休暇」それぞれについて、「どちらかという、とらないほうがよい」、「とらないほうがよい」、と回答した方にお聞きします

問 12-2 そう思う理由を次の中からすべて選んで○をつけてください。

### A 育児休暇

「女性のほうが向いているから」、「仕事の量や責任が大きいから」の割合が 35.7%と最も高く、次いで「職場の理解が得られないと思うから」の割合が 33.3%となっています。

回答者数 = 42



【性・年齢別】

性・年齢別では、有効回答数が少ないため参考とします。

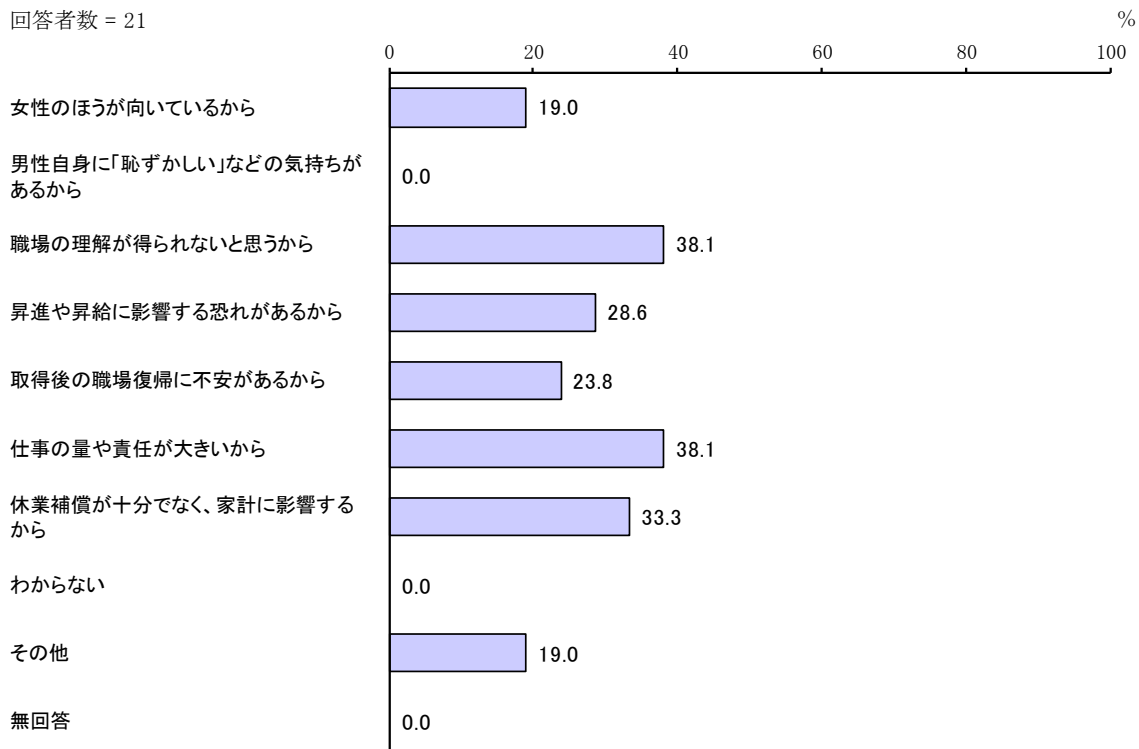
単位：％

区分	有効回答数(件)	女性のほうが向いているから	男性自身に「恥ずかしい」などの気持ちがあるから	職場の理解が得られないと思うから	昇進や昇給に影響する恐れがあるから	取得後の職場復帰に不安があるから	仕事の量や責任が大きいため	休業補償が十分でなく、家計に影響するから	わからない	その他	無回答
男性 10・20代	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
30代	1	—	—	—	100.0	100.0	100.0	100.0	—	—	—
40代	3	33.3	—	33.3	33.3	66.7	66.7	33.3	—	—	—
50代	4	25.0	—	25.0	25.0	25.0	50.0	50.0	—	—	—
60代	4	25.0	—	50.0	—	—	50.0	—	—	—	—
70代以上	6	66.7	—	50.0	16.7	—	—	16.7	—	33.3	—
女性 10・20代	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
30代	2	—	—	—	50.0	50.0	—	50.0	—	—	50.0
40代	7	42.9	14.3	42.9	42.9	28.6	42.9	57.1	—	14.3	—
50代	5	40.0	—	20.0	20.0	20.0	40.0	—	—	—	20.0
60代	4	25.0	—	25.0	25.0	25.0	25.0	50.0	—	—	25.0
70代以上	6	33.3	—	33.3	50.0	16.7	33.3	—	—	—	16.7

## B 介護休暇

「職場の理解が得られないと思うから」、「仕事の量や責任が大きいから」の割合が38.1%と最も高く、次いで「休業補償が十分でなく、家計に影響するから」の割合が33.3%となっています。

回答者数 = 21



【性・年齢別】

性・年齢別では、有効回答数が少ないため参考とします。

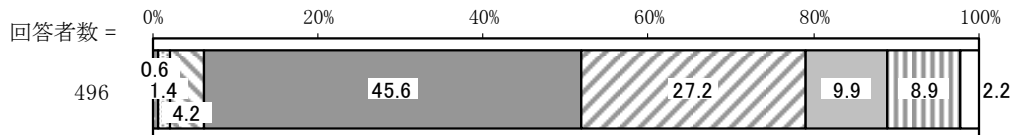
単位：％

区分	有効回答数(件)	女性のほうが向いているから	男性自身に「恥ずかしい」などの気持ちがあるから	職場の理解が得られないと思うから	昇進や昇給に影響する恐れがあるから	取得後の職場復帰に不安があるから	仕事の量や責任が大きいため	休業補償が十分でなく、家計に影響するから	わからない	その他	無回答
男性 10・20代	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
30代	2	50.0	—	—	50.0	50.0	50.0	50.0	—	—	—
40代	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
50代	3	—	—	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	—	33.3	—
60代	3	—	—	33.3	—	33.3	33.3	33.3	—	—	—
70代以上	1	100.0	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—
女性 10・20代	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
30代	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
40代	5	—	—	20.0	20.0	20.0	20.0	60.0	—	60.0	—
50代	1	—	—	100.0	100.0	100.0	100.0	—	—	—	—
60代	3	33.3	—	66.7	33.3	—	33.3	33.3	—	—	—
70代以上	3	33.3	—	33.3	33.3	—	66.7	—	—	—	—

問 13 あなたは、女性が職業をもって働き続けることについてどのように考えますか。  
次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

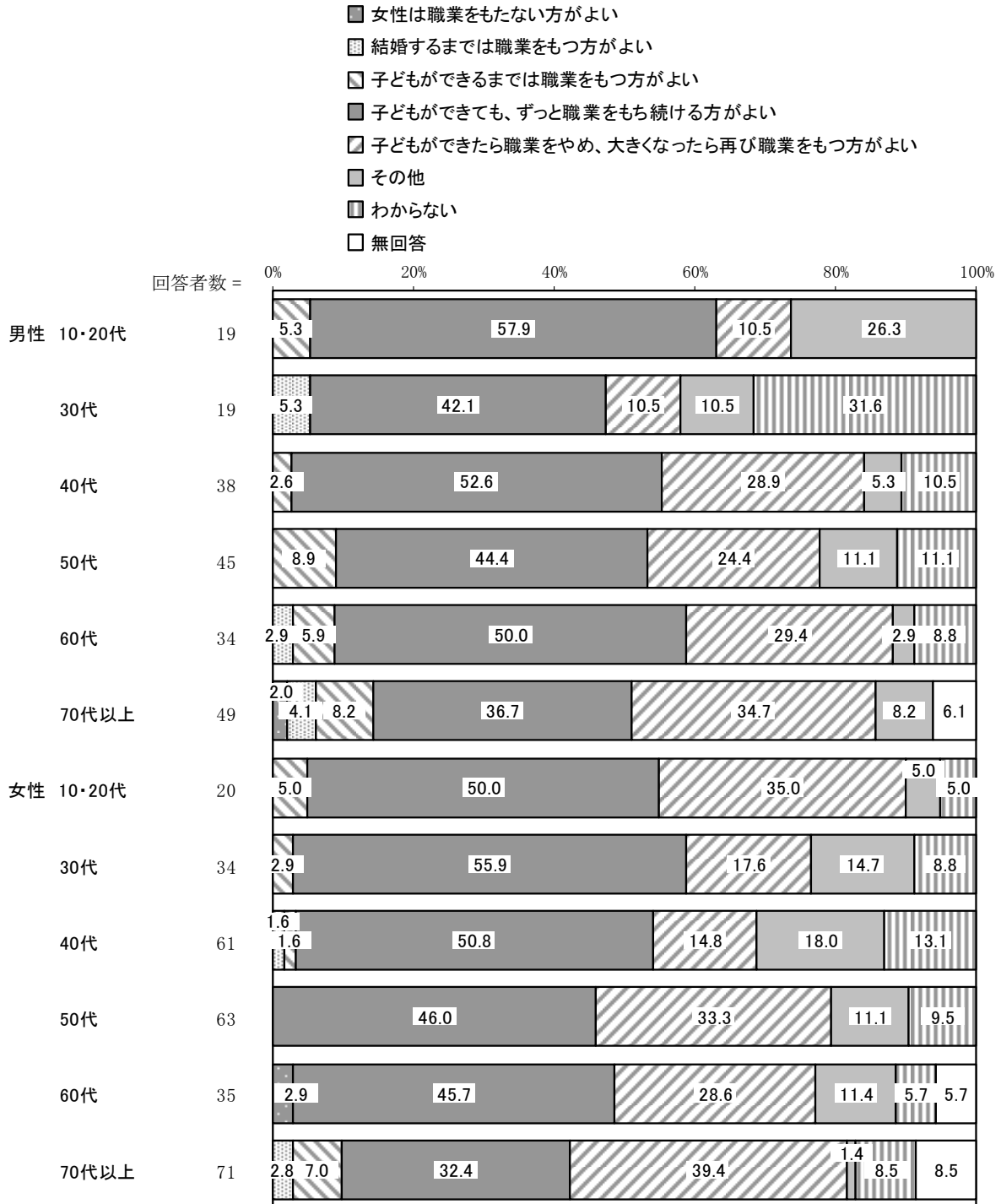
「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」の割合が45.6%と最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合が27.2%となっています。

- 女性は職業をもたない方がよい
- 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 子どもができるまでは職業をもつ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい
- 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- その他
- わからない
- 無回答



【性・年齢別】

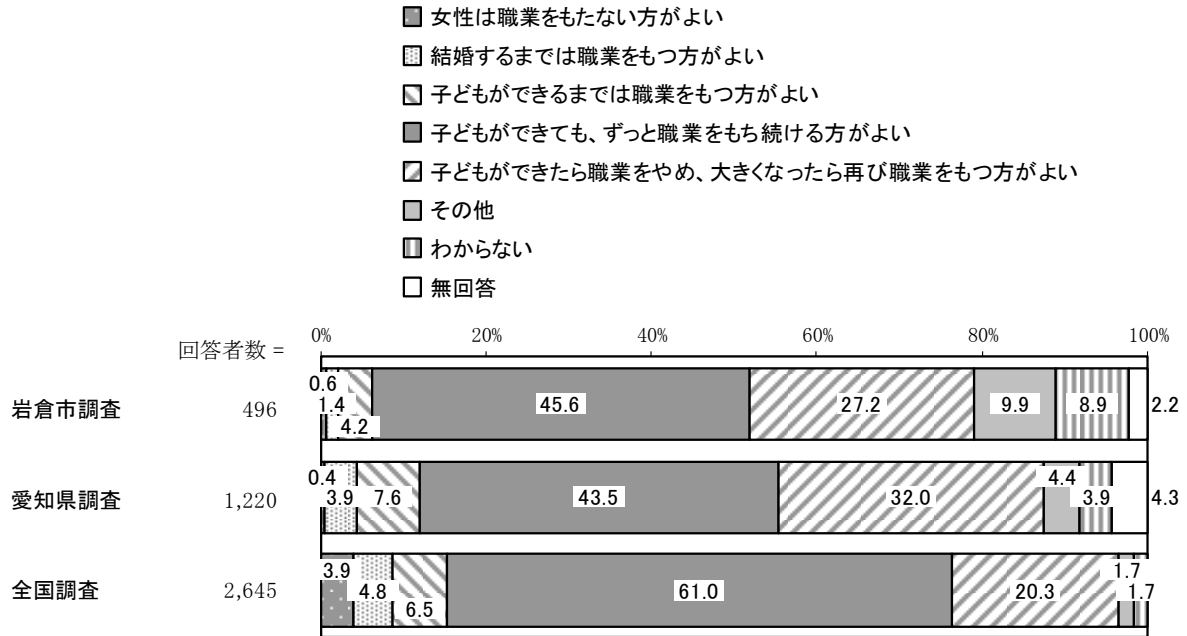
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の10・20代で「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」の割合が高く、約6割となっています。また、女性の70代以上で「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合が高く、約4割となっています。



**【愛知県調査・全国調査との比較】**

愛知県調査と比較すると、愛知県に比べ、大きな差異はみられません。

全国調査と比較すると、国に比べ、「子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい」美割合が低く、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合が高くなっています。

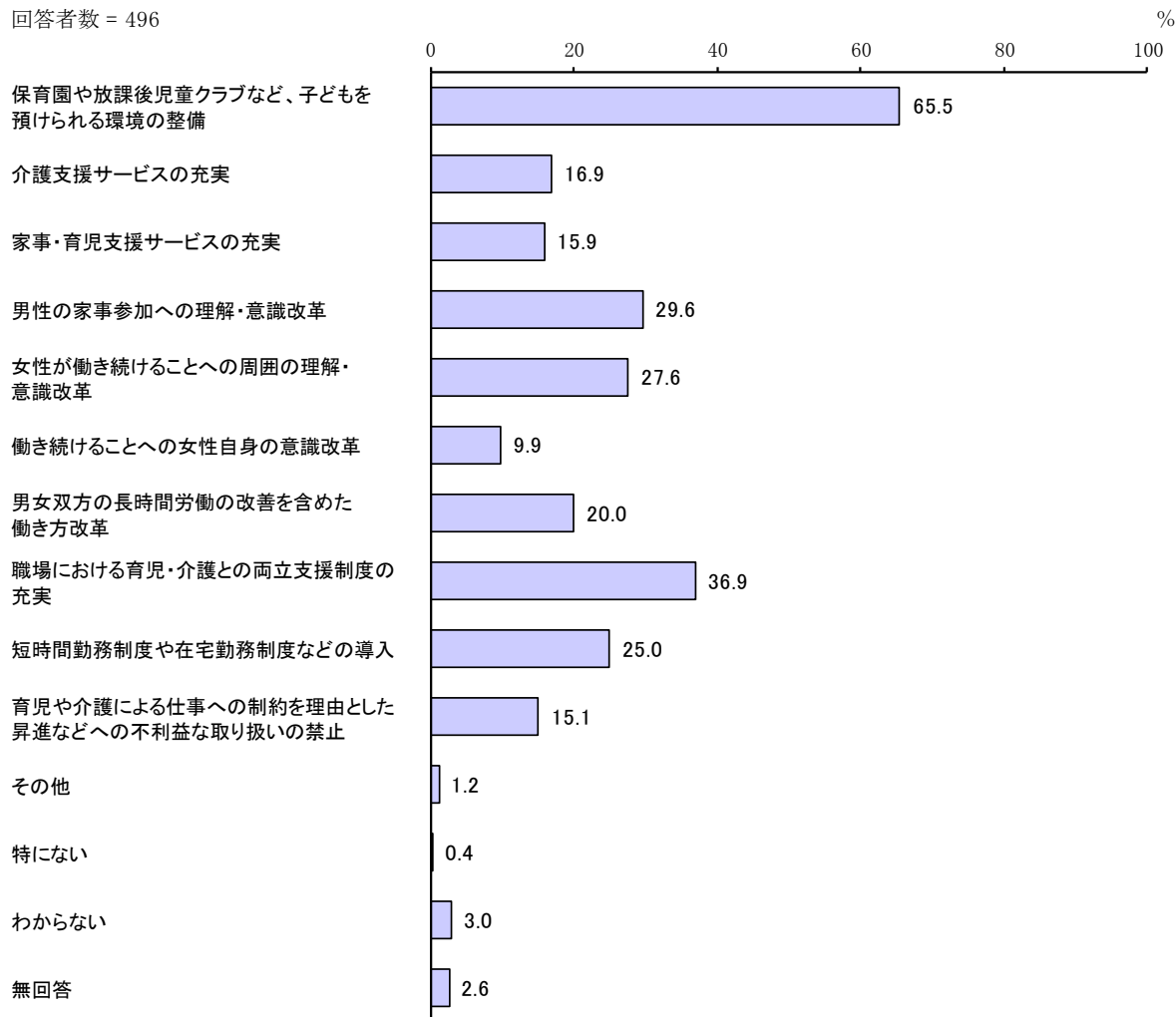




問 14 女性が出産後も、同じ職場に復職し、働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○をつけてください。

「保育園や放課後児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」の割合が 65.5%と最も高く、次いで「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」の割合が 36.9%、「男性の家事参加への理解・意識改革」の割合が 29.6%となっています。

回答者数 = 496



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の40代で「男性の家事参加への理解・意識改革」「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」の割合が高くなっています。また、男性の30代、40代で「働き続けることへの女性自身の意識改革」の割合が高く、3割半ばとなっています。

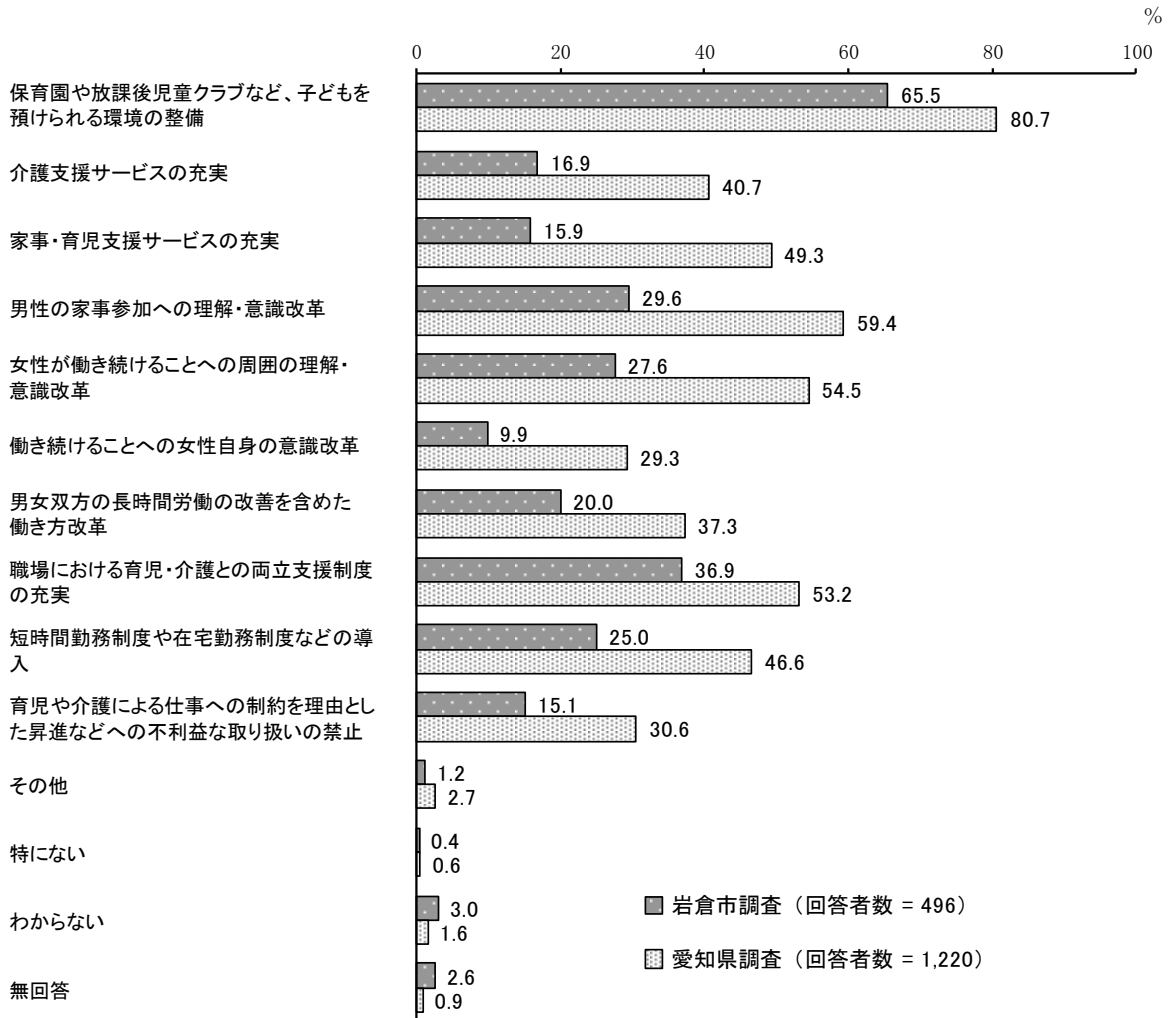
単位：%

区分	有効回答数(件)	保育園や放課後児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	介護支援サービスの充実	家事・育児支援サービスの充実	男性の家事参加への理解・意識改革	女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革	働き続けることへの女性自身の意識改革	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革
男性 10・20代	19	63.2	5.3	31.6	5.3	31.6	5.3	31.6
30代	19	57.9	15.8	10.5	10.5	21.1	36.8	26.3
40代	38	47.4	15.8	10.5	50.0	31.6	36.8	15.8
50代	45	73.3	17.8	24.4	15.6	24.4	11.1	20.0
60代	34	70.6	17.6	20.6	29.4	38.2	2.9	17.6
70代以上	49	75.5	24.5	16.3	22.4	30.6	8.2	14.3
女性 10・20代	20	60.0	15.0	5.0	40.0	40.0	—	30.0
30代	34	64.7	5.9	20.6	35.3	23.5	—	35.3
40代	61	60.7	13.1	9.8	31.1	31.1	6.6	16.4
50代	63	68.3	20.6	20.6	39.7	20.6	6.3	20.6
60代	35	77.1	22.9	17.1	31.4	28.6	2.9	20.0
70代以上	71	63.4	15.5	9.9	29.6	22.5	9.9	14.1

区分	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取り扱いの禁止	その他	特になし	わからない	無回答
男性 10・20代	57.9	15.8	21.1	5.3	—	—	—
30代	21.1	36.8	15.8	5.3	—	5.3	—
40代	18.4	44.7	10.5	—	—	5.3	—
50代	31.1	31.1	11.1	2.2	—	—	4.4
60代	41.2	11.8	11.8	2.9	2.9	2.9	—
70代以上	28.6	8.2	18.4	—	2.0	2.0	2.0
女性 10・20代	25.0	30.0	25.0	—	—	—	10.0
30代	38.2	32.4	11.8	5.9	—	—	5.9
40代	41.0	31.1	19.7	—	—	1.6	4.9
50代	54.0	25.4	14.3	—	—	—	—
60代	37.1	31.4	11.4	—	—	2.9	—
70代以上	36.6	14.1	15.5	—	—	9.9	4.2

【愛知県調査との比較（参考）】

愛知県調査との比較は、回答上限数が異なるため参考とします。

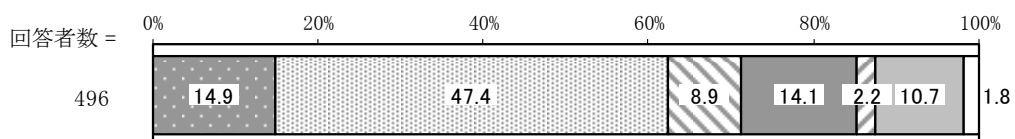


※愛知県調査は、回答の上限がありませんでした。

問 15 離職した女性が、再就職を考えたとき、どのような働き方を望むと思いますか。  
次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。

「仕事と家事・育児・介護が両立しやすい環境で正社員として働きたい」の割合が47.4%と最も高く、次いで「これまでの知識や経験を生かして、正社員として働きたい」の割合が14.9%、「働く時間や場所を考え、パート・アルバイトとして働きたい」の割合が14.1%となっています。

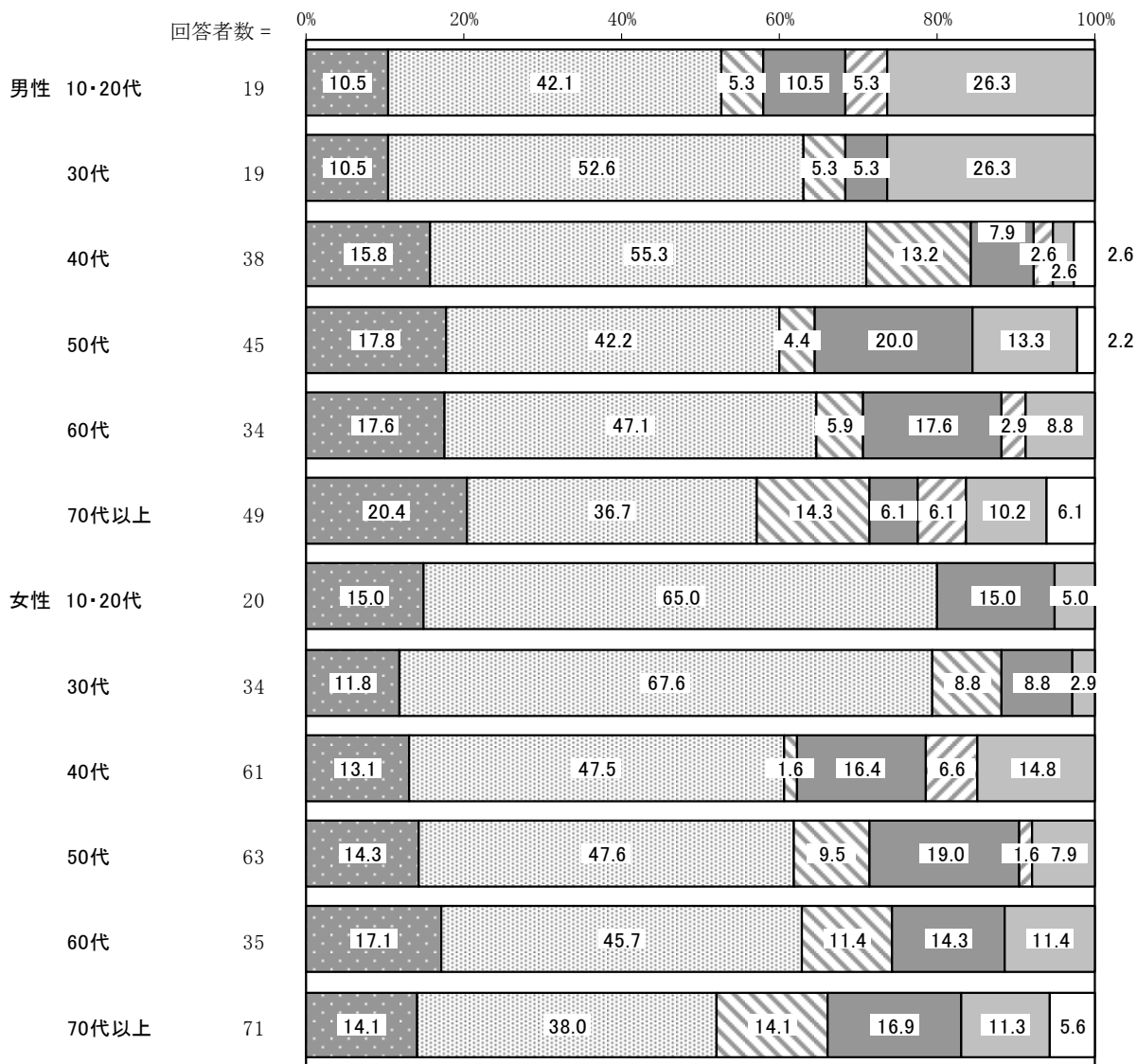
- これまでの知識や経験を生かして、正社員として働きたい
- 仕事と家事・育児・介護が両立しやすい環境で正社員として働きたい
- これまでの知識や経験を生かして、パート・アルバイトとして働きたい
- 働く時間や場所を考え、パート・アルバイトとして働きたい
- その他
- わからない
- 無回答



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の10・20代、30代で「仕事と家事・育児・介護が両立しやすい環境で正社員として働きたい」の割合が高く、6割半ばとなっています。

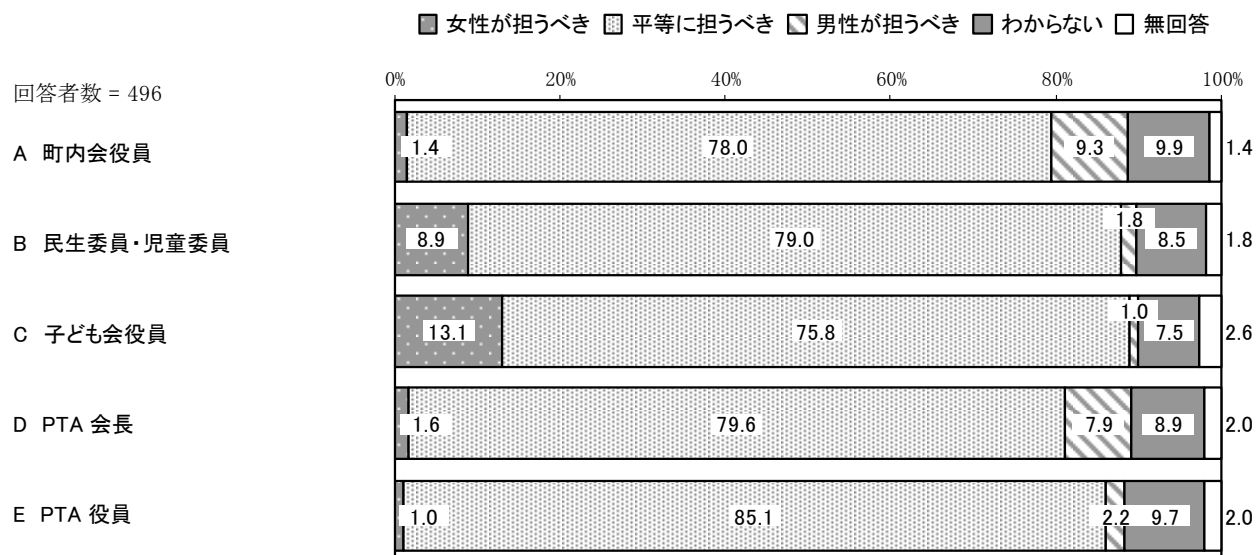
- これまでの知識や経験を生かして、正社員として働きたい
- ▨ 仕事と家事・育児・介護が両立しやすい環境で正社員として働きたい
- ▩ これまでの知識や経験を生かして、パート・アルバイトとして働きたい
- 働く時間や場所を考え、パート・アルバイトとして働きたい
- ▨ その他
- わからない
- 無回答



## 9 地域社会について

問 16 地域社会における役割は、男女どちらが担うべきだと思いますか。A～Eの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。

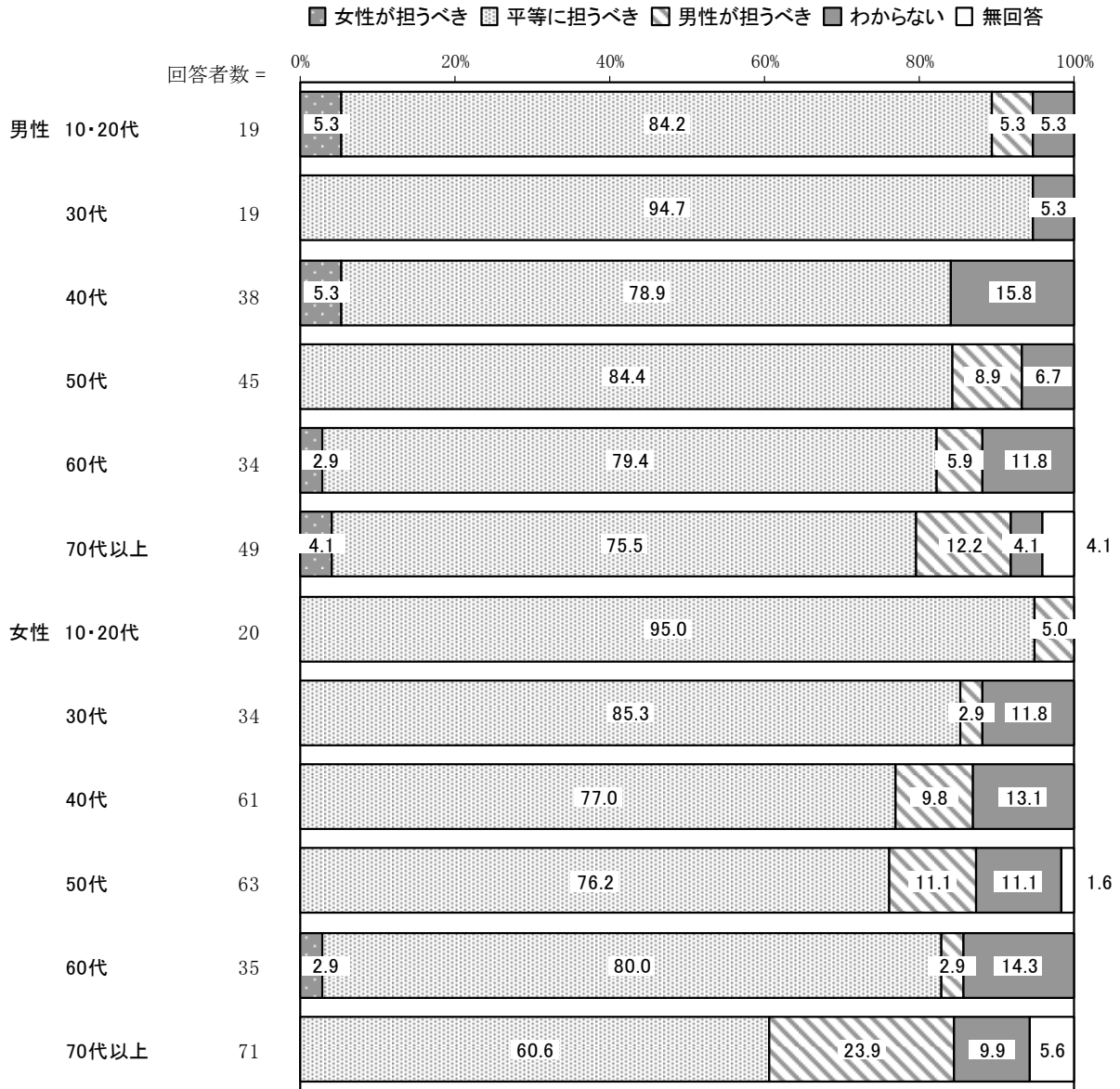
『C 子ども会役員』で「女性が担うべき」の割合が高くなっています。また、『E PTA役員』で「平等に担うべき」の割合が高くなっています。



## A 町内会役員

### 【性・年齢別】

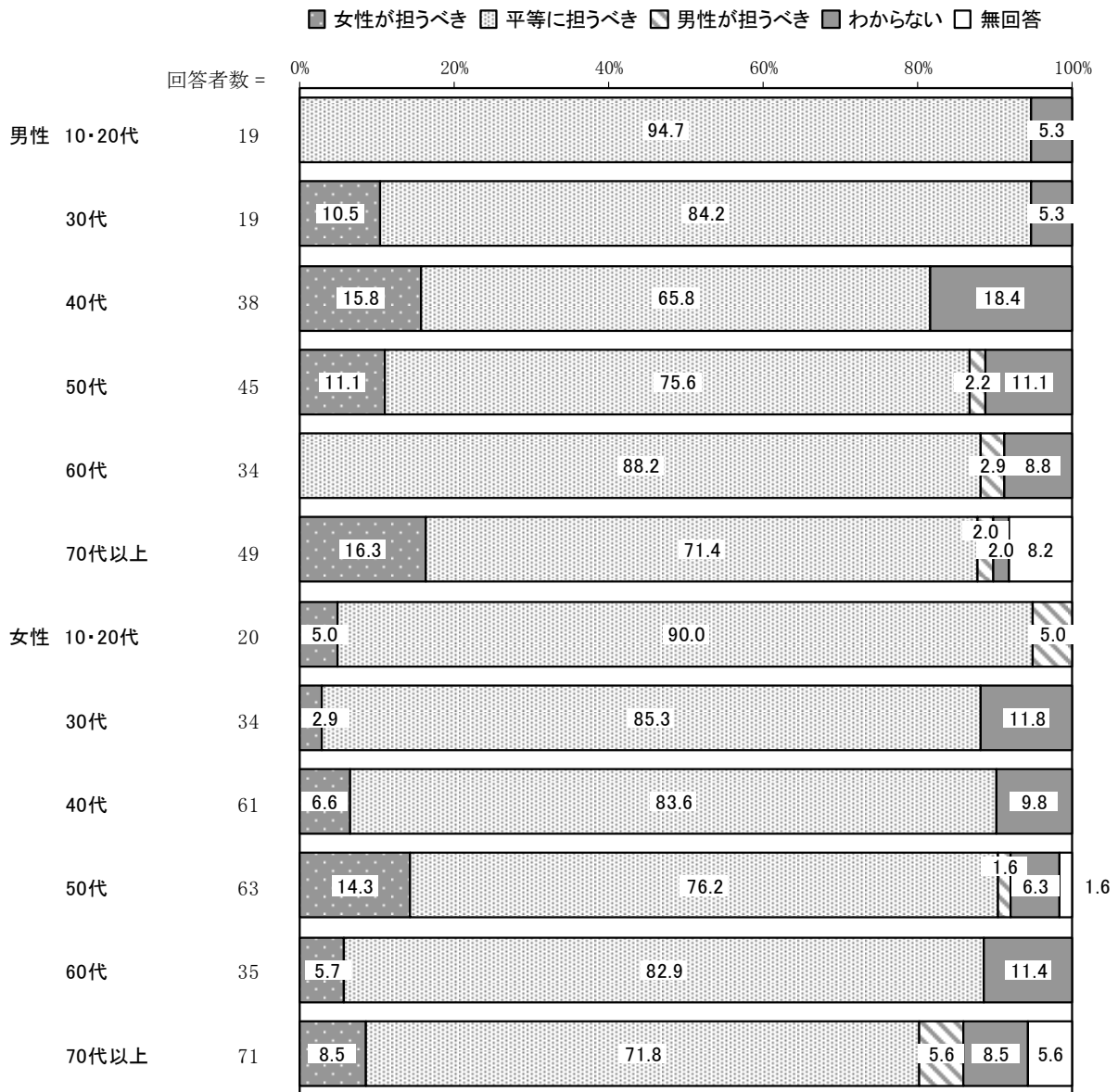
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の30代、女性の10・20代で「平等に担うべき」の割合が高く、9割半ばとなっています。



## B 民生委員・児童委員

### 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の10・20代で「平等に担うべき」の割合が高く、9割半ばとなっています。

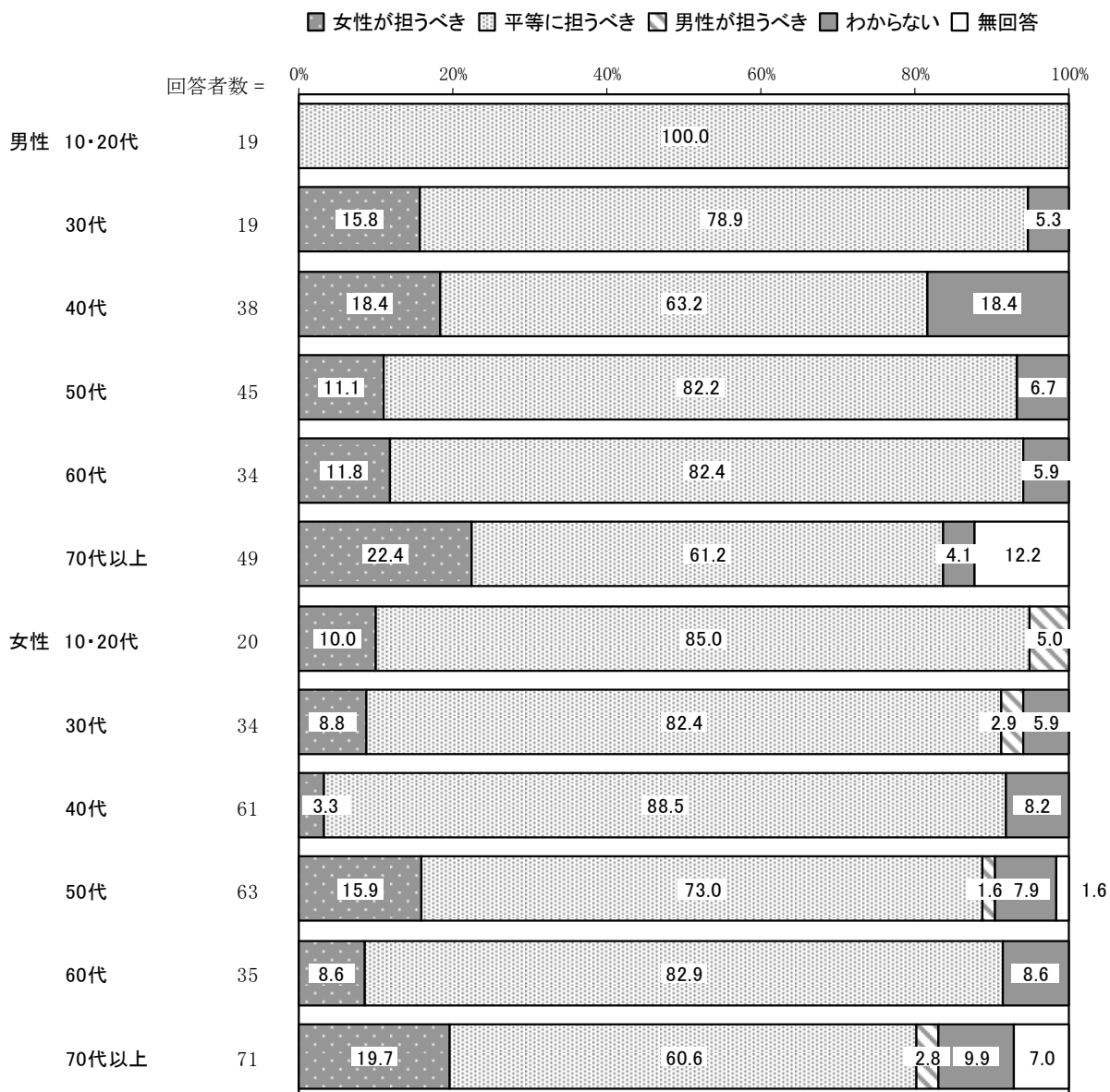




## C 子ども会役員

### 【性・年齢別】

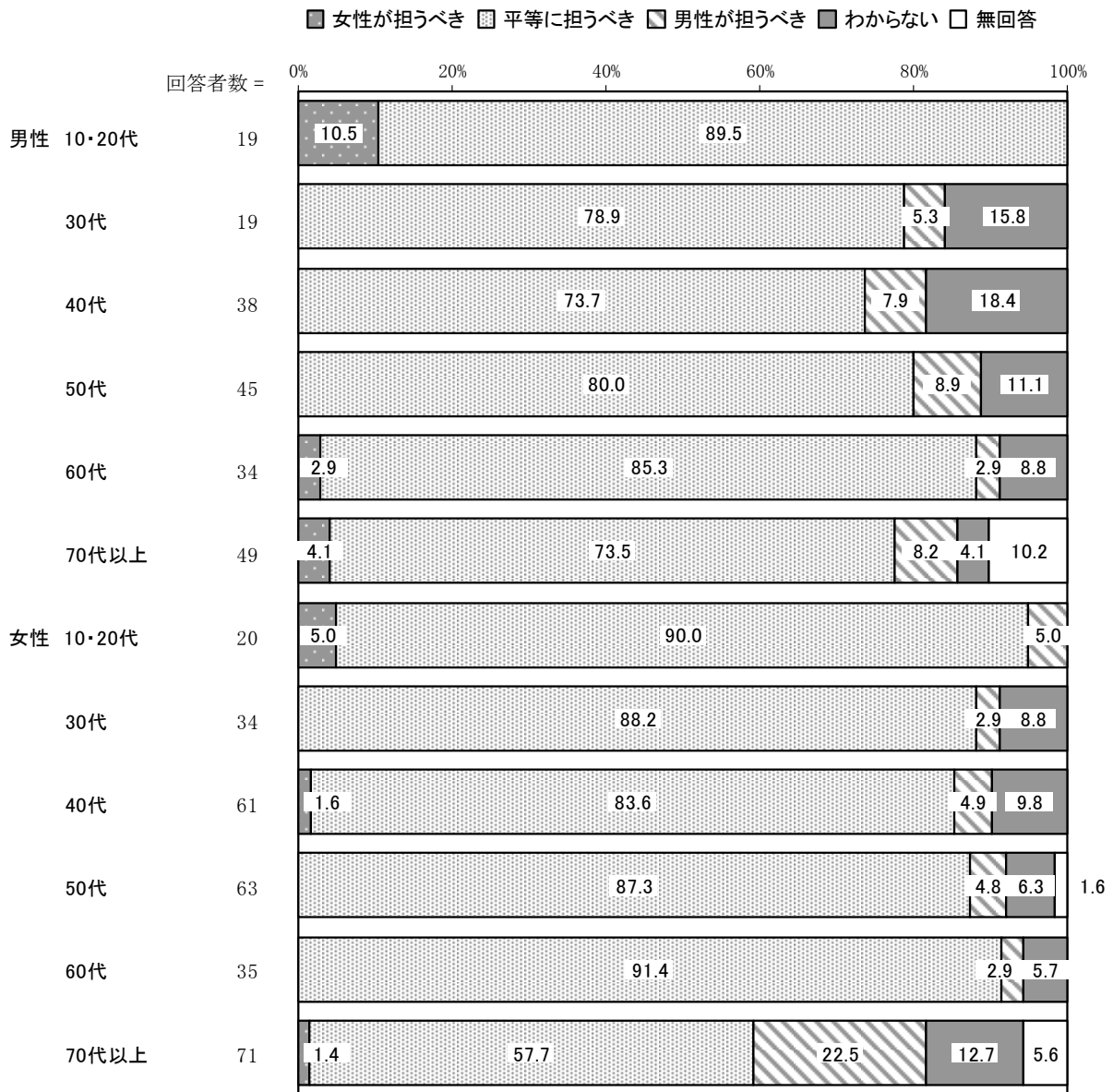
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の10・20代で「平等に担うべき」の割合が高くなっています。また、男性の40代、70代以上、女性の70代以上で「女性が担うべき」の割合が高く、約2割となっています。



## D PTA会長

### 【性・年齢別】

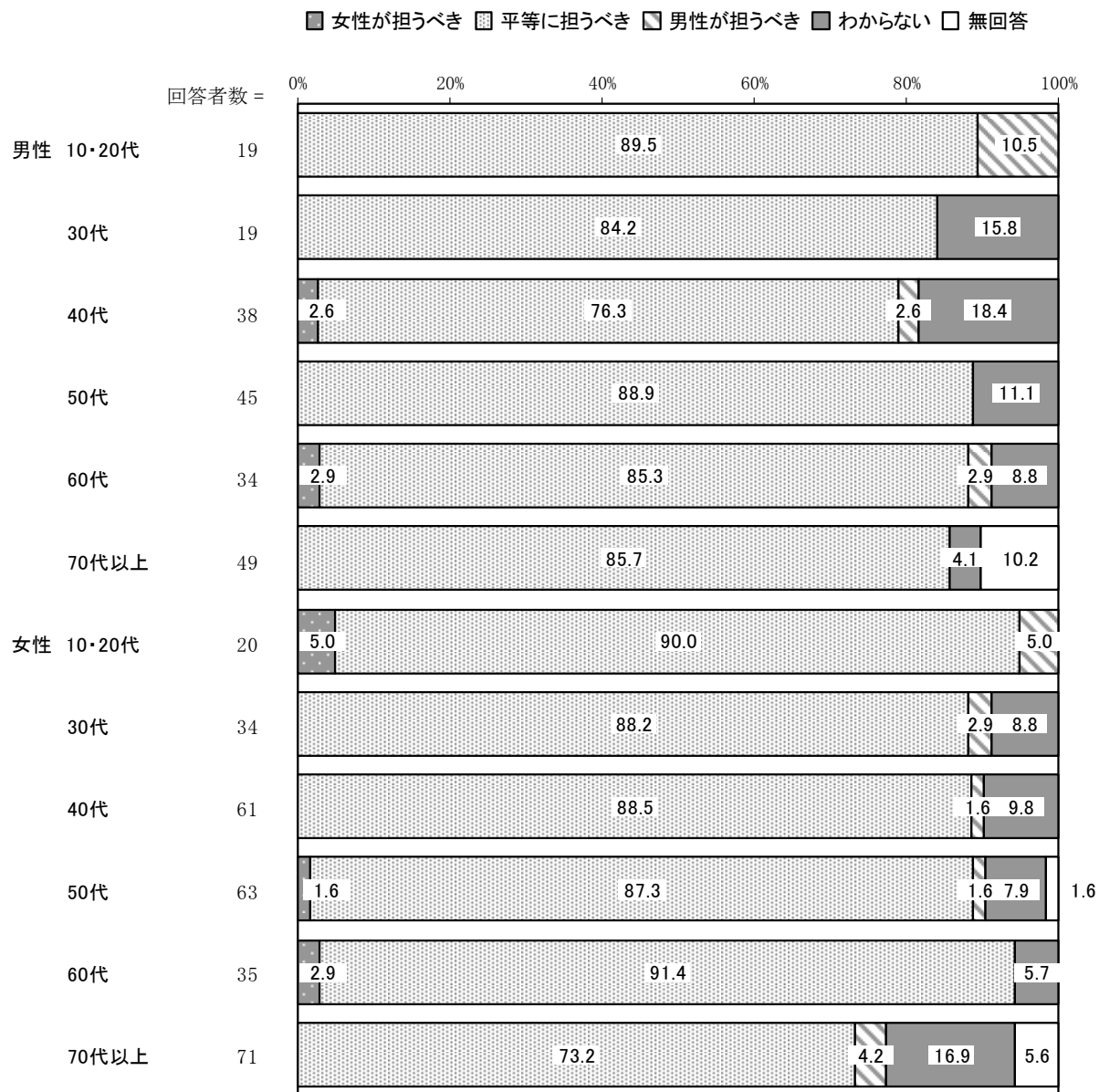
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の70代以上で「男性が担うべき」の割合が高く、2割を超えています。



## E PTA役員

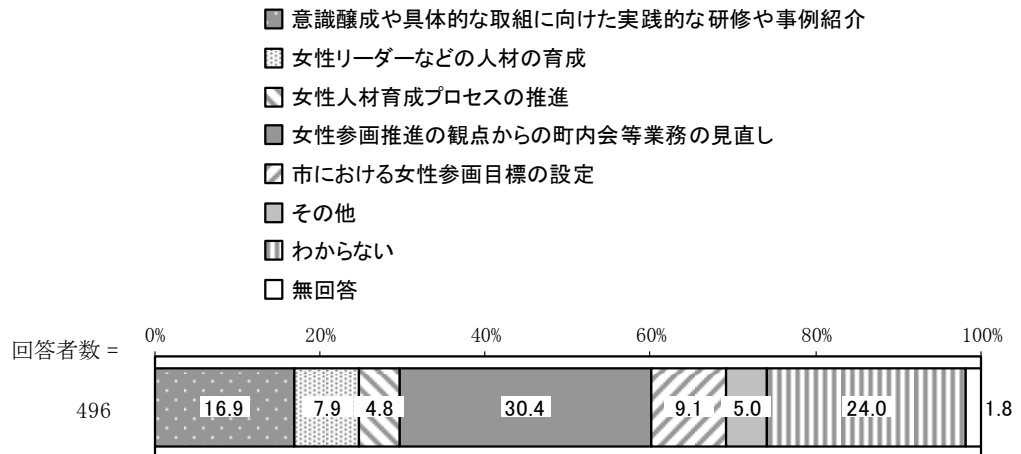
### 【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の10・20代で「男性が担うべき」の割合が高くなっています。



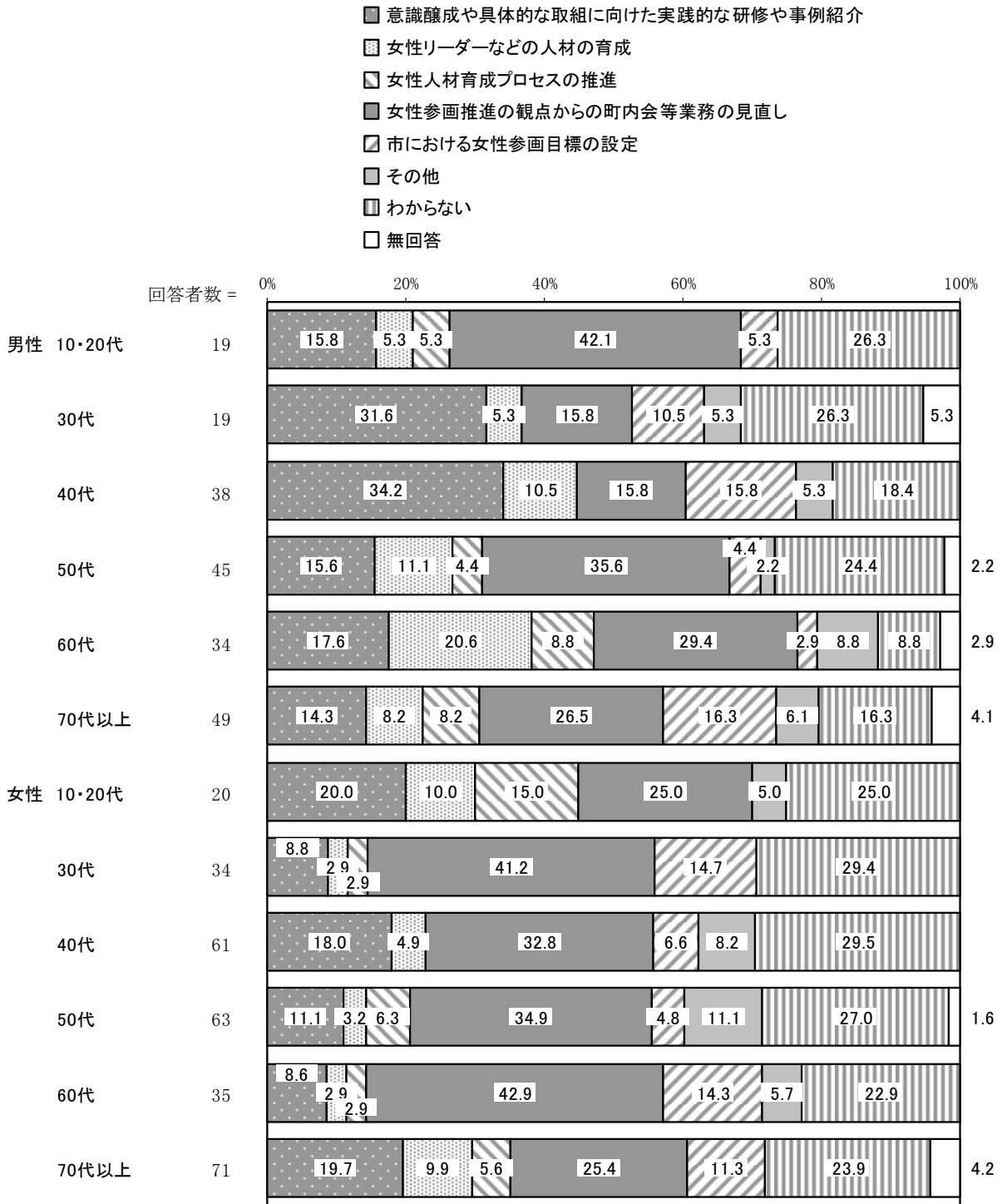
問 17 町内会等において女性が活躍するために、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

「女性参画推進の観点からの町内会等業務の見直し」の割合が30.4%と最も高く、次いで「わからない」の割合が24.0%、「意識醸成や具体的な取組に向けた実践的な研修や事例紹介」の割合が16.9%となっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の30代、60代で「女性参画推進の観点からの町内会等業務の見直し」の割合が高く、4割を超えています。また、男性の40代で「意識醸成や具体的な取組に向けた実践的な研修や事例紹介」の割合が高く、3割半ばとなっています。

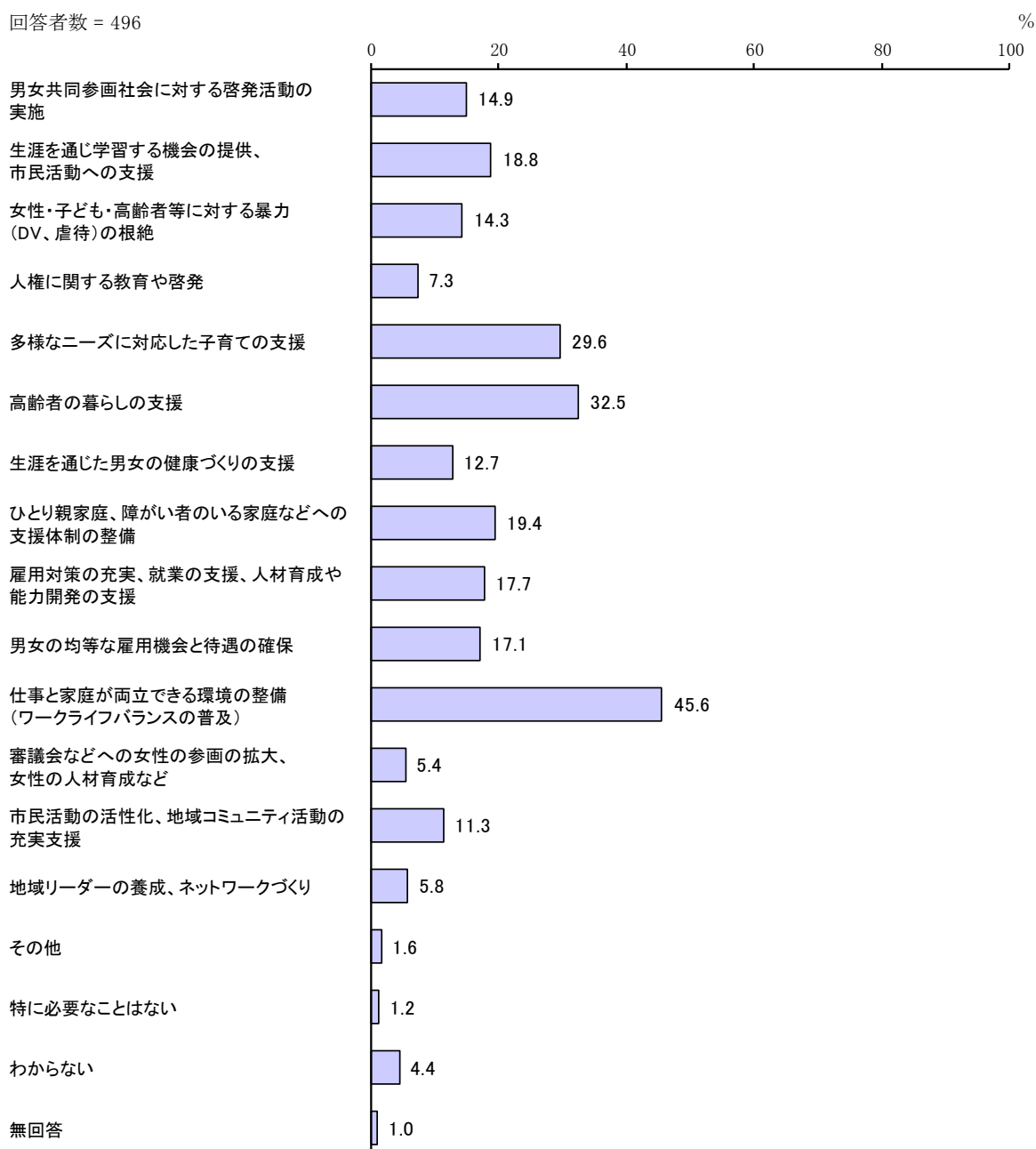


## 10 男女共同参画社会について

問 18 岩倉市男女共同参画基本計画では、男女共同参画社会の実現に向け、推進する施策の分野を以下のように定めています。岩倉市は今後どのような施策の分野に力を入れていくべきだと思いますか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。

「仕事と家庭が両立できる環境の整備（ワークライフバランスの普及）」の割合が 45.6%と最も高く、次いで「高齢者の暮らしの支援」の割合が 32.5%、「多様なニーズに対応した子育ての支援」の割合が 29.6%となっています。

回答者数 = 496



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の10・20代、女性の30代で「仕事と家庭が両立できる環境の整備（ワークライフバランスの普及）」の割合が高く、6割を超えています。また、女性の30代で「多様なニーズに対応した子育ての支援」の割合が、男性の10・20代で「男女の均等な雇用機会と待遇の確保」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	男女共同参画社会に対する啓発活動の実施	生涯を通じ学習する機会の提供、市民活動への支援	根絶 女性・子ども・高齢者等に対する暴力（DV、虐待）の	人権に関する教育や啓発	多様なニーズに対応した子育ての支援	高齢者の暮らしの支援	生涯を通じた男女の健康づくりの支援	ひとり親家庭、障がい者のいる家庭などへの支援体制の整備	雇用対策の充実、就業の支援、人材育成や能力開発の支援
男性 10・20代	19	5.3	5.3	10.5	5.3	52.6	21.1	10.5	26.3	10.5
30代	19	10.5	26.3	21.1	26.3	15.8	21.1	15.8	26.3	5.3
40代	38	10.5	7.9	15.8	—	39.5	18.4	18.4	23.7	21.1
50代	45	17.8	13.3	15.6	—	31.1	40.0	11.1	26.7	17.8
60代	34	14.7	29.4	11.8	5.9	17.6	44.1	5.9	17.6	17.6
70代以上	49	24.5	16.3	8.2	6.1	30.6	40.8	12.2	16.3	10.2
女性 10・20代	20	5.0	10.0	40.0	15.0	40.0	20.0	5.0	20.0	10.0
30代	34	8.8	8.8	29.4	5.9	55.9	20.6	5.9	17.6	20.6
40代	61	13.1	24.6	13.1	13.1	26.2	34.4	9.8	23.0	21.3
50代	63	15.9	17.5	11.1	6.3	33.3	28.6	7.9	11.1	27.0
60代	35	14.3	14.3	11.4	14.3	28.6	37.1	11.4	17.1	14.3
70代以上	71	18.3	33.8	9.9	4.2	12.7	36.6	25.4	18.3	15.5

区分	男女の均等な雇用機会と待遇の確保	仕事と家庭が両立できる環境の整備（ワークライフバランスの普及）	審議会などへの女性の参画の拡大、女性の人材育成など	支援 市民活動の活性化、地域コミュニティ活動の充実	地域リーダーの養成、ネットワークづくり	その他	特に必要なことはない	わからない	無回答
男性 10・20代	52.6	63.2	5.3	5.3	—	—	—	—	—
30代	5.3	36.8	5.3	15.8	5.3	10.5	5.3	—	—
40代	26.3	55.3	7.9	13.2	7.9	—	2.6	2.6	—
50代	6.7	44.4	6.7	6.7	—	2.2	2.2	6.7	—
60代	17.6	38.2	8.8	11.8	5.9	5.9	5.9	—	2.9
70代以上	16.3	30.6	4.1	24.5	8.2	—	—	2.0	6.1
女性 10・20代	30.0	55.0	10.0	—	10.0	—	—	5.0	—
30代	20.6	61.8	—	11.8	2.9	2.9	—	2.9	—
40代	16.4	45.9	3.3	1.6	1.6	1.6	—	4.9	—
50代	20.6	50.8	6.3	7.9	7.9	1.6	—	4.8	—
60代	17.1	42.9	8.6	5.7	14.3	—	—	5.7	—
70代以上	7.0	36.6	4.2	18.3	5.6	—	1.4	9.9	1.4